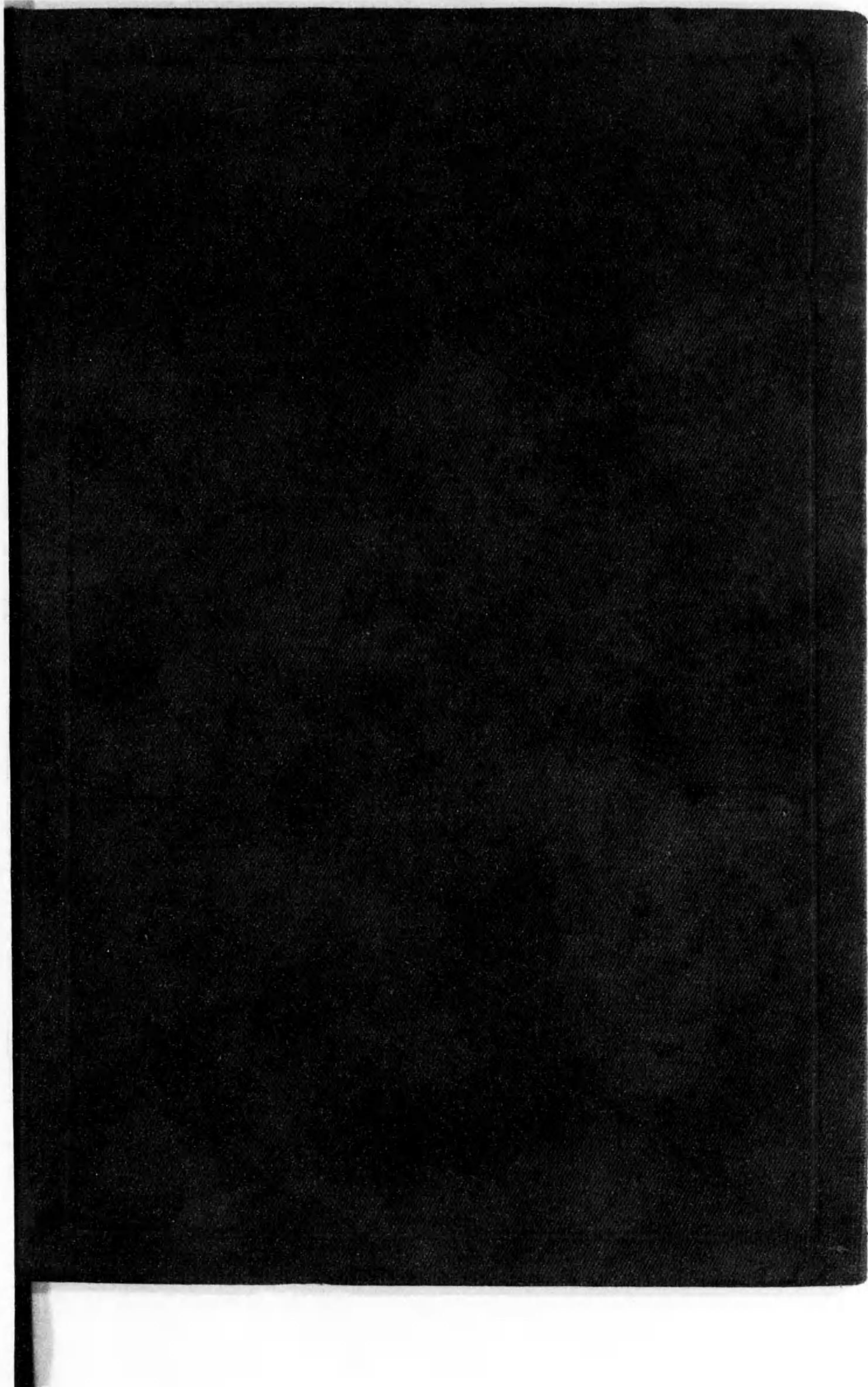


始



特205  
604

DAILY ENGLISH  
SELF-TAUGHT

誰にも  
分かる 初級英語の上達



バネラー・オブ・アーツ

明治大學教授

岡田實麿著



東京・大阪  
青々書院發行

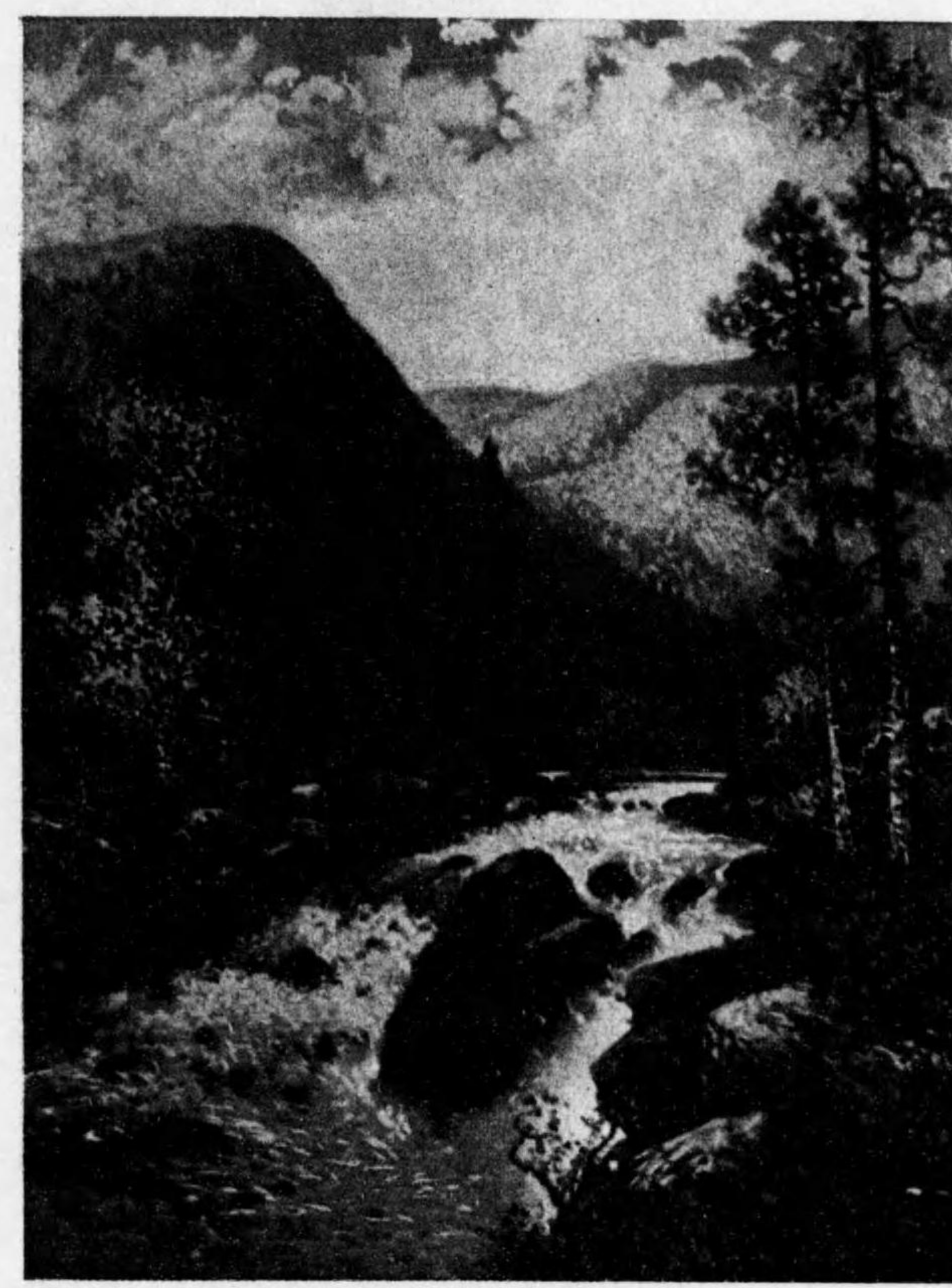


DAILY LIGHT

STILL-TIGHT

THE JOURNAL

THE JOURNAL



谿流 (A STREAM)

## 緒言

アジヤ<sup>アジヤ</sup>でも日本と支那<sup>しな</sup>とでは言葉<sup>ちが</sup>が違ふやうに、歐羅巴<sup>ヨーロッパ</sup>でも英國と佛國と獨國と露國<sup>ろく</sup>とでは、各<sup>おの</sup>その言葉<sup>ちが</sup>が異ふ。その他世界の國々によつて、言葉はそれぞれ異なつてゐる。しかし世界何處の國に行つても、英語さへ出来れば大抵の用事は辨ずることが出来る。此意味で英語は世界語であると云つても決して過言<sup>くわごん</sup>ではなからう。殊に、英語は英國の國語であるばかりではない。大戰後の世界に、英國と並んで一大勢力をなしてゐる亞米利加合衆國の國語も、またこの英語である。そして國際上の貿易では、英語以外の國語は用ゐないといふほでであり、又外交界の主なる用語も英語であるから、今後の青年は、いかなる方面に活動するにしても、或る程度までの英語は知つてゐなければ、とても成功することは出来ない。別して、新時代の實業家として立たうとする諸君は、どうしても英語の知識を備へてゐなければならぬ。全然英語の知識のない人は今日及び今後の我が國に於ては「常識のない人」と云つても過言ではない。即ち、英語を學ぶことは常識を増すことである。

そればかりではない。英語を勉強すれば、日本人がその生來の國語たる日本語を、正確に話す助けとなるのである。元來日本人は昔

から自分の思ふことを述べる時にはすべて書面にした、即ち文章によつたものであるから、なるほど文章は立派なものであつた。しかし口で喋る方、即ち言葉の方には極めて無頓着であつた。そのために文章は美しいが、言葉は極めて亂雑である。英語には日本の言葉のやうな亂雑なものはないから、従つて英語を研究すれば、自然われわれの國語である日本語をも極めて正確に話すことが出来るやうになる。即ち所謂一舉兩得であるから、諸君はその心掛けをもつて、まじめに勉強して貰ひたいものである。

特に諸君に注意をして貰ひたいことがある。英語はラテン語やギリシャ語、國語や漢文とは違つて、今日世界至るところで盛んに話されてゐる言葉、即ち生きた言葉であるから、單に書いたのを見て意味が解ると云ふだけでは餘り役に立たない。どうしても英文を綴り、英語を話すことが出来なければならぬ。一言で言へば、英語は實用的な英語でなければならぬ。ところが英語の發音は、いかなる國語の發音よりも不規則で、覚え難いものであるから、これから英語を習はうとする諸君は、この發音といふことを暫くも頭から離してはならない。委しいことは追々述べるが、先づその心掛けで貰ひたい。

卷末に主要なる外來語の表を附けてあるから、よく研究して暗記して貰ひたい。今日の日本では、無数の外來語(殊に英語)から來た

もの)が、新聞雑誌は勿論、日常人の談話にも用ひられてゐることは諸君の知つて居られるところで、英語や外來語を一つも知らなければ人の話も十分には分らず、本を讀んでもハツキリ理解することは出来ないのである。

昭和十二年五月

著者識す

誰にも  
分かる 初級英語の上達目次

緒言 .....	1
前編 発音及び綴字 .....	1
第一章 アルファベット .....	1
第一節 二十六文字の名称 .....	1
第二節 二十六文字の字體 .....	9
第二章 英語の發音 .....	13
第一節 母音の正音及び子音 .....	13
第二節 綴字の規則 .....	23
第三節 母音の發音及び Digraph .....	31
第四節 發音附說 .....	48
第三章 ローマ字五十音 .....	56
中編 英語教課 .....	60
第一課 .....	69
第二課 .....	78
第三課 .....	83
第四課 .....	92
第五課 .....	103
第六課 .....	116
第七課 .....	123
第八課 .....	139
第九課 .....	142
第十課 .....	161
第十一課 .....	170
第十二課 .....	179
第十三課 .....	186
第十四課 .....	193
第十五課 .....	203
第十六課 .....	210
第十七課 .....	218
第十八課 .....	223
第十九課 .....	224
第二十課 .....	230
第二十一課 .....	234
第二十二課 .....	237
第二十三課 .....	239
第二十四課 .....	246

後編 商業書簡文 .....	255
第一章 總論 .....	255
第一節 發信人の住所及び日附 .....	259
第二節 受信人の氏名及び住所 .....	264
第三節 書き出しの挨拶 .....	273
第四節 手紙の本文 .....	276
第五節 手紙の結末 .....	278
第六節 署名 .....	280
第七節 追餘 .....	286
第八節 同封物の事 .....	287
第九節 手紙の折り方 .....	289
第十節 封筒の認め方 .....	292
第二章 各論 .....	300
第一節 開業披露の文 .....	301
第二節 注文状 .....	303
第三節 同返事 .....	305
第四節 代金請求の文 .....	306
第五節 同返事 .....	309
第六節 受取證 .....	310
第七節 廣告文 .....	313
第八節 地位を求むる文 .....	316
第九節 履歷書 .....	318
附録 主要なる外來語 .....	

## 前編

## 發音及び綴字

## 第一章 アルファベット

## 第一節 二十六文字の名稱

日本語を學ぶには、先づ第一に「いろは」から始めなければならぬやうに、英語を學ぶには何よりも先きにアルファベット(Alphabet)を學ばなければならぬ。日本語は「いろは」四十八字、または「アイウエオ」五十音を色々に組合せて言葉が出来てゐるが、英語は Alphabet 二十六文字を様々に綴り合せて言葉が出来るのである。つまり英語の Alphabet 二十六文字は日本語の「いろは」四十八文字に相當する。

二十六文字と四十八文字とを比べて見ると、無論二十六文字の方が少いから、一寸考へると英語は日本語よりもずつと言葉の数が少いやうに思はれるが、實際は決してさうでない。英語は世界中のどの他の國語よりも遙かに多くの語を持つてゐて、思想の言ひ表はし方も一番變化に富んでゐる。それゆゑまじめに英語を學習しようと思ふものは、今から大きな覺悟が要る。しかし諸君が熱心に勉強されれば、この一卷の精讀練習によつて、先づ一通りのことは英語で辯ずるやうになれる筈である。

【註】「いろは」四十八文字又は五十音は、一字一音しか發音の仕

方がないけれども、Alphabet 二十六文字は、その中に四十三の音を含んでゐる。そして二十六文字の中の五文字〔c, q, x, w, 及び y) は、その他の二十一文字中のある文字の音を持つてゐるものであるから、實際は二十一文字だけで四十三音を持つてゐるといふことが出来るのである。

Alphabet といふ語は、二十六文字のうちの最初の二字をギリシャ語で讀んだもの、即ちアルファ(alpha)とベータ(beta)から出た言葉である。丁度日本で「いろは」四十八文字のことを略して「いろは」、「アイウエオ」五十音を略して「アイウエオ」と云ふのとよく似てゐる。それゆゑ Alphabet といふ代りに、A. B. C. と云つてもよい。

さて、この Alphabet 二十六文字とはどんな文字であるか。次に記して見よう。

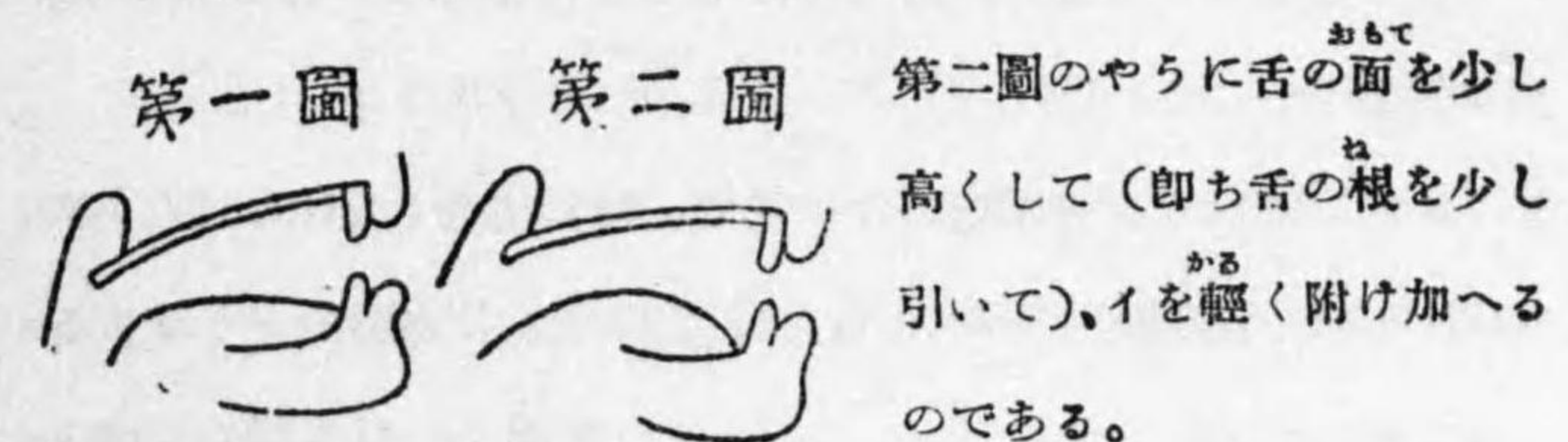
エイ	ビー	スイー	ディー		
a	b	c	d		
イー	エフ	ゲー	エッチ		
e	f	g	h		
アイ	ジー	クイ	エル	エム	エンヌ
i	j	k	l	m	n
オウ	ピー	グュー	アール	エス	ディー
o	p	q	r	s	t
ユー	ヴイー	ダブルユー	エックス	ワイ	ズイー
u	v	w	x	y	z

【註】二十六文字を上のように四、四、六、六、六、と列べたのは別に深い意味はないのであるが、左端の a, e, i, o, u は日本語のア、イ、ウ、エ、オ、に當り、母音を表はす文字であるから、二十六文字を配列するに、この母音を表はす五文字を各行の先頭に置いて、明瞭に解るやうにしたのである。

この二十六文字の名稱は、その文字の上に片假名で示してある通りであるが、日本語の音と英語の音とは自ら異つてゐるところがあるから、假名で示しただけでは甚だ不完全である。各文字の稱へ方について、簡単に説明して行かう。

Ⓐ (エイ) 日本語のエを心もち長く發音してその後イを加へる。つまり日本語のエイによく似てゐるが、エとイとを別々に發音しないで、エイと強く發音すべきである。ともすればエーとなり易く、又人によつてはイェーとなり易いから注意せられたい。

第一圖のやうに、舌を平たくして、喉から力を入れエの音を發し、



Ⓑ (ビー) 假名で示した通りビーと云へばよい。ビとイとを別々に發音してビ、イとなつてはならぬ。ビを引伸ばした音である。

Ⓒ (スイー) 日本語でスといふ時の口附をしてシーと云へばよい。



よくただのシーになり易いから注意しなければならぬ。c の音は舌の端を上前歯の根に近く引き上げて出さなければならぬ。

d (ディー) これは日本人が正確に発音することの困難な文字の一つである。日本の假名で表はした音は極めて不正確である。初學者はこの字を発音してデーと云つたり、ヂーと云つたり、またドーと云つたりするのが常であるから注意を要する。



第三圖 即ち圖のやうに、舌端を上前歯の根につけて置いて、力を入れてデー又はヂーといふ拍子に、舌を引き離すとこの字の正しい音が出るのである。日本人には発音しにくい音であるから、十分練習して置かなければならぬ。

e (イー) 日本語のイー又はイイと殆んど同じ音である。『六ヶ敷い』のイを少し引き延ばした音で、舌面を少し高くして、喉からイーと長く発音すればよい。東北地方のイとエを混同する人の外は格別に練習もいるまい。

f (エフ) これは亦日本語にない音で、特に注意しなければならぬ。エは日本語の普通のエでよいが、フになつて、日本語のフとはまる



甲第四圖



乙第四圖

で異ふ。日本語のフは上下の唇を合せて、その間から出す音であるが、f のフは第四圖甲及び第四

圖乙に示すとほり、上前歯を下唇につけて、その歯と唇の間から、物を吹き拂ふ時のやうに軽くフと發音するのである。日本語のフは發音學では唇音と云つてゐるけれど、f のフは純粹の唇音ではない。

g (ジー) この文字が他の文字と組合される時には發音の上で注意しなければならぬことが多少あるが、この文字だけの稱へ方は日本人にもさほどむづかしくない。ただ普通にヂーといふつもりで、少し口を左右から引きすぼめて強く發音すればよい。

h (エイチ) a のエを短かく云つて、それにチを附け加へればよい。日本語のハヒフヘホの音の素である。チはgのヂの時のやうに口をすぼめて強く發音する。

i (アイ) 日本語のアイによく似た音であるが、アイを鋭く且つ早く發音するのである。アを發音する時には、口を十分に開けて喉から聲を出すやうにし、イは極く軽く短かく云はねばならぬ。

j (ジェイ) 喉の奥から勢を強めてヂェと云ひ、そのあとですぐに軽くイをつけ加へるのである。ゼイと云はぬやうに御注意。

k (ケイ) 力をこめてケと云ひ、すぐ後でイを軽くつけ加へるのである。ケー又はケイーではない。

l (エル) このエは日本語の普通のエであるが、ルは日本語にはない音で、日本人には最も發音の困難な音の一つであるから、十分研究しなければならぬ。圖のやうに舌端を上方に曲げて、上顎の前

## 第五圖



齒の根元に附けたままで、息を舌の両側から洩らすとこのルの音が出る。一寸でも舌を上顎から離すと日本語のル、ラリルレロのルになつてしまふから、十分に注意して練習せられたい。

支那人のルは殆んどこのlのルであるが、日本人には頗る困難である。

**m (エム)** 普通にエムと云へばよいが、只ムといふ時に唇を十分に結んで、息を鼻から洩らさねばならぬ。餘りに力を入れるとムウとなり易いから、軽く息を漏らすことに注意して欲しい。

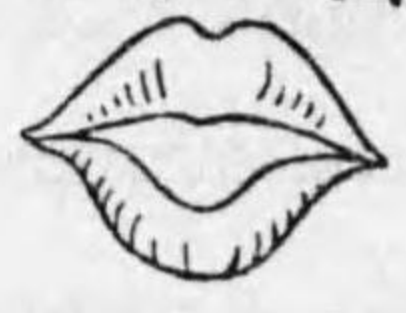
**n (エヌ)** 力をこめてエンと云つて、すぐヌとつけ加へるのであるが、このヌを云ふ時には、舌端を上顎の前歯の根元につけたままで鼻から息を漏らす(第五圖参照)ので、唇を動かしてはならぬ。

**o (オー)** 舌の根を十分に引いて、強くオーと云ひながら、次第

## 甲第六圖



## 乙第六圖



に口を結ぶ音であるが、日本人にはよくオー、又はオオと云ふ癖があつて、この音が軽くなり勝ちであるから、この音も相當に練習を要する。即ち第六圖甲のやうな口附でオと初めて、次第に第六圖乙のやうに口を丸く狭めて前方につき出してウを加へるのである。

**p (ピー)** プイーでもないが、ピーでもない。その間の音とも云ふ

べきもので、bを發音する時のやうに、ピと云ふ前に唇を閉ぢて置いて、急に兩唇を開け放つとこの音の正しいものが出る。

**q (キュー)** キューキューと物の擦れる音とは少し異つてゐる。寧ろキューと云ふつもりで、キを強く強くやうに云つて、ユを軽くつけ加へるのである。

**r (アール)** アルではない、アールである。何處までも口を廣く開けて力をこめてアーと云ひ、すぐにルをつけるのであるが、このルはlのルとは異つて、日本人にも割合に發音し易い。しかし日本語のルと全然同じものではない。ルと云ふ時に舌を少し巻き上げる心持にして、舌端を震はせる。つまり江戸っ子の巻舌の氣持で發音するのである。

**s (エス)** 假名の通りエスと早く續けて發音すればよい。

**t (ティー)** 既にdの發音を覺えたものはこれは容易に發音することが出来る。dとtとは濁音と清音との相違である。dはヂーと濁るが、tは清音であるからチーと濁らないのである。然し初めて英語を學ぶものには、dと同様に發音のむづかしい文字であるから、よく練習せられたい。(第三圖参照)

**u (ユー)** ユーと云ひながら次第に口を結ぶ。つまりユーの心持で十分に押へつけて發音すればよい。決して口を開けつ放しにしてユーと云つてはならぬ。

**v (ヴァー)** これも日本人には發音しにくい音の一つであるが、諸

君は既に <sup>すで</sup> <sup>エフ</sup> f の発音の練習をせられた筈であるから、さほどむづかしくはない。v は <sup>ヅキ</sup> <sup>エフ</sup> <sup>だくおん</sup> f の濁音であるから、<sup>にこ</sup> フの濁つたものである。しかし <sup>エフ</sup> f の處で述べたやうに、<sup>エフ</sup> f のフは日本語にない音であるからその濁音を <sup>だくおん</sup> プといふ文字では表はすことが出来ない。そこで日本語にはない文字ではあるけれども、假りに <sup>ヅ</sup> ヅを用ゐるのである。<sup>エフ</sup> f のフは上齒を下唇に押しつけたまゝで息を吹くやうにするのであつたが、その息を聲にして出すつもりで発音すれば自づと <sup>おの</sup> <sup>ヅキ</sup> v のヴの音が出る。そのヴの後へ早く <sup>い</sup> イーを付け加へればよい。言ひ換へれば、<sup>うは</sup> <sup>したくちびる</sup> 上齒を下唇に押しつけたまま <sup>びー</sup> ビーと云へばよいのであるが、<sup>ヅキ</sup> <sup>びー</sup> v と <sup>べー</sup> b とは音の性質が全く異つてゐるから、この二文字を混同してはならない。<sup>びー</sup> b は兩唇を接觸させてこれを急に開く時に發する音で日本語の <sup>だくおん</sup> フの濁音であるが、<sup>ヅキ</sup> <sup>エフ</sup> <sup>だくおん</sup> <sup>うは</sup> <sup>へは</sup> v のヴは <sup>したくちびる</sup> f の濁音で上齒と下唇とを用ひなければ出ぬ音である。(第四圖参照)

**W (ダブルー)** あまり大きく口を開けずに、力を入れてダと云ひ、その次にブルを軽くつけ加へ、またその次に <sup>うー</sup> u の音即ち <sup>こー</sup> コーをつけ加へたものである。この文字は元來二重の <sup>うー</sup> u の意味で <sup>ダブル</sup> double は英語の『二重の』といふ意味である。最初のダに力を入れることを忘れてはならぬ。

**X (エックス)** エツと強く云つて、その次に軽く早くクスとつけ加へるのである。クスはク、ス、と切り離さずに一口に言つてしまふ。

**Y (ワイ)** 假名の通りワイとつづけて發音すればよいが、日本語

のワとこの文字のワとは少し異ふ。<sup>ワイ</sup> y のワはウに近い音のワであるから、正確にこの文字を稱へようとするには、上下の唇を前の方に突き出して置いて、それを急に後に引きながら、激しく發音しなければならぬ。

**Z (ズイー)** <sup>スイー</sup> <sup>だくおん</sup> c の濁音であるから、既に <sup>すで</sup> <sup>スイー</sup> <sup>はつおん</sup> c の發音を練習した諸君には容易に出来る筈である。この文字をズイーと稱へるのは、<sup>べいこく</sup> 米國流で、<sup>えいこく</sup> 英國ではゼッド、又はゼットと稱へて居る。世間にはゼットと思はれて居るが、元來英語にはゼットといふ音はないのであるから、ズイーと稱へるのがよいと思ふ。

## 第二節 二十六文字の字體

第一節に於て、二十六文字即ち <sup>アルファベット</sup> Alphabet の稱へ方だけは分つた次第である。この二十六文字が色々な組合されて初めて言葉といふものが出来るので、丁度日本語の「いろは」だけでは言葉にならないのと同様、二十六文字だけでは實際の役には立たない。然し <sup>アルファベット</sup> Alphabet の稱へ方を正確に知つて置くことは、英語の發音の基礎であつて、發音の不正確な英語は役に立たないから、前節に記したことは十分練習して置いて貰ひたい。

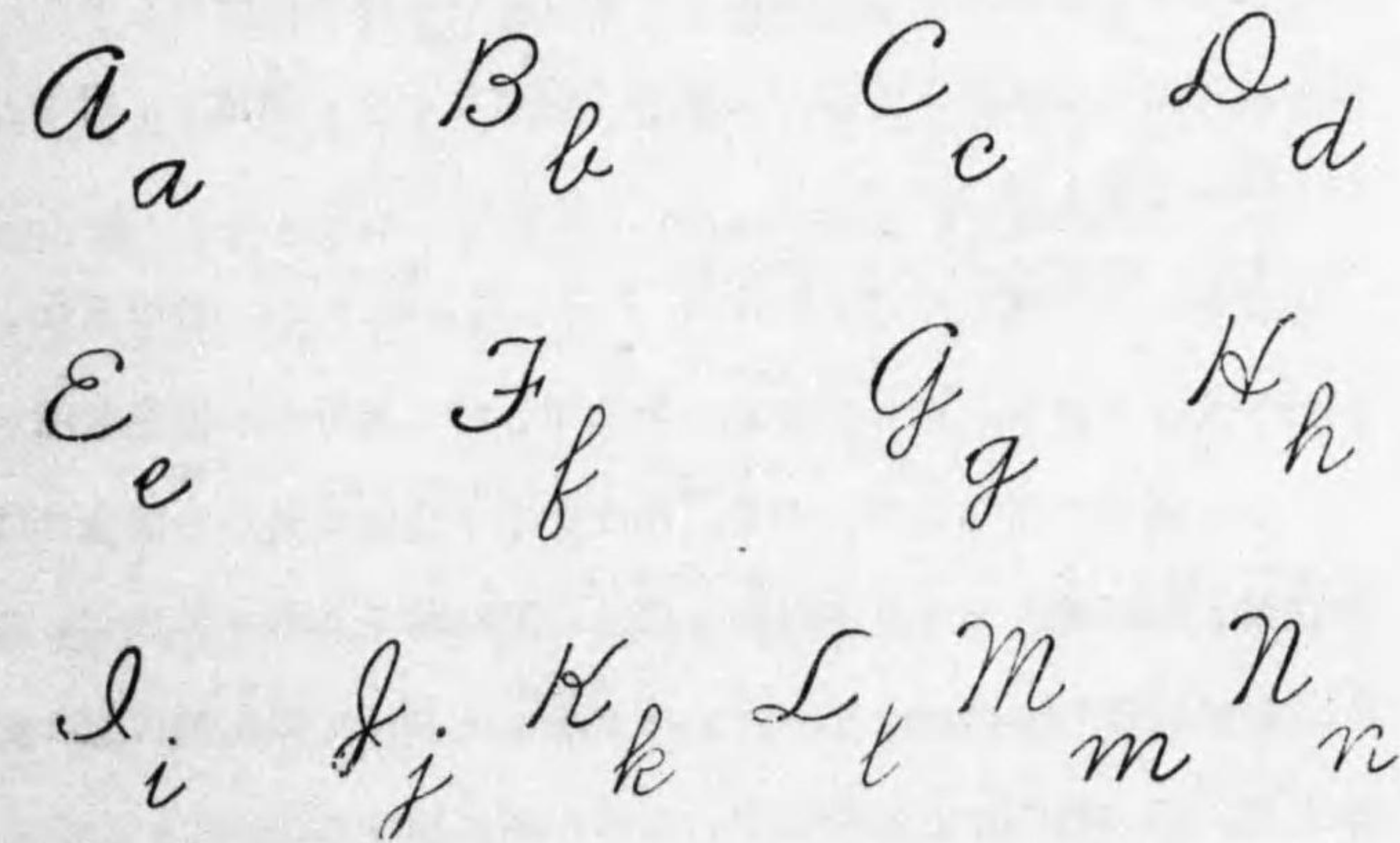
さて日本語の假名や漢字はその遣ひ處によつて形が異なることはないが、英語の <sup>アルファベット</sup> Alphabet は用ひどころによつて二つの異つた形を使ふことになつてゐる。一方は小文字で、これは前節に記した文字で

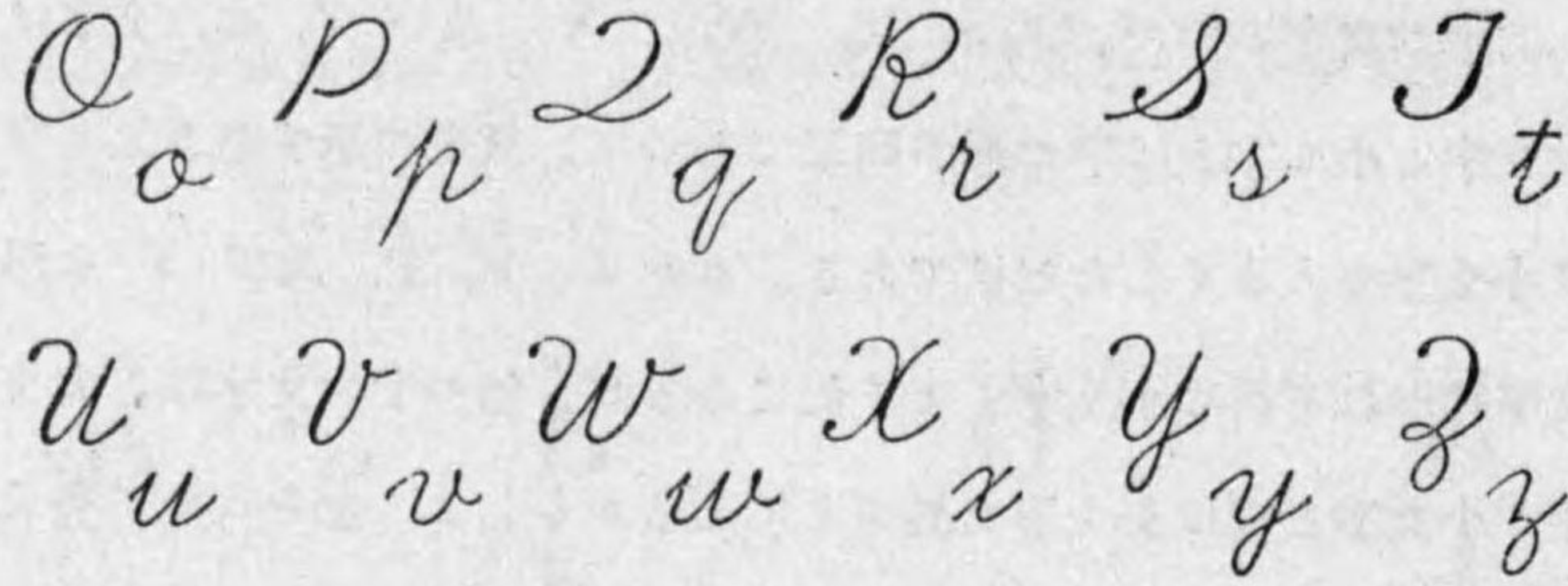
ある。一方は大文字と云ふ。比較のために大文字と小文字を並記する。

<sup>エイ</sup> À	<sup>ビー</sup> B̄	<sup>シー</sup> Ċ	<sup>ディー</sup> Ḍ		
a	b	c	d		
<sup>イー</sup> È	<sup>フー</sup> F̄	<sup>ゲー</sup> Ḡ	<sup>ヒー</sup> H̄		
e	f	g	h		
<sup>アイ</sup> Ì	<sup>ジェー</sup> J̄	<sup>ケー</sup> K̄	<sup>エル</sup> L̄	<sup>エム</sup> M̄	<sup>エヌ</sup> N̄
i	j	k	l	m	n
<sup>オー</sup> Ō	<sup>ピー</sup> P̄	<sup>キュー</sup> Q̄	<sup>アール</sup> R̄	<sup>エス</sup> S̄	<sup>ティー</sup> T̄
o	p	q	r	s	t
<sup>ユー</sup> Ū	<sup>ヴー</sup> V̄	<sup>ダブルユー</sup> W̄	<sup>エックス</sup> X̄	<sup>ワイ</sup> Ȳ	<sup>ズー</sup> Z̄
u	v	w	x	y	z

二十六文字の中で、<sup>オー</sup>O, <sup>エス</sup>S, <sup>ヴー</sup>V, <sup>ダブルユー</sup>W, <sup>エックス</sup>X 及び <sup>ズー</sup>Z の六文字は大文字と小文字とは字の形が同じであつて、<sup>ただ</sup>只名の示す通り大文字は小文字を大きくしただけである。また <sup>シー</sup>C, <sup>ケー</sup>K, <sup>ピー</sup>P, 及び <sup>ワイ</sup>Y の四文字はそれぞれの小文字とよく似てゐるが、他の十六文字は、大文字と小文字とでは全く形を異にしてゐるから、よく<sup>ねん</sup>念を入れて<sup>おぼ</sup>覚えて<sup>もら</sup>貰ひたい。

以上に記した<sup>じたい</sup>字體は、大文字も小文字も、<sup>いんさつたい</sup>印刷體と云つて、<sup>しょもつ</sup>書物その他<sup>たいんさつたい</sup>印刷物に用ゐるのである。日本語なら<sup>かいしよたい</sup>楷書體といふところであるが、日本語でも<sup>てがみ</sup>手紙やその他<sup>めつたじ</sup>手で書く時には<sup>かいしよたい</sup>滅多に<sup>めつたじ</sup>楷書體を用ゐずに、<sup>きうしよたい</sup>草書體又は<sup>ぎやうしよたい</sup>行書體を用ゐるが、英語でもさうである。英語では<sup>いんさつたい</sup>印刷體で書くことは<sup>ほと</sup>殆んどなく、<sup>じつさいもの</sup>實際物を書く時には<sup>ひつさ</sup>筆記體といふ文字を用ゐるのである。<sup>ひつさ</sup>筆記體の文字は次の通りである。





印刷體の文字さへ知つてゐれば書物を読むには差支ないが、筆記體の文字を覚えてゐなければ、手紙一つ書くことも、自分で何一つ書くことも出来ないから、苟くも英語を學ぼうとする諸君は、どうしても筆記體の文字を知つて置かねばならぬ。最初はむづかしいやうでも少し根氣よく練習すればすぐ書けるやうになるものであるが、やはり一定の習字帳によつて稽古をしなければならぬ。

筆記體は印刷體とは異つて、その書き方には種々流儀があるが、私は大文字と小文字との形がなるべく違はないで、簡単な、書き易いものがよいと思つてゐる。

印刷體、筆記體の外に、Italics と云つて、a b c のやうな、斜體の文字がある。これは印刷した上で、特に讀む人の注意を惹かうとする場合に用ゐる形である。なほ文字を裝飾に用ゐる場合には印刷體、筆記體とも大文字を種々様々な形に書くことがあるが、これは諸君は覺える必要はない。また Print と云つて印刷體に似た文字を態々手で書くこともあるが、これも別に知る必要はない。

## 第二章 英語の發音

### 第一節 母音の正音及び子音

前章で Alphabet 二十六文字の字形と名稱は分つた筈であるが既に述べた通り、英語の言葉はこの二十六文字を色々に組合せて出来てゐるのであるから、文字の稱へ方が分つただけで、その文字の組合せ方と組合せた言葉の發音の仕方を學ばなければ、英語の發音は出来ない。たとへばここに boy (男兒) といふ三字の組合せがあつても、これを何と發音してよいか分らぬ。

順序から云ふと、前章に述べた母音即ち a, e, i, o, u で表はすすべての正しい發音から説明して、それからその他の二十文字によつて表はされる子音のすべてを正確に講義すべきであるが、それではむづかしくなるから、本書では實際主義を取つて、今は母音の主なる音と子音とを述べ、それから後の節で更に進んで詳しいことを研究することにする。

#### a エイ・ア

先づ a はこの二つの音を表はす文字と考へて置いて貰ひたい。そのうちエイの發音は前章に於て詳しく述べた通りで、文字の稱へ方と全然同一である。今一つのアの方は、正確に云ふとエとアと

の中間の音で、アの前にエを加へてむしろエアと書き表はすべきであるが、それでは煩雑になるので、普通アで表はして置く。このアの音を正確に発音するには、舌端を少し後の方へ引き、下顎全體と下唇をも後へ引いてアと云へばよいのである。このエイとアの二音は a の持前の音、即ちその正音と云つてもよいもので、發音學ではエイを o の長音、アを a の短音と云つてゐる。エイの時は ā といふ符號をつけ、アの時は ä といふ符號をつけて表はすのである。

### e イー・エ

この e も幾つかの音を表はす文字であるけれども、今は矢張り二つの音、即ちイーとエとを表はすものと假に考へて置いて貰ひたい。このうちイーの方は前章で述べた文字の稱へ方と全然同一で、これを e の長音と云ひ、符號は ē である。エは e の短音で ě の符號で表はすが、このエの音を正確に發するには、エーを半分云ふつもりで、ă を發音する時よりももつと口を開いて、舌を平たくして發音しなければならぬ。しかし普通はエーの短かいものと心得てよい。

### i アイ・イ

ここでは i の長音即ちアイと、その短音イだけ覚えて置けばよい。長音は ī の符號で表はし、前章で述べた文字の稱へ方と同一である。短音には ĭ の符號を用ゐる。これは ĩ の短かいものと思

へばよいが、正確に云ふと、ē を發音する時よりも心持舌を平たくする必要がある。特に日本人には、この i の短音と e の長音との區別をはつきりしない弊があるから注意を要する。

### o オッ・オ

この文字にも幾つかの音があるけれども、茲ではやはり二つだけ即ち ō で表はす長音オツと、o で表はす短音オと覚えて貰ひたい。長音は前章の文字の稱へ方と同一であるが、短音のオは、喉を圓く開く心持で、口を十分開いてオツと云ふ時の音である。一口に云へば ō の短かいものであるが、o の時よりももつと口を開けるといふことが肝要で、喉から物を吐き出すやうに發音しなければならぬ。また決してアではないから注意を要する。

### u ユー・ア

この文字も幾つかの音を表はすが、その長音ユー ū と短音ア ũ だけを知れば差向用は足りる。ū の音はその文字の稱へ方と全然同一であるが、ū の音は實は日本語にはない音である。これは日本語のアを發音する時ほど口を開けずに、舌の根を引き上げてアツと云へば ū に近い音が出る。つまりアともオともウともつかないやうな一種の混音である。むづかしいことは兎に角として、アの輕いものと心得て置けばよろしい。

【註】 今までの説明によつて母音の長音といふものが、ā, ē, ī, ū, ē, ĭ, ě, ū, ũ

アイ オウ ユー  
i, o, u, 五つとも、その文字の稱へ方と全然同一であることが分つたであらう。それ故この節で諸君が特に注意すべきは母音の短音である。母音には今まで習つた通り長音と短音との區別があるが、抑も母音は一度これを發音して肺臟から空氣を送り出せば、これをいかに長く續けても音を變じないものであるから、長母音と云ひ短母音と云ふも、たゞ比較的な言葉であつて、その間にはつきりした區別は出来ない。つまり a の表はす音にしても、 $\bar{a}$  及び  $\bar{a}$  の外に五つ乃至七つの音を區別することが出来る次第であるが(之らの音については何れ後節で述べる)發音學では(一)の符號をつけるべきもののみを長音と云ひ、(二)の符號で表はすべきもののみを短音と云ふことになつてゐる。

日本語の五十音のうちアイウエオを除くの外は、何れの音もこれを永く續けて發音すれば、その音は永く續かず、途中で必ず他の音に變ずるものである。例へばカの音をカ……と長く引くと途にはアに變じ、ムを長く續けて發音するとウに變ずる。こんな風に、後に残る音は必ずアイウエオの五音の中の一つである。これに反してアイウエオの母音ならば、いくら長く引いて發音してもやはり アー、イー、ウー、エー、オー、である。そこでアイウエオは五十音の母音である。その通りの理窟で、英語二十六文字で表はす音のうち、 $\bar{a}$ ,  $\bar{e}$ ,  $\bar{i}$ ,  $\bar{o}$ ,  $\bar{u}$  の表はす音は母音で、英語には父音といふべきものはないから、他はみな子音である。

母音の特色は、發音に際して口を平たくしたり、尖らしたり大きく開けたり細く窄めたりはするけれども、喉から出てくる音が舌や齒や唇のために遮断されたり、摩擦されたりすることなく、たやすく出て來る音であつて、しかも聲帯と云つて、聲の出る器管に響く音であるから、發音學では有聲音と名づけてゐるものである。日本語の音はみな有聲音である。英語の音には無聲音もあるが、このことに就ては後に述べる。

英語の言葉(單語)はどんな單語でも、必ず少くも一つの母音を含んでゐるものである。言ひ換へれば、母音がなくては言葉は出来ないのである。然るに子音のない語は極めて稀ではあるが少少ある。其故母音は特に身を入れて研究して置かなければならぬ。

今まで母音の長音と短音に就て學んだところを表にして見よう。

母音	[長音]	$\bar{a}$	$\bar{e}$	$\bar{i}$	$\bar{o}$	$\bar{u}$
	[短音]	$\bar{a}$	$\bar{e}$	$\bar{i}$	$\bar{o}$	$\bar{u}$

これで母音は済んだから、これから子音に就て述べよう。

### b プ

普通日本假名のプで表はす。この音は日本語のバビブベボの原音であるが、正確にこの音を出すには、口を開けず兩唇を結んで置いていざ發音するといふ時に急に開くことが肝要である。

## c ク・ス

この文字はクとスの二音を表はす。クの時には *e* の符號を用ゐることもあるが、本書では別に符號を用ゐず、*c* の儘で表はすことにする。スの時には *ç* の符號を以て表はす。

## d ド

この音は、日本人には稍發音しにくい。前章でこの文字の稱へ方が説明した時に云つたやうに、舌端を上前齒の根に附けて置いて力を入れて、發音するので、かうした口附でドと云ひ放つと、この音が正しく出るのである。この音は日本語のダヂヅデドの中ダ、デ、ドの原音となるものであるが、ヂ、ヅだけは異つてゐる。このドを發音する時にド、又はドゥと引張らないやうに注意しなければならぬ。(第一章第三圖参照)

## f フ

日本人はこの發音には特に注意を要する。第一章で詳しく述べたやうに、上前齒を下唇に押し當て、その間から物を吹き出すやうにフと云ふのである。日本語のフとは明瞭な區別があるから決して混同してはならぬ。他に當て嵌めるべき假名がないから、止むなくフを以て表はす次第である。(第一章第四圖参照)

## g グ

大抵な場合にはグと響くが、時にはヂ(ジではない)と響くことも

ある。グの時は *g* の符號を用ゐ、ヂの時には *g* の符號で表はす。この音は日本語のガギグゲゴの原音である。東北地方の人や土佐あたり人はよくこの音を鼻に抜かしてングと發音することがあるから注意せられたい。また、一般に日本人はグッのやうに發音する弊があるから、これも注意が肝要だ

## h フ(ホ)

この音は日本語のハヒヘホの原音である。ハヒフヘホのうちフは英語の *f* のフと異つて、兩唇を合せて發する音であるが、英語の *f* は已に述べた通り上前齒と下唇とで發する音であるから、ハヒフヘホのフは、日本語に特有なものである。h のフはこれを發音する時には上唇と下唇とが互ひに觸れないやうにして發音せねばならぬ。

## j ジ

*g* と同音と心得てよい。只英語で色々な文字を組合せて言葉を作る時に *g* を用ゐる場合と、*j* を使ふ場合があるのである。日本語のザジズゼゾの中、ジゼの原音である。

## k ク

*c* と同音である。いな響る *c* のクが *k* のクに等しいと云つた方が當然の云ひ方であらう。*g* の時に注意したこと、即ち音を長く引ツ張つてグッのやうに發音する日本人通有の弊を避けるやうに注



意することが大切だ。これは日本語のカキクケコけんおんの原音である。

## l ル

第一章に於てこの文字の稱へ方エルを説明した時に、詳しく述べたことを今一度繰り返して讀んでもらひたい。元來くわんらいこの音は、日本語にはないので、日本人には非常に困難な發音であるから、大いに練習を要する。吳々くれぐれも云ふが、發音の時舌を上顎から離してはならぬ。日本語のルともアール遠へば r のルとも遠もがふ。(第一章第五圖参照)

## m ム

この文字の稱へ方、即ちエムのムである。音を引つ張つてムウのやうに發音しないことが大切である。この音は日本語のマミムメモけんおんの原音である。

## n ヌ・ン

言葉の初めについた時はヌ、言葉の終りに来た時にはンと發音する。第一章に於て注意した通り、この音を發するには、舌端を上齒の根ねに押し當てたままヌと息を鼻から漏らすので、決して唇を動かしてはならぬ。この音は日本語のナ=ヌネノの原音である。

## p プ

日本語のパピブペボの原音である。發音上の注意は b の時と同である。

即ち只 b のプをささやくやうに發音すればよい。日本語のフと混同してはならぬ。

## q ク

k と同音であるが、注意すべき一事は、この字が語の初めに來ると、日本語のクワ、ク井、クウ、クエ、クオの原音となるであるから、k のクや c のクと全然同一であると思つてはならぬ。

## r ル

日本の假名では l のルも r のルも同じやうにルで表はすより他に仕方がないが、l のルと r のルとは全く異つてゐる。實はこの文字の表はす音は、一つの言葉の中でこの文字の位置によつて種々に異なるのである。母音の前にこの r のある時には、日本語のラリルレロの原音となるので、先づ先づ日本語のルと心得て置いてよい。然し第一章でこの文字の稱へ方を説明した時の注意は、どこまでも守らねばならぬ。

## s ス

日本語のサシスセソのシを除く他の四音の原音である。即ち c の稱へ方の時と同じスで、i や e の前に來るとスイ及びスィーと發音する。決してスの次にウを加へたスクとなつてはならぬ。

## t ト

タイー、ディー、せいおん t が d の清音であるやうに、このトは d のドの清音であるから

えうりやう ディー ぜつたん うはまへはね  
 発音の要領は d の場合と同一である。舌端を上前歯の根に押し當  
 ててツと云へばよい。この音は日本語のタチツテトのうち、チ、ツ  
 を除いたタ、テ、トの原音である。(第一章第三圖参照)

### v ヴ

ディー エフ  
 v の稱へ方に就ての説明を今一度読んで貰ひたい。v は f の  
 だくおん エフ だくおん  
 濁音であるから、このヴは f のフの濁音で、日本語にはない音であ  
 るが、f のフをいふ時の口附でブと云へば自然この音が出て来る。  
 ビー こんさう  
 吳々も b のブと混同してはならぬ。(第一章第四圖参照)

### w ウ

單にウで表はすけれども、日本語のウよりはもつと力強く發音す  
 べきで、日本語のワキウエヲのウを除いた他の四音の原音である。  
 元來日本語では、ア行のウもワ行のウも同一の假名で表はしてゐる  
 が、このウはウァと力をこめて發音しなければならぬ。

### x クス

第一章に述べた通り、クとスとを引き離さず、續けて速く且つ輕  
 く發音すればよい。つまり k のクと s のスが結びついた音である。

### y イ(アイ)

この文字は母音の前に来ると子音として取扱はれる文字で、そ  
 の時の發音はイである。日本語のヤイユエヨのうちイエを除いたヤ

ユヨの原音で普通のイよりもつと押へつけた音である。y は普通子  
 音として取扱はれるのであるが、この文字が、他の子音または母音  
 のあとに附くと、母音となつて、i と同一の働きをする。y が母音  
 となる時は、長音、短音ともに i の音と同様である。

### z ズ

エス だくおん  
 s のスの濁音で、日本語のザジズゼゾのうち、ジを除いたザ、  
 ズ、ゼ、ゾの原音である。

これで母音の正音と、子音のあらましが分つたことになる。今  
 まで子音について述べ來つたことを、復習及び参照に便利なやうに  
 表にして示すと、次のやうになる。何度も繰返して正しい音が出る  
 やうに練習せられたい。

子音  $\left\{ \begin{array}{l} \text{bブ、cク(ス)、dド、fフ、gグ、hフ(ホ)、jチ} \\ \text{kク、lル、mム、nヌ(ン)、pプ、qク、rル} \\ \text{sス、tト、vヴ、wウ、xクス、yイ(アイ)、zズ} \end{array} \right.$

## 第二節 綴字の規則

第一節で母音の正音と子音の概略とが済んだから、これから進ん  
 で母音の變音や、子音について説き残したことを説明するのが順序  
 であるが、その前に、先づ綴字といふことについて述べた方がこれか  
 ら進んでゆく上に分り易いと思ふから、便宜上、これから簡単に綴  
 字の規則を説くことにしよう。

さて已に述べた通り英語は母音と子音とを組合せて綴字(syllable)といふものが出来、この syllable をいくつか組合せて語(word)といふものが出来るのであるから、先づ綴字のことを知らなければならぬ。

一般には、綴字において、母音の後に子音がある時には、その母音は短音となる。子音の次に母音が来る時には、その母音は長音に響くものである。たとへば

(子音の後に母音の来た例)		(母音の次に子音の来た例)	
b+a	bā=ベイ	a+b	āb=アッブ
c+a	cā=ケイ	a+c	āc=アック
d+a	dā=デイ	a+d	ād=アッド
f+a	fā=フェイ	a+f	āf=アッフ
g+a	gā=ゲイ	a+g	āg=アッグ

【註】 a+bはアとブの結合であるから、アブでよささうなものだが、aの短音はアッ<sup>つ</sup>と詰まる方がはつきりするのと、今一つの理由には、英語では、例へば cat (キャットではなくキヤットである) の場合のやうに、子音の前に母音があつてそれが短音である場合には、大抵詰まるものであるから、それで促音、<sup>つ</sup>詰まる音の意味の符號を添へたのである。

今ここに、子音と母音の長音が結びついて出来る音と、母音の短音と子音と組合つて出来る音との綴字を表にして示さう。

第一表

ā(エイ) ē(イー) ī(アイ) ō(オウ) ū(ユー) ŷ(ワイ)

b	ba	be	bi	bo	bu	by
c	ca	ce	ci	co	cu	cy
d	da	de	di	do	du	dy
f	fa	fe	fi	fo	fu	fy
g	ga	ge	gi	go	gu	gy
h	ha	he	hi	ho	hu	hy
j	ja	je	ji	jo	ju	jy
k	ka	ke	ki	ko	ku	ky
l	la	le	li	lo	lu	ly
m	ma	me	mi	mo	mu	my
n	na	ne	ni	no	nu	ny
p	pa	pe	pi	po	pu	py
q	qua	que	qui	quo	.....	quy
r	ra	re	ri	ro	ru	ry
s	sa	se	si	so	su	sy

t	テイ	ティー	タイ	トウ	チュー	タイ
	ta	te	ti	to	tu	ty
v	ヴェイ	ヴェー	ヴィ	ヴォウ	ヴェュー	ヴァイ
	va	ve	vi	vo	vu	vy
w	ウエイ	ウェー	ウィ	ウォウ	ウェュー	ウヴァイ
	wa	we	wi	wo	wu	wy
y	イエイ	イー	イヤイ	イヨウ	イユ	.....
	ya	ye	yi	yo	yu	
z	ゼイ	ゼー	ズイ	ゾウ	ズュー	ザイ
	za	ze	zi	zo	zu	zy

第二表

	ă (ア)	ě (エ)	ī (イ)	ō (オ)	ū (ウ)
b	アッブ	エッブ	イッブ	オッブ	アッブ
	ab	eb	ib	ob	ub
c	アック	エック	イック	オック	アック
	ac	ec	ic	oc	uc
d	アッド	エッド	イッド	オット	アッド
	ad	ed	id	od	ud
f	アッフ	エッフ	イッフ	オッフ	アッフ
	af	ef	if	of	uf
g	アッグ	エッグ	イッグ	オッグ	アッグ
	ag	eg	ig	og	ug
j	アッヂ	エッヂ	イッヂ	オッヂ	アッヂ
	aj	ej	ij	oj	uj
k	アック	エック	イック	オック	アック
	ak	ek	ik	ok	uk
l	アル	エル	イル	オル	アル
	al	el	il	ol	ul
m	アム	エム	イム	オム	アム
	am	em	im	om	um
n	アン	エン	イン	オン	アン
	an	en	in	on	un

p	アッブ	エツブ	イッブ	オッブ	アッブ
	ap	ep	ip	op	up
q	アック	エック	イック	オック	...
	aque	eque	ique	oque	
r	アル	エル	イル	オル	アル
	ar	er	ir	or	ur
s	アス	エス	イス	オス	アス
	as	es	is	os	us
t	アット	エット	イット	オット	アット
	at	et	it	ot	ut
v	アッヴ	エッヴ	イッヴ	オッヴ	アッヴ
	av	ev	iv	ov	uv
x	アックス	エックス	イックス	オックス	アックス
	ax	ex	ix	ox	ux
z	アッズ	エッズ	イッズ	オッズ	アッズ
	az	ez	iz	oz	uz

【註】ă と ū は同じアで表はしてあるが、實は <sup>こゝろもち</sup>ă はエアの心持で發音すべきことは a の短音の <sup>やつがい</sup>説明を見れば分る。また ū がアともウともオともつかぬ音であることも、u の短音の <sup>くわ</sup>説明に詳しく述べてある通りである。

この表にă と h との組合せがないのは、この組合せは <sup>へいあん</sup>變音になるからである。ă と w 及びă と y は結びついて各一つの母音(この母音に就ては後に述べる)となるからこの表には <sup>はぶ</sup>省いてあるのである。

第一表及び第二表に於て、q の組合せに <sup>かぎ</sup>限つて、qu となつてゐたり、que となつてゐたりするのは、實際英語で q が他の文字と結びつく時にはいつでもこの形を取るからであつて、その音

は q の字を書いたのと全く同じである。また点線(.....)になつてゐるものは、英語にはそれに相當する組合せ方がないからである。この第一表第二表にある組合せは、諸君は<sup>なんべん</sup>何回も<sup>くりかへ</sup>繰返して練習して自由自在に云へるやうにして置かなければならぬ。成程、ba ベイ、be ビイ、bi バイだの ab アップ、eb エップ、ib イップなどと意味のないことを繰返すのは面白くないに違ひない。けれど、これが英語発音の基礎となるのであるから、決して怠つてはならぬ。

しかし右のうちにも全然意味のないものばかりはない。實際の英語の言葉も少くないのである。即ち第一表の第二の縦行のうちでは he は「彼れ」「あれ」と人を指していふ時の言葉、me は「私」、we は「我等」の意味を表はす言葉、ye は古語で「汝等」といふ意味の言葉である。また第四縦行でも、go は「行く」、no は「否な」、so は「左様、然り」の意味の言葉である。又第六縦行の by は「.....で」の意味、my は「私の」の意味である。

第二表には更に英語の単語 (word) が多い。第一縦行の am は「私が.....である」の「である」の意味、an は「一つの」の意味、at は「東京で」「大阪で」の「で」の意味、ax は「斧」の意味である。第三縦行の if は「若し」の意味、in は「.....の中で」の意味、it は「それ、これ」と物を指して云ふ時の言葉である。第四縦行の on は「.....の上の」の意味、ox は「牡牛」のこと、第五縦行の us は「我等に、我等を」の意味を有する言葉である。尚ほ

その他にも右二表を通じて英語の言葉になつてゐる組合せがザツト十ばかりあるが、ここでは煩雑になるから略すことにした。ただ諸君は單に発音の練習をしてゐる事とのみ思つてゐるうちに、その實は英語の立派な言葉を三十ばかりも覚えてしまつてゐる譯である。どうかこのことを忘れないで、精を出して前の二表の発音を覚えてしまつて貰ひたい。

この上の二表の組合せの発音が十分腹に入つてをれば、どんなに多くの文字を綴り合せた単語でも容易に発音が出来ると譯である。今こゝに子音二つが長母音の前に来る例を示さう。

今こゝに blā といふ組合せがあるが、これは何と發音するかと云ふに、b はブであり、lā はレイであるから、續けてブレイとなる。

ブレイ blā	ブライ blē	ブライ blī	ブロウ blō	ブリュー blū	ブライ blȳ
ブレイ plā	ブライ prē	ブライ prī	ブロウ prō	ブリュー prū	ブライ prȳ
スクイ skā	スキー skē	スカイ skī	スコウ skō	スキュー skū	スカイ skȳ
トレイ trā	トリー trē	トライ trī	トロウ trō	トリュー trū	トライ trȳ
レイ wrā	リー wrē	ライ wrī	ロウ wrō	リュー wrū	ライ wrȳ

【註】 この外にもこんな組合せはいくらでも出来るので、これはホンの例に過ぎない。特に注意すべきは、最後の行の wra, wre.....がウレイ、ウリーと發音されないで、レイ、リーと發音されることである。これは英語では最初に w があつてそ

の次に <sup>アール</sup>r の来た時には、この <sup>ダブルユー</sup>w はサイレント(黙音)と云つて、發音しないことになつてゐるからである。それでは wra も ra も同一であるかと云ふと、全然同じではない。wra の時には、やはりウレイといふつもりで發音するのが本當で、只ウをはつきりと言はないだけである。

次に長母音で前に子音が三つ来る場合を例によつて示さう。前の pra に s を加へてみると s の音はスであるから、

スプレイ    スプリー    スプライ    スプロウ    スプリュー    スプライ  
sprā    sprē    sprī    sprō    sprū    sprȳ

となる。次には tra に s をつけてみる。

ストレイ    ストリー    ストライ    ストロウ    ストリュー    ストライ  
strā    strē    strī    strō    strū    strȳ

となる。其外順々に自分でいくらかでも例を作つて練習せられたい。

今度は子音が長母音の前後に来るもの、つまり子音が前後から母音を挟んでゐるものの例を擧げてみよう。

バール    つまむら	ダール    たにま	グイル    しつぷう	マイル    をとこをす
bāle (包、俵)	dāle (谷間)	gile (疾風)	māle (男、牡)
セイル    うれゆき	バーク    やくあふ	ヒーア    こゝ	ライス    こめ
sāle (賣行)	bāke (焙焼る)	hēre (此所)	rice (米)
コード    はふてん	デューク    こうしやく		
cōde (法典)	dūke (公 爵)		

【註】 以上にあげた十語の最後にはみな e があるが、英語では単語の最後にある e は大抵前に述べたサイレントであるから、書く時には書くが、發音する時には丁度その e がないものと思つて發音すればよいのである。

次には子音が短母音の前と後とに来る場合の例を十ばかりあげてこの章を終ることにしよう。

キャン    くわん	ファン    ふん	マン    だんし	パン    なべ	ヴァン    ひぐるま
eān (鏝)	fān (扇)	mān (男子)	pān (鍋)	vān (荷車)
ラップ    ひざ	レグ    あし	ピグ    ぶた	ボックス    こ	クツブ    け
lāp (膝)	lēg (脚)	pīg (豚)	bōx (箱)	tūb (桶)
バンド    せび	セクト    しゅう	ミルク    ぎゅう	ポスト    いうびん	ランブ    かたまり
bānd (帶)	sēct (宗派)	milk (牛乳)	pōst (郵便)	lūmp (塊)

この外子音が二つ重つて母音の前に来ることもあり、また三つ重つて母音の後に来ることもあるが、何れの場合にも道理に異りはない。今までの知識を應用すれば先づ一通りの發音は出来るのである。

### 第三節 母音の發音及 Digraph

第一節に於て母音の正音と子音の概略とを説明して置いたが、これから進んで、母音の發音を述べ、また子音について述べ残したことを述べることにする。

#### ā エー

a の表はす音は普通七音で、それらの音は次のやうな符號で表はすのが通例である。即ち ā, ǎ, â, ä, á, ǎ, ǎ, この七つである。このうち ā と ǎ とは a の正音として第一節で既に述べてある。

ā の音は日本の假名では正確には表はせないが、實は、ǎ の伸張音(長く引き延ばした音)である。即ち ǎ がエァであるから、それを引き延ばしたエァーである。この音はいつでも r の字の前に来るのであるから、その r と結びついて發音される。

例 care (注意)      fare (運賃)      share (分前、株)

【註】 air (空気)、fair (市場)、hair (髪) などの言葉でも、a は  $\hat{a}$  の符號で表はしてよい音を持つてゐるので、are と air とは同一の音である。これは air の時は i がサイレント、are の時は e がサイレントだからである。

$\hat{a}$  の相等音 (equivalents) として次のやうな文字が用ゐられる。言ひ換へれば、次の文字または文字の組合せは、發音上では  $\hat{a}$  と同價值のものである。英語では文字が異うて發音が同じことは珍らしくない。文字が異へばいつでも音が異ふと思ふと大間違である。この相當音は英語を學ぶ上には大切なことであるから、十分注意して研究記憶せられたい。

e= $\hat{a}$ .....(there) (そこに)      ei= $\hat{a}$ .....(their) (彼等の)  
ai= $\hat{a}$ .....(air) (空気)      aye= $\hat{a}$ ...(prayer) (祈禱)

### $\hat{a}$ アー

この音はすべての母音の中で最も廣く口を開けて發する音で、十分に口を開けてアーと云へば自然とこの音になつてゐる。舌は絶対に使はないで發音する。この音も大抵 r の前に來て、その r と結びついて發音される。

例 card (手札、名刺)      tar (コールタール)

【註】 諸君がこの音を正確に發音してゐるか否かを試さうと思へば、火をつけた蠟燭を口の前約三寸位の處に置いて、思ひ切り

大きな聲で發音して、もし蠟燭の火が消えぬならば、諸君の發音は正確である。

$\hat{a}$  の equivalents (相等音) はない。

### $\hat{a}$ ア

$\hat{a}$  の半分の長さのものと同一音である。

例 ask (訊ねる)      task (仕事)      draft (爲替手形)

$\hat{a}$  にも equivalents はない。

### $\hat{a}$ オー

$\hat{o}$  に似た音であるが、 $\hat{o}$  よりも一層廣く口を開けて發音するのである。

$\hat{o}$  よりも響ろオーに近いが、アの音を響かしてはならぬ。

例 walk (歩く)      talk (話す)      war (戦争)      salt (鹽)

$\hat{a}$  の equivalents は

ou= $\hat{a}$  (ought) (.....すべき筈)      ô= $\hat{a}$  (order) (順序)  
au= $\hat{a}$  (pause) (休止)      aw= $\hat{a}$  (awe) (畏敬)

【註】 ought の gh, pause の e 及び awe の e は前にも述べたサイレント (silent) であるから、文字はあつても發音しないのである。gh に就いては子音を説くとき説明する。

### $\hat{a}$ オ

$\hat{a}$  の半分の長さの音で、 $\hat{a}$  と同音である。

例 was (あつた)      swan (白鳥)      watch (懐中時計)

【註】 watch をなぜウッチと読むか、その次に就いては後に説明する。

q の equivalents は  $\ddot{o}$  である。

$\ddot{o}$  = q.....(löss) (損失)

これで一通り a の變音を説明したから、諸君は a に就ては、正音二つ、變音五つ都合七通りの音を覺えた譯であるが、茲に a の長音の equivalents 即ち a と同じ發音となる組合せのことを説明しなければならぬ。これは元來は  $\bar{a}$  の説明のところになすべきであるが、諸君に分りよいために、今まで延ばして置いたのである。

$\left\{ \begin{array}{l} ai = \bar{a} \dots (\text{paid}) \text{ (支拂つた)} \quad ay = \bar{a} \dots (\text{May}) \text{ (五月)} \\ \bar{a} \left\{ \begin{array}{l} ei = \bar{a} \dots (\text{veil}) \text{ (顔かけ、ベール)} \quad ey = \bar{a} \dots (\text{they}) \text{ (彼等)} \\ aigh = \bar{a} \dots (\text{straight}) \text{ (真直ぐに)} \quad eigh = \bar{a} \dots (\text{freight}) \text{ (荷物)} \end{array} \right. \end{array} \right.$

### e エイ

e の表はず音のうち、正音の  $\bar{e}$  と  $\ddot{e}$  に就ては第一節に述べた。この外 e には變音が三つあるが、通例 e,  $\hat{e}$ ,  $\ddot{e}$  の符號で表はす。第一の e は a の長音即ち  $\bar{a}$  と同一音である。

例 eight (八つ)      weight (重量)

equivalents は上述の通り  $\bar{a}$  = e である。

### $\hat{e}$ エー

$\hat{e}$  は既に a の變音で説いた  $\hat{a}$  と同音である。

例 there,      their,      where (何處に) (a の項参照)

【註】 where の wh のことは後に子音の處で説明する。

$\ddot{e}$  の equivalents は  $\bar{a}$  である。(a の項参照)

### $\ddot{e}$ ア〜

この音は英語の發音のうちでも最も困難な音の一つである。u の短音を説明した時に云つた通りアでもなく、ウでもなく、オでもない音で、u の短音を發音する時の心持で、舌を後に引いて、舌端を少し曲げて、口を細く開いて、ア〜と云へば自然にこの音になる。決しい口を大きく開いてはならぬ。大きく開けばア〜即ち  $\bar{a}$  音になり易い。これは日本人の通弊であるから注意せられたい。ü, i も同じ音であるが、これは後で述べる。この音は假名では適當に云ひ表はせないので止むなく「〜」を符號として用ゐる。今後本書でこの符號を用ゐる場合が多からうから覺えて置いてもらひたい。

例 term (定期) her (彼女の) herb (藥草) germ (幼芽)  
fern (羊齒) perch (鱈) serge (セルサーザ)  
verge (界、縁) herd (群、特に牛の群) were (あつた)

【註】 perch のチは watch のチと同じであるが、where の wh, caught の gh, there の th などは後に述べることにしよう。

$\ddot{e}$  の音は困難であるから、例も澤山出して置いた。例にある單語を何遍も繰返して覺えて貰ひたい。上にあげた例によつて、諸君も氣がついてゐることと思ふが、 $\ddot{e}$  の音はいつも r の字の前に来て r と結びついて發音されるものである。



$\bar{e}$  の equivalents は上に述べたやうに  $\bar{u}$  と  $\bar{i}$  とである。

$\bar{u} = \bar{e} \dots \dots$  burn (焼く)       $\bar{i} = \bar{e} \dots \dots$  bird (鳥)

e の變音は以上の e,  $\bar{a}$ ,  $\bar{e}$  の三つであるが、序に e の正音、即ち  $\bar{e}$  と  $\bar{e}$  との equivalents をもあげて置く。

$\bar{e}$  {  $\bar{e} = \bar{e} \dots \dots$  (steel) (鋼鐵)       $e = \bar{e} \dots \dots$  (steal) (盗む)  
 $ei = \bar{e} \dots \dots$  (receive) (受取る)       $ie = \bar{e} \dots \dots$  (believe) (信ずる)  
 $\bar{e}$  ea =  $\bar{e} \dots \dots$  (bread) (パン)

### i イー

今度は i である。i の長音  $\bar{i}$  と短音とに就ては既に第一節に於て述べた。この i の變音には  $\bar{i}$  の符號で表はすものと、 $\bar{i}$  の符號で表はすものとの二つがある。

そのうち  $\bar{i}$  は、 $\bar{e}$  と同音である。即ち音の性質は同じで、たゞその  $\bar{i}$  を二倍の長さに延ばせばよい。

例 vive (萬歳)      pique (不興、立腹)

$\bar{i}$  の equivalents は  $\bar{e}$  の外にない。

### $\bar{i}$ アイ

この音は  $\bar{e}$  と全く同音で、 $\bar{u}$  と同音である。(  $\bar{e}$  の項参照 )

例 bird (鳥)      girl (女兒)      firm (商館)

$\bar{i}$  の equivalents は  $\bar{e}$  と  $\bar{u}$  で、例は既に前に出てゐる。こゝで序に  $\bar{i}$  の正音、即ち  $\bar{i}$  と  $\bar{i}$  との相等音を擧げて置く。

$\bar{i}$  {  $ei = \bar{i} \dots \dots$  (height) (高さ)       $y = \bar{i} \dots \dots$  (my) (私の)  
 $igh = \bar{i} \dots \dots$  (right) (権利)       $uy = \bar{i} \dots \dots$  (buy) (買入)

$\bar{i}$  y =  $\bar{i} \dots \dots$  (carry) (運ぶ)

【註】 -ry, -ly, -y, -dy, -my, -ny などのやうに、凡て子音が前にあつて y が語の一番終りにある時には、y は  $\bar{i}$  と短かく響くので、決してイーではない。上例でも carry はキャリで、決してキャリーではない。日本人はともすればイーと長く引ツ張る癖があるから注意しなければならぬ。

### ô オー

今度は o の變音である。正音  $\bar{o}$  と  $\bar{o}$  は既に第一節で述べたが、變音には、 $\bar{o}$ ,  $\bar{o}$ ,  $\bar{o}$ ,  $\bar{o}$  の符號を以て表はす四つの音がある。第一の  $\bar{o}$  は、o の長音  $\bar{o}$  と混同してはならぬ。 $\bar{o}$  は諸君の既に覺えてゐられる通り、オウであつてオーでない。然るに  $\bar{o}$  は o の短音  $\bar{o}$  (オ) を二倍の長さにした音で、 $\bar{a}$  と同音である。従つて  $\bar{o}$  の equivalents は  $\bar{a}$  で、また  $\bar{a}$  の equivalents は凡て  $\bar{o}$  の equivalents と云へる。(  $\bar{a}$  項参照 )

例 for (爲めに、故に)      fork (肉叉、ホーク)

【註】 この音が正しく發音されてゐるか否かを試すには、 $\bar{a}$  の時に用ゐた例の蠟燭の火を口の前三寸位な處に置いて發音して見る方法がよい。凡て母音は有聲音であるけれども、發音の時に舌や歯や唇のために遮られない音が、喉からたやすく來るものであるから、母音を長く引張つて、それで蠟燭が消えてはならない。

## o ア

口を細く開いて（決して大きく開いてはならぬ）アと軽く云ふとの音が出る。つまり u の短音 ũ を発音する心持でやればよい。

例 son (息子) love (愛) ton (噸) glove (手袋)  
London (ロンドン)

【注】 上にあげた言葉はみな日本人は間違えて発音してゐる。殊に最後の三つが然りである。ton は一噸二噸の ton であるが、日本人はこれをトンと云ひ、glove をグローブと云つてゐるのは野球好きな諸君は知つてゐるだらう。London はロンドンと云つてゐる。love がローブとならなかつたのは不思議であるが、その代り誰も彼もラブと発音して正確にラヴと云ふものは少ない。son は大抵ソンと云つてゐる。上のやうな単語を日本語の中に交へて云ふ時には、矢張り日本流にいふがよい。特に正しく発音すると却て氣障に思はれる。即ちもう日本語になつたつもりで云つてもよい。しかし英語を話すときにこれらの言葉に出會つたら、その時は日本流では困る。正しい発音をしないと、笑はれるばかりならよるしいが、實際英米人には分らないのである。

この equivalents は ũ である。

ũ = ɔ.....pump (ポンプ)

## o ウー

これは日本語のウを引延ばした音で、別に面倒ではない。

例 do (爲す) two (二つ)

この音には equivalents が多い。

oo = ɔ...(moon) (月) ew = ɔ...(crew) (船の乗組員)  
eu = ɔ...(rheumatism) (痺麻質斯) u = ɔ...(rule) (規則)

【注】 rheumatism はここで出すには少し語が長過ぎるが、何れ後でこんなに多くの文字を綴つて出来た語の正しい發音の仕方を述べる。この語は日本語ではリョウマチス又はリウマチスと云つてゐるが、英語ではルーマチズムである。u の音もまだ説いてない。すぐ後から述べる。

## o ウ

o の半分の長さの音で、音の性質は同じこと。

例 wolf (狼) woman (女)

o の equivalents は oo と u と ou である。

oo = ɔ.....(foot) (足。呷) u = ɔ.....(full) (満ちた)  
ou = ɔ.....(should) (.....すべき筈)

【注】 woman をウーマンと發音する日本人が非常に多い。また wolf や woman のウはウツと力を入れて發音しなければならぬ。(第一節 w の條参照) foot も日本人にはよくフートと引

張る癖がある。英語として用ひる時には改めて貰ひたい。

○ の變音は濟んだが序に長音  $\bar{o}$  と短音  $\bar{o}$  の equivalents を擧げる。

$\bar{o}$  { oa =  $\bar{o}$ .....(toast) (焼パン、祝盃) ou =  $\bar{o}$ .....(soul) (魂)  
ow =  $\bar{o}$ .....(mow) (草を刈る)

$\bar{o}$  a =  $\bar{o}$  = (want) (欲しい、缺乏)

### u ウー

最後は u である。u には長音  $\bar{u}$  と短音  $\bar{u}$  の二つが正音であることは述べたが、外に、 $\bar{u}$ , u,  $\bar{u}$  の符號で表はす三つの變音がある。

第一の  $\bar{u}$  はウーで、これは普通ウーでよい。

例 true (眞實) brute (畜生)

ii の equivalents は既に  $\bar{o}$  のところで述べた通りである。

### u ウ

ii の半分の長さで、同音である。即ち  $\bar{o}$  と  $\bar{u}$  と ou は u の equivalents である。

例 bull (牡牛) put (置く)

### $\bar{u}$ ア

この音は既に述べた通り、 $\bar{e}$  及び  $\bar{i}$  の equivalents で、u の短音を長く引張つただけの音であるが、日本人にはなかなか發音しがたいためから注意せられたい。(第一節 u の條参照)

例 fur (毛皮) burst (破裂する)

例によつて u の正音  $\bar{u}$  (長音) と  $\bar{u}$  (短音) との equivalents を述べる。

$\bar{u}$  { eu = u.....(few) (少数) cu = u.....(you) (汝)  
eau =  $\bar{u}$ .....(beauty) (美) eu =  $\bar{u}$ .....(neutral) (中立)

$\bar{u}$  { cu =  $\bar{u}$ .....(double) (二重の) o =  $\bar{u}$ .....(money) (金錢)  
oo =  $\bar{u}$ .....(flood) (洪水) oe =  $\bar{u}$ .....(does) (爲す)

これで母音の發音法を一通り述べ終つたが、今一つ付け加へなければならぬのは、二つの異つた母音が組合さつて一つの音を出す場合と、一つの母音と一つの半母音が結びついて一つの音となる場合である(半母音とは、w と y とで、この二つは普通は子音として取扱ふが、時には母音となることもあるから、さう呼ぶのである)。

### oi; oy オイ

日本語のオイとよく似た音であるが、日本語のやうにオとイではなく、オイと早く、しかもはつきりと發音すべき一音である。

例 oil (油) boy (男兒) boil (煮る) toy (玩具)

【註】 boy を大抵の人はボーイだと心得てゐるが、誤れるの甚しいものである。

### ou; ow アウ、又はオウ

これもアとウと引離さないやうに、早くアウと發音する。

例 <sup>パウンド</sup> pound (ポンド)    <sup>クラウド ぐんしふ</sup> crowd (群集)    <sup>スロウ な</sup> throw (投げる)  
<sup>クロウ かにす</sup> crow (鳥)

### ew ユー(イウ) 又は ウー

二文字合して <sup>ユ-</sup> u の長母音 ū 又は o の音となるのである。

例 <sup>ヒュー き</sup> hew (伐る)    <sup>ストルー き</sup> strew (撒く)

右のやうに二つの文字が <sup>あつと</sup> 集つて一つの音を出す音を <sup>ヂイはいん</sup> 二重母音 diphthong と云ふ。二重母音は、いつでも初めの部分が終りの部分よりも強く発音されるものである。即ちオイはオイ、アウ、アウ、オウはオウ、ユー、ウーはユー、ウーのやうになるのである。

これで母音は一通り済んだ <sup>わけ</sup> 譯であるから、これから子音の中で今まで述べなかつた音、即ち二つの子音が一緒になつて一つの音となる場合を説明しよう。これらの音を <sup>ダイグラフ</sup> digraph と云ふ。(日本語には <sup>やくご</sup> よい譯語がない)。

### ch チシク

日本語のチによく似た音であるが、チの発音をする時よりも、口の奥で勢をつけて、チとシとを同時に発音するやうな心持で云ふとこの ch のチとなるのである。稀に <sup>まれ</sup> シュ又はクと発音することもある。シュの時は ch の符號、クの時は eh の符號を用ゐる。

例 <sup>チーク はは</sup> cheek (頬)    <sup>チエツク こぎつて</sup> cheque (小切手)    <sup>チエスト びほ</sup> chest (胸)  
<sup>マシーン かい</sup> machine (機械)    <sup>クリスマス</sup> Christmas (クリスマス)

### sh シ



第七圖

日本語のシに似てゐるが、日本人には <sup>ずる</sup> 随分發音が困難である。舌端を上げて、舌の面と上顎の間に狭い息の道を作る様にして強く息を吐き出すとこの音が出るのである。(第七圖参照)

例 <sup>シー かのぢよ</sup> she (彼女)    <sup>キャッシ けんぎん</sup> cash (現金) (キャッシュではない)  
<sup>ヂイッシ さら</sup> dish (皿)

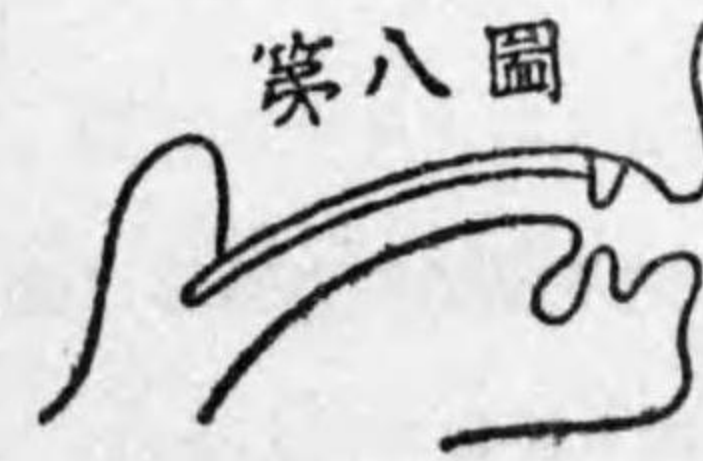
この外に s, ss, t, c が場合により sh の音を出すことがある。

### ck ク

k の音と同音で、この組合せは大抵語尾に来るものである。

例 <sup>ラック がいろん</sup> luck (幸運)    <sup>スイツク びやうき</sup> sick (病氣)    <sup>クロック はしらとけい</sup> clock (柱時計)    <sup>チツク ふくろ</sup> sack (袋)

### th ス



第八圖

この音は日本語には全然ない。第八圖に示すやうに舌を上前歯と下前歯との間に入れて、強く息を出すのである。日本人はこの音をよく s 又は sh の音と混同

する癖がある。この音は <sup>あ</sup> 飽くまで十分練習して置いて貰ひたい。

例 <sup>スインク おも</sup> think (思ふ)    <sup>スアック せい い</sup> thank (禮を云ふ)    <sup>スイツク あつ</sup> thick (厚い)  
<sup>スイン うす</sup> thin (薄い)    <sup>トイース ば</sup> teeth (齒)    <sup>マンス つき</sup> month (月)

## th ズ

これは th の濁音であるから、発音の要領は th と同じで、たゞ音を濁らせばよい。これも日本語にない音だ。よく練習せられたい。

例 this (これ) that (あれ) these (これ等) those (あれ等)  
then (その時) there (彼處) their (彼等の)

(A の條参照)

【註】 この th, th の音を練習する時は、前にあげた単語と、sin, sick, share などの単語とを比較発音してみると、大いに助けになるであらうと思ふ。

## wh ホウ

唇を圓く突き出して、舌の根元を上顎の奥の方に近づけて、ホッ  
と息を吐き出す音である。口の具合がなかなかむづかしい。

例 why (何故) which (どれ) what (何)  
when (時何) where (何處) (e エイの條参照)

## ds ツ

日本語のヅに似た音である。多くは d で終る単語の複數形 (複  
數の形の時は終りに s を加へて表はす) に起る組合せである。

例 hands (兩手) gods (神々) birds (二羽以上の鳥)

## ts ツ

すぐ上の ds の清音である。これも多くは t で終る単語の複數  
の形になつた場合に起る組合せである。

例 cats (二匹以上の猫)

例 rats (二匹以上の鼠)

例 hats (二個以上の帽子)

## gh フ

これは多くの場合はサイレントで、在つても發音しないものであ  
るが、f のフのやうに發音することもある。

例 dough (この場合は gh はサイレントである) (捏粉)  
laugh (笑ふ) rough (粗暴な) (この場合に gh はフ  
と發音する)

## ph フ

f のフと全く同音である。外國語からきて英語になつた言葉によ  
く出る組合せでさる。

例 photograph (寫眞)  
telephone (電話)

例 telegraph (電信)

## ng ン(グ)

圖に示すやうに、舌の根元をあげて、鼻から息を漏らすとこの音  
になる。言ひ換へれば、k のクを口の奥  
の方で出したものが濁ると g のグにな  
り、それを鼻へ抜かすと、ng の音にな  
るのである。n の音とは區別しなければ

ならぬ n の音は、舌端を上顎の前部に押し當てて發するのである。

例 sing (歌ふ)

例 song (歌)

例 tongue (舌)

第九圖



ng と n との音を區別するために、<sup>おん くべつ</sup>sinner (罪人)、<sup>サインナー がいじん</sup>signer (歌ひ手)、<sup>スイン さい</sup>thin (薄い)、<sup>スイング もの</sup>thing (物)、を繰返し練習するがよい。

zh

この文字で表はすべき音は、實際上は zh とは書かないので、他の種々の文字で表はされてゐる。<sup>こくおよ せいなんしよこく</sup>四國及び西南諸國の人のジに非常によく似た音である。<sup>エス ズイージー</sup>s, z, g, がこの音を發することがある

これで大體英語二十六文字の發音が分つた次第である。それでこれを表にして、<sup>ひんめいれう</sup>一見明瞭にしよう。

母音表

正音
エイ a (ai=ay=ei=ey=aigh) =eigh
イー ē (=ee=ea=ei=ie)
アイ ī (=ei=y=igh=uy)
オウ ō (=oa=ou=ow)
ユー ū (=eu=ou=eau=eu)
ア ä
エ ě (=ea-a)
イ ĭ (=y)
オ ǒ (=a)

子音表

正音
ブ b
ク(ス) c
ド d
フ f
グ g
フ(ホ) h
ヂ j
ク k
ル l
ム m
ヌ(ン) n

ア ũ (=ô=oo=ou=oe)  
變音

エー â (=e=ei=ai=aye)

ア ā

ア à

オー ā (=ou=ô=au=aw)

オ ą (=ö)

エイ e (=ā)

エー ê (=â)

ア〜 ē (=ī=ū)

イー ī (=ē)

ア〜 î (=ē=ū)

オー ô (=ā=ou=au=au=aw)

ア ȝ (=ū)

ウー ȝ (=ōō=ew=eu=ū)

ウ ȝ (=ōō=ū=ou)

ウー ȝ (ōō=ew=eu=ö)

ウ ȝ (=ōū=ȝ=ou)

プ p

ク q

ル r

ス s

ト t

ヴ v

ウ w

クス x

イ [アイ] y

ズ z

變音

チ、シ、ク ch

シ sh

ク ck

ス th

ズ th

ホウ wh

ヅ ds

ツ ts

フ gh

フ ph

ン ng

ア～ <sup>ii</sup> (=ē=i)	ジュ zh
オイ oi; oy	
アウ、オウ ou; ow	
ユー、ウー ew	

【注】 諸君は私が第一章で、英語の文字は僅かに二十六文字でも、その音は四十三音あると云つたのを覚えておられることであらう。然るにこの表を一見すると、音の数は四十三よりも遙かに多いやうであるが、さてよく見ると、文字又は文字の組合せは異つても、同音のものがあるから、つまり四十三音(母音十八、子音二十五)となるのである。

#### 第四節 發音 附 說

この節で述べることは、或は諸君にはむづかしいと思はれる點もあらうが、英語は歐羅巴の國語のうちでも、發音の最もむづかしい言葉であるから、發音に就ては十分に研究しておく必要がある。しかし發音のことは甚だ面白味の少ないものであるから、諸君は飽いておくでもしてゐることであらうが、諸君が本當に英語を學ぶつもりならば、今暫く辛抱して貰ひたい、やがて、單語や文章を出して、實際の英語の意味を説明する時に、それらの言葉を趣味をもつて學び、また文章を容易に暗誦して、實地活用の出来る英語を覺えることができるかどうかは、ひとへに諸君の發音研究の熱心の程度によ

るものである。

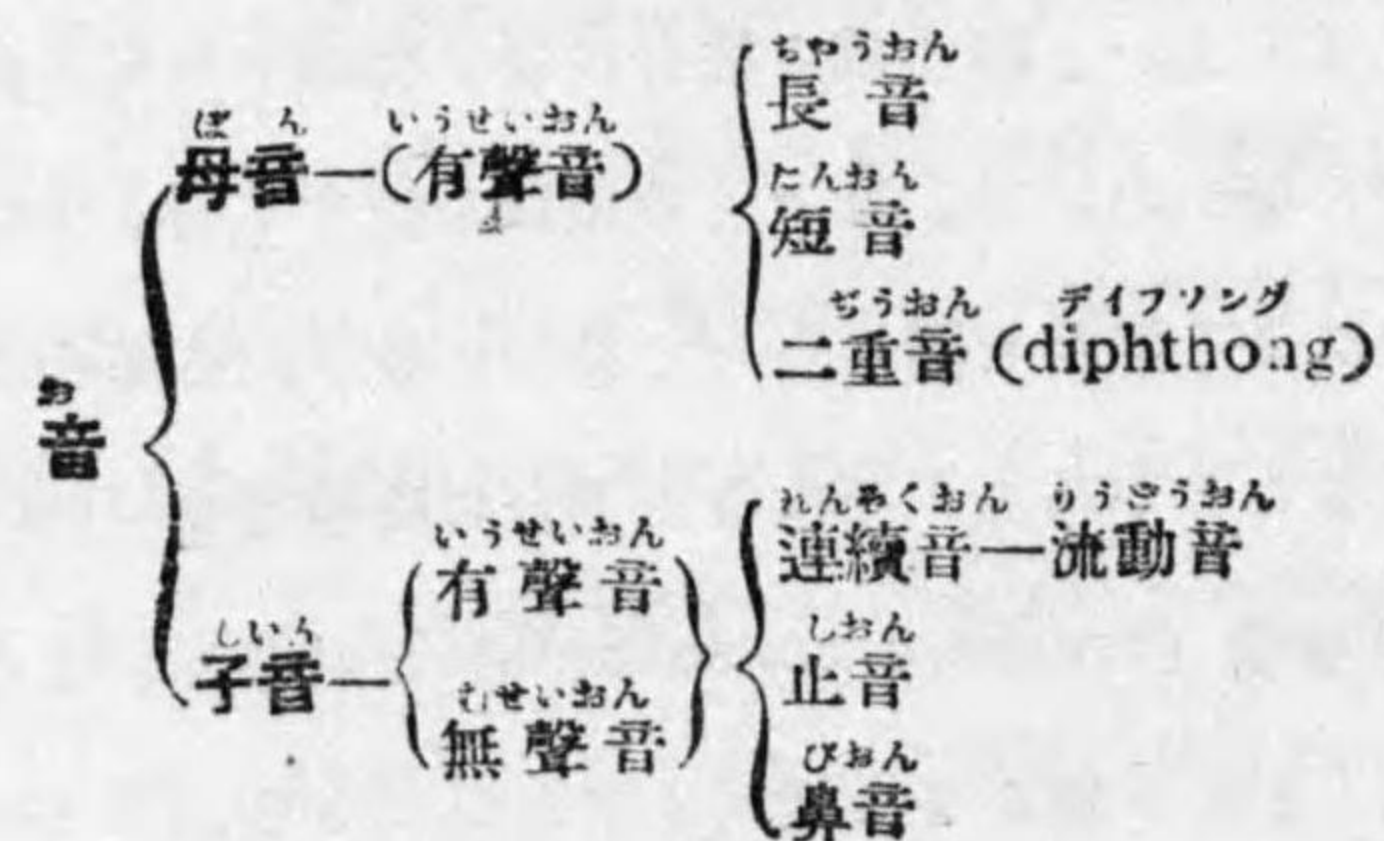
なほこの機会に一言注意して置きたいことがある。今までに發音研究の例として出した單語は、單に發音のためとのみ思はないで、序でにそれぞれの言葉の意味をも覚えて貰ひたいことである。またこの反對に、今後意味を教へるために出す單語も、ただ意味さへ分ればそれでよいと思はないで、同時にその發音をも正確に覺えることに努めて貰ひたいものである。

今まで述べたことを復習かたがた、音の種類といふことに就て述べて見よう。

英語に母音(vowels) 子音(consonants) の別あることは、諸君は既に知つておられる筈である。そして母音の性質に就ては最早述べた。即ち母音はすべて口の奥から出て來る音で、聲帯にひびく有聲音であつて、日本語の五十音はみな母音に終る音であるから、有聲音であることも云つた。然るに英語では、a, e, i, o, u の五つを除くほかは、すべて子音である。子音は母音とは異つて、必ずしも有聲音でなくてもよい。即ち或る場合には、肺臟から送り出される空氣が、聲帯に響かないで、たゞその出口を扼する唇、舌又は齒と摩擦し、または全く通路を閉ぢられて鼻から抜け出る等のために一種の音を發することがある。それゆゑ子音には有聲音(voiced consonants) と無聲音(breathed consonants) とがある。また或る種の音は息の續くかぎり思ふまま延ばすことができる。たとへば

羅字屋の笛の音は s の音を引き延ばした音に似てゐる。f, z, wh, th, th もまた任意に引き延ばし得られる音で、こんな音を連続音 (open consonants) と名づける。また l, r の如きは、連続音の中で流動音 (liquids) と呼ぶものである。この外、**止音**及び**鼻音**といふ二種の音がある。止音は、肺臓から送り出す空気を一時全く遮断して、急にこれを放つ時に生ずる音であるから、この音を發するには、上顎の奥 (軟口蓋) の處で、鼻へ通じる路を塞がなければならぬ。さうしないと音が鼻へ抜けるから、鼻音になるのである。すべて空気は、密閉してこれに壓力を加へて急に放つと、一種の爆發様の音を發するものであるから、止音のことを一名**爆發音**とも云ふのである。

肺臓から出る空気を遮断する仕方は色々あるが、これは二十六文字の一つ一つに就て音の出し方を説明した時、一通り述べたから、ここに重ねて云はない。その節を参照して貰ひたい。今、音の種類について略説したことを表はすると、次のやうになる。



次に揚音 (accent) のことに就て一言して置かう。今まで出した言葉の例は、大抵は一綴りの單語であつたが、英語には二綴り三綴り四綴り五綴りなど多くの綴りの單語が澤山にあつて、これらの單語は、その綴りのうちで、或は第一綴りに、或は第二綴りに、或は第三綴りに力を入れて發音することになつてゐる。力の入れ所が違ふと、一綴り一綴りの發音は正しくできてゐても、單語の意味は聽て手に通じないことが屢あるから、この力を入れるべき綴りが何れの綴りであるかを十分に學んで置かなければならぬ。英語ではこの一綴りのことを syllable と云ふのである。これを熟音と譯する人もあるが、むしろ原語のままに稱へた方がよからう。

一聲で發音する單語、即ち一 syllable のものには accent はない。二聲以上に發音するもの、即ち二 syllables 以上の單語になると、すぐ accent の問題が起つてくる。そこで lion (獅子) は二 syllables の言葉であるが、これは li-on であつて、li-on ではない。tobacco (煙草) は to-bac-co であつて、to-bac-co でもなく、to-bac-co でもない。然るに日本人の大抵の發音は li-on となり、また to-bac-co となり、稀に to-bac-co となつてゐる。

【註】揚音は英語の發音に大切なばかりではない。日本語でも橋の「ハシ」と端の「ハシ」と箸の「ハシ」とは揚音の在り處が違はなければならぬし、また柿の「カキ」と蠟の「カキ」と塔の「カキ」とは音の勢の上に區別がなくては何の意味やら判ら



ないが、英語では二 syllables 以上の単語には必ず accent が  
ある。これは同音の言葉の調子として必要なものであるから、  
正しい accent を聞き馴れてゐる英米人に、間違つた處に力を  
入れて単語を發音しても、一向先方に通じないのである。或る  
留學生が London に行つて、Victoria Station へ行く道を開  
かうとしたところ、accent が違つてゐるためにどうしても通  
じなかつたが、幸ひに相手が文字が讀める人であつたから（西  
洋にも文字の讀めない人は澤山ある）、筆談で漸く用を便じ  
たといふ實話がある。この停車場の正しい accent は vic-to-ri-a  
Sta-tion であるが、この留學生は大抵の日本人のやうに、多分  
Vic-to-ri-a Sta-tion と云つたものであらうと思ふ。accent は  
単語の語原によるもの、即ちその語の意味によるものと、發音  
學上よりするものとあるが、この事は諸君にはまだ分らない程  
度の研究に屬することであるから、茲には説明しない。諸君は、

一つ一つの単語に就て記憶せられるより他に仕方がない。

accent の大切であることは上に述べた通りであるから、本書で  
は、accent に注意をひくために、今後 accent のある syllable の  
處を伊太利の字體にして置くことにする。諸君は十分氣をつけて  
accent の練習をしてもらひたい。

英語には単語に accent があるやうに、文章に強勢 (emphasis)  
と調音 (intonation) 及び斷音 (pause) といふことがある。強勢

は文章のうちで、意味の大切な単語、もしくは句をば力をこめて發  
音すること (文章の中で最も大切でない単語は、普通 a, an, the  
などの冠詞である)。調音とは、文章中の部分部分によりて、聲の調  
子を高めたり低めたりすること。斷音とは、文章を讀む時に、その  
文章中の或る単語と単語との間に、少し間を置いて發音すること  
である。がまた時には二語を續けて發音することもあつて、このこと  
も斷音の研究と一緒に研究するのが普通である。例へば a nice  
house と an ice house, I'd rest と I dressed とは、讀み方によ  
つては全然同一に聞えるが、意味の上からは丸で違つたことである  
から、大いに注意を要する。さればとて一語一語別々に發音すると  
いふことは實際會話の際などには聞き苦しいものである。しかしこ  
れらのことは、複雑であつて、口で説明しなければ、とても十分に  
説明することも理解することも出来ないものである。ただ發音上、  
これらのことがあるといふことだけ承知して置いて貰はなければな  
らぬ。

この節を結ぶに當つて、發音上、日本人の最も誤り易い數ヶ條を  
述べて置くことにしよう。

#### 母音に就て注意すべきこと。

- (1) 長母音は、すべて accent のある syllable 並に有聲子音の  
前にある時に最も長く發音される。(長母音とは最初に述べた  
やうに ā, ē, ī, ō, ū である)。

(2) o の長音は元來オーではなくオゥであるが、日本人は兎角オと發音する傾きがあるから改めなければならぬことは既に述べた。このoの長音がrの前にある時はオゥと發音されな  
いで、むしろオーになる傾向がある。例へば floor (床)、door (扉)、board (板) などではoはオゥでなくオーと發音されるのである。

(3) 既に述べたやうに、日本人には兎角ãとõとの區別が出来ないし、またüとも混同しやすい。諸君は次の單語を何遍も繰返して、十分に區別できるやう、發音の練習をされたい。

fan, fen, fun; baz, beg, bug; bat, bet, but; ham, hem, hum.

(4) i と e との發音の區別も日本人には困難であるから、次の言葉を繰返して練習せられたい。

sin, seen, live, leave; sick, seek; rich, reach; fill, feel.

(5) o と a この二音の區別は日本人には最も困難であるから、これも次の言葉を繰返して練習せられたい。

saw, so; law, low; ball, bowl; bought, boat.

子音に就て注意すべきこと。

(1) すべて子音に終る言葉を發音した後は、速かに口をあけて爆發音を發しなければならぬ。しかし休止しない時には、最後の子音を次の言葉に續くやうにすべきである。たとへば put

on your hat. (帽子をおかぶりなさい) の時に、put の t は、すぐ次の言葉の on に接續する 即ち put on のやうになつて、ブツト。オンといふよりも寧ろブツトンと、聞えなければならぬ、しかし put といふ單語だけ發音するか、またはこの單語が文章の終りに來た時には、最後の t を發音すると、すぐ口を開けて爆發音を放たなければならぬ。日本語の音はすべて母音で終つてゐるから日本人はそれに馴れて、この止音を發音する時にも、長く引き延ばす癖がある。そのため put は puto のやうに、hat は hato のやうに聞える。注意すべきである。

(2) 名詞の複數の s, 所有格の s, 動詞の三人稱單數現在の s (何れも文法上の言葉であるが、後に意味を説明する) は、無聲音の次にある場合の外は、すべて發音して有聲音となるものである。例へば rays (光線) [race (競走) と區別せよ]、wins (勝つ) [wince (畏縮) と同音に非ず]、knees (膝) [nice (姪) にあらず]、hers (彼女の) [herse (棺馬車) と區別を要す]、pens (ペンの複數) [pence (penny 即ち一錢の複數) に非ず]。大抵の日本人は、これらの s をズと發音しないで誤つてスと發するために [ ] 内の言葉と同音となり、用を便じないことが多い。

この外に文法上の言葉で不定冠詞と云はれる a は、特にこの一語に力をこめて發音する時はãとなるが、その他の場合には

常に  $\bar{a}$  又は  $\bar{e}$  の音である。それゆゑ a loan (貸借) と alone (一人で)、a dress (一枚の着物) と address (宛名)、a choir (唱歌隊) と acquire (獲得する) との間には、普通発音の上で區別がない。

定冠詞の the と前置詞の to は、その次に来る語が子音で初まる語ならば極めて軽く発音すべきであるが、次に来る語が母音で始まる時は稍々明瞭に発音しなければならぬ。即ち the pear, the apple; the pen, the ink; to shut, to open; to drink, to eat.

この節で述べたことはやゝむづかしかつたかも知れぬが、今後の講義ではぜひ必要な知識であるから、よく読んで置いて貰いたい。

これで先づ発音のことは説き終つた。次章ではローマ字綴りのことを簡単に述べて、それから愈々教課に進むことにする。

### 第三章 ローマ字五十音

諸君が今までに學ばれた二十六文字の母音と子音とを、或る規則に従つて組合せると、不完全ではあるが日本の假名の發音を歐米人に傳へることが出来る。これが即ち所謂ローマ字である。なぜにローマ字と呼ぶかと云ふに、今日 歐米諸國の國語を記すのに用ゐる a b c は、昔ローマの國で使つた文字であるからである。

してみると、所謂ローマ字は英語ではない。日本語の音をローマ

の文字で書き綴つたものに過ぎない。そんなものを英語の講義中に取入れるのは場所違ひだと思ふ人もあらう。成程理窟から云ふと英語の講義の中に入れるべきものではないかも知れぬが、しかし實際問題として考へてみると、ローマ字は今日廣く世間に行はれるやうになつてきて、ごんな商品のレッテルにも、商店の看板にも、英語は書いてなくても、ローマ字の書いてないものは殆んどないといふ有様である。従つて今後の社會に活動しようとする青年は、皆ローマ字の綴り方を知つておなくてはならないから、この機會にローマ字のことを簡単に説くことにした。

諸君は既に英語二十六文字の正しい發音の仕方は覚えて居られるのであるが、ローマ字とはその綴り方讀み方が異つてゐる點も少くない。

さて日本假名五十音のうちで、その土臺となつてゐるアイウエオは、矢張り英語二十六文字中の母音である a e i o u で表はすのであるが、このうち i, e, o だけはその正音の短音  $\bar{i}$   $\bar{e}$   $\bar{o}$  を用ひるけれど、a と u とはその變音  $\bar{a}$  及び  $\bar{u}$  を用ゐるのである。即ち

A =  $\bar{a}$     I =  $\bar{i}$     U =  $\bar{u}$     E =  $\bar{e}$     O =  $\bar{o}$

である。實際ローマ字を綴る時は、發音の符號は用ひないで、A は a, I は i, U は u, E は e, O は o と書けばよい。これは英語を書く時にも、普通發音の符號を用ゐないのと同様である。

五十音中、このアイウエオの母音を除いた他の音は、この a e i

o u を二十六文字中の他の文字に加へるのである。ローマ字綴りの規則に従つて五十音表を作つてみると次のやうになる。

ア a	イ i	ウ u	エ e	オ o	(ア行)
カ ka	キ ki	ク ku	ケ ke	コ ko	(カ行)
サ sa	シ shi	ス su	セ se	ソ so	(サ行)
タ ta	チ chi	ツ tsu	テ te	ト to	(タ行)
ナ na	ニ ni	ヌ nu	ネ ne	ノ no	(ナ行)
ハ ha	ヒ hi	フ fu	ヘ he	ホ ho	(ハ行)
マ ma	ミ mi	ム mu	メ me	モ mo	(マ行)
ヤ ya	イ i	ユ yu	エ ye	ヨ yo	(ヤ行)
ラ ra	リ ri	ル ru	レ re	ロ ro	(ラ行)
ワ wa	キ i	ウ u	エ e	ヲ o	(ワ行)

この表を見ると、サ行ではシだけが shi となつてゐて、他の四字サスセソに比べると h が一字だけ餘分に入つてゐる。またタ行ではチは chi、ツは tsu で、タテトと統一してゐない。ハ行ではフは他との釣合から云ふと hu であるべきだが、實際は fu となつてゐる。ヤ行ツ行のイエ及びキエはア行のイエと同様に i, e となつてゐる。またワ行のウヲはア行のウオと同じ u, o である。なぜこんな不統一不規律なのであらうかとは誰しも怪しむことであらうが、實際はサ行のシを si と書くと、これはシでなく發音上スイと讀まなければならぬ。シは shi と書かねばこの音が出ないのである。タ

行のチを ti と書くとティと讀まれ、ツを tu と書くと厭でもトゥと讀まれて決して、チ、ツの音ではなくなる。ハ行のフは fu で表はしても日本語のフ音を正確に代表させることはできないのである。元來 f の音を完全に日本語で表はす場合は殆んどないのであるが、さればと云つて hu と書いてもフの音を去ることが遠いので、止むなくフに近い音を表はす fu で我慢する他ないのである。ヤ行ワ行に至つてはその不統一なること實に甚だしいものである。本來なればヤ行は ya, yi, yu, ye, yo で、ワ行は wa, wi, wu, we, wo でなければならぬやうに思へるが、今日の日本人の發音では、ヤ行のイエはア行のイエと區別ができないこと、恰も文字の上でも區別ができないと同様であるから、ヤ行のイエも、ア行のと同じく、i, e とするのである。ワ行に於てもヤ行同様、w の音は僅かに wa の場合に表はれるばかりで、キウエヲの四音は、ウを除くの外は、ア行のイウエオとは違つた文字でこそ表はしてあれ、イウエオと同様に發音するのであるから、ローマ字綴りでは區別をする必要がないのである。

【註】 英語では l もル、r もルであることは既に諸君が學ばれたことである。然るにローマ字綴りでラリルレロは只 r だけで表はして l は出て來ない。これは日本人の發音に l の音のないことを證するものである。なぜ ka がカを、ki がキを、ke がケを表はすかといふに、これはこの音が詰つて一音となる

ので、即ち  $k = \text{ク} + i = \text{イ}$  であるから、 $クイ = \text{キ}$ 、 $k = \text{ク} + e = \text{エ}$  であるから  $クエ = \text{ケ}$  である。即ち日本語の音は  $n$  を除くのはかはみな引延ばすと母音に終る譯である。sa, ta, na, ha, ma, ya, ra, wa, の行についても同じ道理である。

$n$  は  $n$  を以て表はす。

或る人々は、綴字の統一といふ事と、學習の容易といふ事と、この二つの理由によつて、シを  $si$  と綴り、チを  $ti$ 、ツを  $tu$ 、フを  $hu$  と綴り、ワ行のキエを  $wi, we, wo$  で書き表はさうと主張してゐる。しかしさういふ人々でもヤ行のイエと、ワ行のウだけは、ア行のイエウと文字が同一であるといふ點から矢張り  $i, e, u$  で表はしてゐる。歐米諸國では、國語は違つてゐても、文字はみなローマ字を用ゐてゐるから、日本でも漢字や假名を全廢して、ローマ字を使用しようといふ説で日本だけで通用するローマ字を書くとか、また追々には日本の音をローマ字で書いた通りの音に改めさせよう、即ち例へばサシスセソもサスイスセンにしてはうといふ考ならばとにかく、歐米人に成るべく現在の日本語の音に近いものを傳へようといふ積りならば、統一は缺けてゐてもやはり上に記した表に依つた方がよいと、私は信じてゐる。

それから濁音と半濁音は次のやうにして表はす。

ガ ga    ギ gi    グ gu    ゲ ge    ゴ go    (ガ行)

ザ za    ジ ji    ズ zu    ゼ ze    ゾ zo    (ザ行)  
 ダ da    デ ji    ツ zu    デ de    ド do    (ダ行)  
 バ ba    ビ bi    ブ bu    ベ be    ボ bo    (バ行)  
 パ pa    ピ pi    プ pu    ペ pe    ポ po    (パ行)

この表の中で特に注意すべきは、ザ行のジが  $ji$  で表はしてあるのと、ダ行のデとヅとが  $ji$  と  $zu$  とで表はしてあることである。本來はジは  $zi$  である筈と思はれるかも知れぬが、 $zi$  と書くとジとは發音されずズイと發音される。これはサ行で、シを  $si$  とせず、 $shi$  としたのと同じ道理である。しかしジはシの濁音であるから、シを  $shi$  とした以上は、ジは  $zhi$  とすべきで、却つてダ行のヂはチの濁音であるから  $チ = ch$  の濁音  $j$  を用ゐて  $ji$  とすべきであるが、これは習慣に従つて、ヂもジも區別なく、共に  $ji$  としたのである。尤もこのヂは成程チの濁音には相違ないが、既にダ行のヂであるからには、 $dzi$  と書くべきであり、又ヅは  $dzu$  とすべきであるといふ人もあるが、實際上こんな微細な區別は誰もしないから、やはり習慣に従つて、ジもヂも  $ji$ 、ズもヅも  $zu$  としたのである。ジを  $zi$  としヂを  $di$ 、ヅを  $du$  とするが如きは、例の統一主義、日本獨特ローマ字綴り論者の説である。

清音、濁音、半濁音の外に抛音といふものがあるが、それは次のやうなものである

キャ kya    キュ kyu    キョ kyo    (キャ行)

シャ sha	シュ shu	ショ sho	(シャ行)
チャ cha	チュ chu	チョ cho	(チャ行)
ニャ nya	ニュ nyu	ニョ nyo	(ニャ行)
ヒャ hya	ヒュ hyu	ヒョ hyo	(ヒャ行)
ミャ mya	ミュ myu	ミョ myo	(ミャ行)
リャ rya	リュ ryu	リョ ryo	(リャ行)
ギャ gya	ギュ gyu	ギョ gyo	(ギャ行)
ジャ ja	ジュ ju	ジョ jo	(ジャ行)
ヂャ ja	ヂュ ju	ヂョ jo	(ヂャ行)

【この二行が同一ローマ字で表はしてある理由は前述の説明によつて明らかであらう】。

ビャ bya	ビュ byu	ビョ byo	(ビャ行)
ピャ pya	ピュ pyu	ピョ pyo	(ピャ行)
クワ kwa	(クワ行)	グワ gw <sup>1</sup>	(グワ行)

これで一先づローマ字綴りの規則は述べ終つたのであるが、さて愈色々な音を組合さうとすると、また面倒な事が二つ三つ起つてくる。これを順次説明しよう。

先づ第一に長音はローマ字でどんなに表はしたらよからうか、即ち金は ka (カ) + ne (ネ) = kane でよいが、銀行は gi (ギ) + n (ン) + ko (コ) = ginko でよいかと云ふに、さうでない。ginko ではギ

ンコであつてギンカウ (コー) ではない。それではどうしたら、ギンコーと長く引張ることが出来るか。コをコーにするには、英語の長音の符號を借用してオの長音ならば  $\bar{o}$  にする。即ち銀行は gink $\bar{o}$  とすればよい。けれどもこれはアーとオーとウーの場合にはよいが、i がイであるからと云つて、イの長音イーの場合に  $\bar{i}$  としては、本當の英語のアイと紛れてしまふ。それ故ローマ字でイーの字はイイとイを二つ、即ち ii とすることになつてゐる。またエーは  $\bar{e}$  とすると、英語のイーと紛れるから、ローマ字ではエイ即ち ei とする規則になつてゐる。一見分りよいやうに長音を表にしてみると

アー =  $\bar{a}$     イー = ii    ウー =  $\bar{u}$     エー = ei    オー =  $\bar{o}$

次に促音、即ち「日光」「結構」「學校」「逼迫」のやうに音をつめるにはどうすればよいであらうか。ローマ字綴りでは、促音の次に来る子音を二つ重ねることを原則としてゐる。即ち

日光 (ニッコウ) = ni $\bar{k}\bar{o}$	結構 (ケッコウ) = ke $\bar{k}\bar{o}$
學校 (ガッコウ) = ga $\bar{k}\bar{o}$	逼迫 (ヒツパク) = hippaku

但し、「備中」「丁稚」などのやうに、促音か ch の前に来る時には、促音の次の子音を二つ重ねずに、t を促音の前に加へる。

備中 (ビッチュウ) = bitchū

丁稚 (デッチ) = detchi

次には撥音、即ちンと撥ねる音の結びつけ方に就て述べて置かね

ばならぬ。ンをローマ字で表はすことは前に述べた。即ち「けんくわん 玄関」は genkan, 「でんしん 電信」は denshin, 「へんじ 返事」は henji でよいことは既に諸君が承知の筈である。このはつおん 撥音が b, p, m の前に来る時には、n の代りに m を書くのが規則であるから、夫故「でんしん 電信」は denshin でよいが、「でんぱう 電報」は dempō とならねばならぬ。「れんま 練磨」は remma, 「さんば 産婆」は samba でなければならぬ。

またはつおん 撥音が母音の y の前に来て、しかもその撥音と、その次の音とを離して發音する必要がある時には、その間に (-) (ハイフン hyphen) を入れて書くのである。例へば「かんゐんのみや 閑院宮」は Kan-in-no-miy と書く。これがなくて續けると Kanin となつて、カンインでなく、カニンとなつてしまふ。「さんやうだう 山陽道」は San-yo-dō である。hyphen なしに續けると Sanyodō で、サニョードーと無意味な音になる。それも無意味な音になる時は人は常識によつて有意味になるやうに讀んでも呉れやうが、jin-in (人員), gen-an (原案), shin-an (新案) のやうな言葉は hyphen なしに jinin, genan, shinan と書くと、たぢま 忽ちにして「じんらん 人員」は「じにん 自任」又は「じにん 辭任」となり、「けんあん 原案」は「けんあん 下男」となり「しんあん 新案」は「しなん 指南」となつて飛んでもない誤解を與へることになる。

以上でローマ字の講義は終つた。これから章を改めて、愈よ英語の教課に進むのであるが、その前に、諸君に少しばかりローマ字の練習問題を與へて置いた方がよいと思ふ。諸君は次の課題の日本

字を讀んで、注意して一々これをローマ字で綴つて見なければならぬ。注意すべきは、次の頁にある答を見ないで、先づきこひやく 獨力で、今まで覺えた知識によつて綴ることである。愈綴れた上で、初めて答を見て間違つたところを訂正するがよい。

尙ほ一つ注意して置くが、人の名、土地の名、その他一つの物のみ通用する物名は、ローマ字で書く時(英語の場合も同様)には最初の一字は大文字で書くべきである。

## ローマ字練習課題

- |                                  |                                   |                                   |                                       |                             |
|----------------------------------|-----------------------------------|-----------------------------------|---------------------------------------|-----------------------------|
| (1) <small>しょうぎふ</small> 商業      | (2) <small>そろばん</small> 算盤        | (3) <small>ほうらく</small> 暴落        | (4) <small>ほうとう</small> 暴騰            | (5) <small>ぼつとす</small> 没頭  |
| (6) <small>でんぱう</small> 傳票       | (7) <small>きやくじん</small> 客人       | (8) <small>てんいん</small> 店員        | (9) <small>ゆにぶ</small> 輸入             | (10) <small>ゆいゆつ</small> 輸出 |
| (11) <small>しょうぎしやう</small> 貿易商  | (12) <small>ざつくわてん</small> 雜貨店    | (13) <small>けつぎよく</small> 結局      | (14) <small>はつちやく</small> 發着          |                             |
| (15) <small>こうきうび</small> 公休日    | (16) <small>びやうき</small> 病氣       | (17) <small>びやうじん</small> 病人      | (18) <small>しんはい</small> 心配           |                             |
| (19) <small>びやういん</small> 病院     | (20) <small>にふ むん</small> 入院      | (21) <small>けいくわい</small> 輕快      | (22) <small>あんしん</small> 安心           |                             |
| (23) <small>けいざい</small> 經濟      | (24) <small>けんやく</small> 儉約       | (25) <small>しんぶん</small> 新聞       | (26) <small>ざつししや</small> 雜誌社         |                             |
| (27) <small>じつようえいご</small> 實用英語 | (28) <small>でんしんりやくご</small> 電信略語 | (29) <small>もい たらう</small> 桃太郎    | (30) <small>だるま</small> 達磨            |                             |
| (31) <small>おんきう</small> 恩給      | (32) <small>かみ せう</small> 紙一帖     | (33) <small>てつぱう ちやう</small> 鐵砲一挺 | (34) <small>へいそきんべん かう</small> 平素勤勉の功 |                             |
| (35) <small>うへのこうえん</small> 上野公園 | (36) <small>べつぷせんせん</small> 別府温泉  | (37) <small>しやしんじゆつ</small> 寫真術   | (38) <small>まる ぜん</small> 丸善          |                             |
| (39) <small>みつこし</small> 三越      | (40) <small>べんけい</small> 辨慶       | (41) <small>うしわか</small> 牛若       | (42) <small>けいおんぎじゆく</small> 慶應義塾     |                             |
| (43) <small>めいじたいがく</small> 明治大學 | (44) <small>ロンドン</small> ロンドン     | (45) <small>とうきやう</small> 東京      | (46) <small>イギリス</small> イギリス         |                             |
| (47) <small>アメリカ</small> アメリカ    | (48) <small>フランス</small> フランス     | (49) <small>きうおしやう</small> 一休和尚   |                                       |                             |

- (50) 曾呂利新左衛門 (51) 赤坂 (52) 長き夜の遠の眠りの  
 みなめざめ波乗り船の音のよきかな (53) 盲目蛇に怖ぢず  
 (54) 百聞一見に如かず (55) あなたはローマ字が書けますか  
 (56) ハイ、大概のことは書けますが、早く読むことはまだできません。  
 (57) 今少しお慣れになれば、楽に読めるやうにお成りです。  
 (58) 明日晴天ならば小金井に花見  
 にゆくつもりですが、御一緒に御出でなさいませんか (59) 有  
 難うございます。幸ひに用事もありませんからお供致しませう。  
 (60) 弟さんをお誘ひなさつては如何です。 (61) 其後は御無音  
 に打過候處皆様いかが御起居被成候や伺上候。

## 上の解答

- (1) shōgyō (2) soroban (3) bōraku (4) bōtō  
 (5) bottō (6) dempyō (7) kyakujin (8) ten-in  
 (9) yunyū (10) yushutsu (11) bōekishō  
 (12) zakkaten (13) kekkyoku (14) hatchaku  
 (15) kōkyūbi (16) byōki (17) byōnin  
 (18) shimpai (19) byōin (20) nyūin  
 (21) keikai (22) anshin (23) keizai  
 (24) kenyaku (25) shimbunsha (26) zasshisha  
 (27) Jitsuyō-eigo (28) denshin-raykugo

- (29) Momotarō (30) Daruma (31) onkyū  
 (32) Kami ichijō (33) teppō itchō  
 (34) heiso kimbēn no kō (35) Ueno kōen  
 (36) Beppu onsen (37) shashinjyutsu (38) Maruzen  
 (39) Mitsukoshi (40) Benkei (41) Ushiwaka  
 (42) Keio-gijyuku (43) Meiji-daigaku (44) Rondon  
 (45) Tōkyō (46) Igrisu (47) Amerika  
 (48) Furansu (49) Ikkyū oshō  
 (50) Sorori-Shinzaemon (51) Akasaka  
 (52) Nagakiyo no tō no nemuri no mina mezame  
 naminoribune no oto no yokikana  
 (53) Mekura hebi ni ojizu.  
 (54) Hyakubun ikken ni shikazu.  
 (55) Anata wa rōmaji ga kakemasuka.  
 (56) Hai taigai no kotowa kakemasu ga hayaku  
 yomukoto wa mada dekimasen.  
 (57) Imasukoshi onare ni nareba rakuni yomeru yōni  
 onarideshō. Nanigoto mo shimbō ga dai-ichi desu.  
 (58) Myōnichi seiten naraba Koganei ni hanami ni  
 yukutsumori desu ga goissho ni oide nasaimasenka.



(59) Arigato gozaimasu. Saiwai ni yōji mo arimasen  
kara otomo itashimashō.

(60) Otōto san mo osaso nasatte wa ikagadesu.

(61) Sonogo wa gobuin ni uchisugi sōro minasama  
ikaga gokikyo nasare sōro ya ukagai age sōro.

## 中 編

## 英 語 教 課

### LESSON ONE 第一課

ミス イズ ア ブック  
This is a book.  
これは です〔一冊の〕 本

ズアット イズ アン インク ボトル  
That is an ink-bottle.  
あれは です〔一個の〕 インキ 壺

イズ ミス ア テーブル  
Is this a table?  
ですか これは〔一脚の〕 テーブル

イエス イット イズ ア テーブル  
Yes, it is a table?  
はい それは です〔一脚の〕 テーブル

イズ ズアット アン エアプレーン  
Is that an airplane?  
ですか あれは〔一基の〕 飛行機

ノウ イット イズ ナット アン エアプレーン  
No, it is not an airplane.  
いいえ あれは ではありません〔一基の〕 飛行機

イズ アン エアシップ  
is an airship.  
です〔一基の〕 飛行船

イズ ミス ア ペンシル  
Is this a pencil?  
ですか これは〔一本の〕 鉛筆

ノウ イット イズ ナット ア ペンシル  
No, it is not a pencil.  
いいえ それは ではありません〔一本の〕 鉛筆

ホラット イズ イット  
What is it?  
何 ですか それは

イット イズ ア フアウンディン ペン  
It is a fountain-pen.  
それは です [一本の] 万年筆

ホラット イズ ズイス  
What is this?  
何 ですか これは

イット イズ ア レター  
It is a letter  
それは です [一本の] 手紙

ホエアー イズ ザ レター  
Where is the letter?  
何處に ありますか [その] 手紙は

イット イズ オン ザ デスク  
It is on the desk.  
それは あります の上に [あの] 机

(譯) これは本です。

あれはインキ壺<sup>つぼ</sup>です。

これはテーブル<sup>ていぶる</sup>ですか。

はい、それはテーブル<sup>ていぶる</sup>です。

あれは飛行機<sup>ひこうき</sup>ですか。

いいえ、あれは飛行機<sup>ひこうき</sup>ではありません。あれは飛行船<sup>ひこうせん</sup>です。

これは鉛筆<sup>えんぴつ</sup>ですか。

いいえ、それは鉛筆<sup>えんぴつ</sup>ではありません。

これは何<sup>なに</sup>ですか。

それは万年筆<sup>まんねんぴつ</sup>です。

これは何<sup>なに</sup>ですか。

それは手紙<sup>ていし</sup>です。

手紙<sup>ていし</sup>は何處<sup>どこ</sup>にありますか。

それは机<sup>つくえ</sup>の上<sup>うへ</sup>にあります。

(發音上の注意) This, that の th はともに濁音であつて、th の符號をもつて表はしてあつた音であるが、日本人はとかく、これを s の濁音の g と混同する弊があるから注意して欲しい。that の a は短音 (ă) 即ちエの交つたアで、日本語のアと全然同一ではないが、煩雜<sup>はんざつ</sup>を避けるためにアで表はして置いたのである。yes をイエースと發音したり、エースと發音したりすることは初學者に有り勝ちなことであるが、本當の音はイエスである。又 no をノーといふのはよくない。ノウと發音されたい。fountain-pen の fountain は二つの syllables から出來た語で、accent が第一 syllable にあるために、第二の tain の ai はエイであるにも拘らず、tain がトエンとならずに、テインのやうに軽く發音されるのである。

It is a book. のやうな文章では、a はアと發音する。然し、a の次の語の最初の文字が母音の時には、a は an となつて、アンと發音するのである。the はその次の語の最初の文字が子音ならばザと發音し、母音の前にこの the が來るとジーとなる。しかしジーとあまり長く引張らぬやうに心掛けてもらひたい。

lēs'sɒn    ɪnk'-bōt''kle    âir'plānə''    âir'shīp''  
pēn'çil    foun'tāin-pēn''    lēt'tēr

以上は、第一課に出した英文の中にある二 syllables<sup>スィラブルズ</sup> 以上の単語である。主にも accent<sup>アクセント</sup> を示すために、<sup>ついで</sup> 茲にあげたのであるが、<sup>ついで</sup> 序に發音の記號をもつけて置いた。發音記號のことは前に述べなかつたけれども、假名で示した發音と引き比べてよく讀めば、自然に一つづゝ記號は分つてくると思ふから、別に記號に就て述べることも記號表を掲げることゝ省くことにする。ink-bottle の t や e のやうに消してあるのは、文字は書いてあつても發音しない、即ちサイレントの文字を示すのである。また accent の記號の中、' と " と二つあるのは、' は " よりも強い accent の記號である。

### 解 説

1. すべて文 (Sentence) の初めにある語は、必ず大文字 (Capital<sup>キャピタル</sup> letter) を以て始めなければならぬ。また文の終りは終止符 (Period<sup>ペリオド</sup>) 即ち [.] をつけることを忘れてはならぬ。

This is a book.

しかし疑問文、即ち物を尋ねる文には、その終りに Period<sup>ペリオド</sup> を附けずに (Interrogation mark<sup>インターロガーション マーク</sup>) (?) をつけるのである。この符號は日本語ならば (か) に相當する。

Is this a table?

また答への文で、Yes, 或は No, の次には (Comma<sup>コンマ</sup>) [,] を附ける慣<sup>なら</sup>はしである。

Yes, it is a table.

No, it is not a table.

2. book<sup>ブック</sup> とか table<sup>テーブル</sup> とか、すべて物の名稱を表はす語を名詞<sup>めいし</sup> (Noun) といふ。一つ二つと數へることの出来る物の名稱が單數即ち「一つの」といふ意味で使はれる時には、この名詞の前に a を添へるのである。尤も

That is an ink-bottle.

に於けるやうに、母音をもつて始まる語の前には a を添へないで an を添へるのである。日本語では「これは一冊の本です」「あれは一箇のインキ壺です」とは云はないで、只「これは本です」「あれはインキ壺です」といふのが普通であるが、英語では名詞には普通 a 又は an を添へるものと心得なければならぬ。そしてこの a 又は an は、その次に來る名詞によつて、或は「一冊の」ともなり、「一脚の」<sup>きやく</sup>ともなり、「一基の」(an airplane の場合のやうに) ともなり又「一本の」(a pencil, a fountain-pen, 及び a letter の場合のやうに) ともなるので、物の名稱が何であらうとも、兎に角「一つの」の意味で使はれるのであるが、意味は極めて軽いものであるから、上<sup>もよやく</sup>の直譯のところでは (一冊の) やうに括弧の中に入れて置いたのである。英文を日本文に譯する時には、普通この一語はないものと見て、譯さぬ方がよい。

3. This is a book.

の文で This を主語<sup>しゆご</sup> (Subject) と云ひ、is a book を説明語<sup>せつめいご</sup>

12  
 (Predicate) と云ふ。そしてこの二つの並べ方は、主語を最初に置いて、説明語を次に置くのである。説明語の中の is を動詞 (Verb) と云ふ。

主語	説明語	
This	is	a book.
これは	<u>あ</u> <u>も</u>	本  で

英文にどうしてもなくしてならぬ大切な部分は、主語と説明語の中の動詞であつて、この二つのものがなければ文にはならない。

この並べ方は普通文に置ける主語と動詞の並べ方であるが、疑問文に於ては、動詞を主語の前に置いて、動詞+主語の順序にする。

This is a book. (普通文)

Is this a book? (疑問文)

4. { Is this a table.  
 { Yes, it is a table.

の例に示した通り、答への文では this の代りに it を用ゐるのが普通である。日本語ならば「はい、テーブルです」と云ふのが普通で「はい、それはテーブルです」と云はないが、英語では必ず「ハイ、それはテーブルです」と答へなければならぬ。it は Yes, it is a table の文の主語であつて、英語では主語がなければ文にならぬことは前條に云つた通りであるから、どうしてもこの it を省く事はできな

い。しかし意味の上から云ふと至つて軽いものであるから、this と強く云はないで it と弱く云ふのである。意味の上から「これは」とか「あれは」とか云はなければならぬ時には this 又は that を使ふ。

5. 「それは飛行機です」のやうに、肯定する文を肯定文と云ひ、「それは飛行機ではありません」のやうに否定する文を否定文と云ふ。

It is an airplane .....(肯定文)

It is not an airplane .....(否定文)

否定の時の答へは先づ No と云ひ、動詞の次に、not を置く。

Is this a pencil? (疑問文)

No, it is not a pencil. (否定文)

6. 「これは何ですか」「あれは何ですか」と云ふやうに物を尋ねる時には what を用ゐる。what は通例文の初に置くのである。

What is it? .....(疑問文)

It is a fountain-pen .....(肯定文)

ここに至つて諸君は疑問文に二種あること、即ち what を用ゐる場合と、用ひない場合のあることに氣付かれたことと思ふ。

Is this a pencil?.....(a)

What is it?.....(b)

(a) に於ては動詞を主語の前に置くのであるが、(b) に於ては最初に what を置き、次に動詞、次に主語の順序に並べなければならぬ。また where (何處に) を疑問文中に用ゐる時は、what と同様

に文の初めに置くのである。

Where is the letter?.....(c)

【註】 これて疑問文の種類が又一つ増したやうであるが、實は

(b) と (c) とは同一種類のものである。

7. 初めて話の上に持ち出す名詞には、a 又は an を添へるのであるが、續いて名詞を使ふ時には、即ち話す人と話の相手とにその名詞がどんな特定のものの名稱を表はすのかが分つてゐる時には、a 又は an の代りに、the を添へるのである。

It is a letter.

Where is the letter?

【註】 a, an, the の三語を冠詞 (Article) といふ。そして a, an を不定冠詞 (Indefinite Article) と云ひ、the を定冠詞 (Definite Article) と云ふ。

初めて話題に上る名詞でも、「この」「あの」「その」などの意を含めて云ふ時には、定冠詞、即ち the を用ゐるのである。

It is on the table.

【注意】 on のやうな語を前置詞 (Preposition) と云ふ。前置詞のことは何れ委しく後で述べるが、ここではただ語の文法上の名稱だけを知つて置いて貰ひたい。

Exercise 練習問題

【註】 課題は何れもこれまでに學んだことを應用すれば出来るも

のばかりであるから諸君は自ら課題を英譯して、後に解答を見るやうにされたい。英譯する前に解答を見ることは大禁物である、

課題を英譯するに必要な新語

ペン pen, (ペン)	クロック clock, (柱時計, 置時計)	ウォッチ watch, (懐中時計)
スチーム steam'er, (汽船)	トレイン train, (汽車)	エレクトリック elec'tric-car, (電車)
チェア chair, (椅子)	ルーム room, (部室)	イン in, (中)
カウ cow (牛)		
ホールス horse, (馬)	ヘン hen, (牡鶏)	コック cock, (牡鶏)
		フェンス fence, (垣)
ゲート gate, (門)	バイ by, (イ)	アンブレラ umbrella, (洋傘)

次の日本語を英譯せよ。

- (1) これはペンです。
- (2) それは柱時計です。
- (3) あれは懐中時計です。
- (4) これは汽船ですか。
- (5) はい、汽船です。
- (6) あれは汽車ですか。
- (7) いいえ、汽車ではありません。電車です。
- (8) あれは何ですか。あれは椅子です。
- (9) 椅子は何處にありますか。
- (10) 椅子は部室の中にあります。
- (11) あれは牛ですか。いいえ、さうではありません。馬です。
- (12) あれは牡雞ですか。いいえ、牡雞です。
- (13) 牡雞は何處に居りますか。垣の上に居ります。
- (14) 牡雞は何處にをりますか。門の側に居ります。
- (15) あれは何ですか。あれは洋傘です。
- (16) 洋傘は何處にありますか。椅子の側にあります。

上の解答

- (1) This is a pen.
- (2) It is a clock.

- (3) That is a watch. (4) Is this a steamer?  
 (5) Yes, it is a steamer. (6) Is that a train?  
 (7) No; it is not a train. It is an electric-car.  
 (8) What is that? It is a chair. (9) Where  
 is the chair? (10) The chair is in the room.  
 (11) Is that a cow? No, it is not a cow. It is  
 a horse. (12) Is that a hen? No, it is not a  
 hen. It is a cock. (13) Where is the cock? It  
 is on the fence. (14) Where is the hen? It  
 is by the gate. (15) What is that? It is an  
 umbrella. (16) Where is the umbrella? It is  
 by the chair.

LESSON TWO 第二課

アイ アム ア ボーイ  
 I am a boy.  
 私は です [一人の] 男児

イウー アール ア ジャパニーズ ボーイ  
 You are a Japanese boy.  
 あなたは です [一人の] 日本の 男児

ヒー イズ ナット アン イングリッシン ボーイ  
 He is not an English boy.  
 彼は ではありません [一人の] イギリスの 男児

シー イズ アン アメリカン ガール  
 She is an American girl.  
 彼女は です [一人の] アメリカの 女児

アール イウー ア ドクター  
 Are you a doctor?  
 ですか あなたは [一人の] 醫師

ノウ アイ セム ノット ア ドクター  
 No, I am not a doctor.  
 いいえ 私は ではありません [一人の] 醫師

ホラツト アール イウー  
 What are you?  
 何 ですか あなたは

アイ アム ア マーチャント  
 I am a merchant.  
 私は です [一人の] 商人

アール イウー ミスター カトウ  
 Are you Mr. Kato?  
 ですか あなたは サン 加藤

フー アール イウー  
 Who are you?  
 誰 ですか あなたは

アイ アム ツトム トミタ  
 I am Tsutomu Tomita.  
 私は です 勉 富田

フー イズ ミスター カトウ  
 Who is Mr. Kato?  
 誰 ですか サンは 加藤

ヒー イズ マイ カズン  
 He is my cousin.  
 彼は です 私の 従兄弟

アール イウー アン アメリカン マーチャント  
 Are you an American merchant?  
 ですか あなたは [一人の] アメリカの 商人

ノウ アイ アム ア ジャパニーズ マーチャント  
 No, I am a Japanese merchant.  
 いいえ 私は です [一人の] 日本の 商人

(譯) 私は男児です。

あなたは日本の男児です。

彼はイギリスの男児ではありません。

彼女はアメリカの女兒です。

あなたは醫師ですか。

いいえ、私は醫師ではありません。

あなたの御職業は何ですか。

私は商人です。

あなたは加藤さんですか。

いいえ、私は加藤さんではありません。

あなたはどなたですか。

私は富田勉です。

加藤さんはあなたとどういふお付き合い合ひですか。

あの人は私の従兄弟です。

あなたはアメリカの商人ですか。

いいえ、私は日本の商人です。

(發音上の注意) boy をボーイ又はボーイのやうに發音せぬやうに注意して貰ひたい。you はユーではなくイウである。girl もガールでなく、ガ〜ルと正しく發音しなければならぬ。

本教課に出た單語のうち、二 syllables 以上の語の accent は Jăp''anē'se', Ena'lish (in'glīsh), Amēr'ican, dōc'tor mēr'chant, Mr. = Mīs'tēr cou's'in (kūz'n)

Mr. は Mister の略字であるが、この語は人の姓の前に、敬稱として置く語で、その時には必ず Mr. と略字にして使ふものである。しかし發音する時は、略字は通例、略さないで書いてあるつもりで發音するのである。

## 解 説

1. I, you, he, she や前教課に出た it などは、みな名詞の代はりに使ふ語で、<sup>だいかいし</sup>代名詞 (Pronoun) と云ふものである。これらの<sup>だい</sup>代名詞と「……です」又は「……ではありません」といふ意味を表はす動詞との結びつき方は、次の通りである。

I am.	I am not.
You are.	You are not.
He	He
She } is.	She } is not.
It	It

疑問文、及び答への文では次のやうな順序になる。

Am I?	{ Yes, you are.
	{ No, you are not.
Are you?	{ Yes, I am.
	{ No, I am not.

Is	he	}	?	Yes, she	}	is.
it	he	}		No, she	}	is not.

それで主語と動詞との順序は次の通りになるのである。

You are a doctor.

Are you a doctor?

【註】日本語では「あなたは醫師ですか」と云ふ問に對して「ハイ、私は醫師です」とも云ふが、「ハイ、さうです」とも云ふことがある。英語でもこれと同じやうな省略しょうりやくした云ひ方がある。

即ち

Are you Mr. Kato?

No, I am not Mr. Kato.

の問答において、答の文は

No, I am not.

として Mr. Kato は省略してもよい。

2. 物が「何であるか」と聞く時に what を使ふことは已に第一教課で、諸君の學ばれたことであるが、人に關して「誰ですか」と問ふ時には、who を用ひるのである。即ち

Who are you?

I am Tsutomu Tomita.

の文では、who は人の姓名を問ふために用ひたのである。然し

Who is Mr. Kato?

He is my cousin.

の問答では、已に加藤と云ふ姓が分つてゐるのに、who を用ひて問ふのであるから、who が血族關係けつそくくわんけい(續き合ひ)を問ふために使はれたことは明らかである。

しかし物に就て「何であるか」を問ふ時に使つたあの what を人に關して用ゐる時には、その人の職業を尋ねることになる。

What are you?

I am a merchant.

の問答がそれである。

【註】 who は人に關して用ゐるのみで、物に關しては使ふことはできないが、what は物にも人にも用ゐられる。ただ物に關して用ゐた時と、人に關して用ゐた時とは、この語の意味が違ふことに注意しなければならぬ。

my は「私の」と云ふ意味の言葉であることは既に諸君に分つてゐることであらう。この語の性質その他委しいことは次の教課で述べる。

3. 「私は」「私が」の意味を表はす I は、文章中どんな場所で使はれても、必ず大文字で書き始めるのである。また Japanese, English, American のやうなすべて國の名前から出た言葉も、文章の何處にあつても、必ず大文字で書き始めるのである。また Mr. も文章の中に何處にあつても必ず大文字で書き始めなければならぬ。

Mr. は男子に對する敬稱けいしょうであるが、婦人に對する敬稱は、Mrs. と Miss の二つある。Mrs. は Mr. と同様、Mistress の略字であるから Mr. にも Mrs. にも略字符 (.) をつけることを忘れてはならぬ。Mrs. は既に結婚した婦人に對する敬稱である。Miss はまだ結



婚せぬ婦人に對する敬稱である。Miss は略字ではないから、略字符をつけてはならぬ。Mrs. も Miss も Mr. のやうにいつでも大文字で書き始める。男子には既婚未婚とも一様に Mr. でよい。

エクザサイズ  
Exercise 練習問題

課題を英譯するに必要な新語

ジャパニーズ Jāp'anēs'e, (日本人)	イング リッシマン Eng'lishman (ing), (英國人)
ポリース マン pōlicē'-man, (巡査)	ローイヤー ベンコシ law'yēr, (辯護士)
ウォーア シップ war'shīp', (軍艦)	カーペンター cār'pēn-tēr, (大工)
ファーマー fārm'ēr, (百姓)	コットン ミル cōt'ton-mill (kōtn), (紡績工場)
ポストマン pōst'man, (郵便配達)	はうせきこうちやう hō'se-ki-kō-chāu
ペーパー ミル pā'pēr-mill, (製紙工場)	セいしこうちやう sei-shi-kō-chāu
シツク ナース sīck'-nūrsē, (看護婦)	かんごふ kan-gō-fu
クラーク clēr'k, (番頭)	ミュージシャン mūzī'shān, (音楽家)
メイド mā'id, (女中)	ゼントル マン gen'tlē-man, (紳士)
レディ lā'dy, (貴婦人)	ホテル hō-tel', (旅館)
ビジネスマン biz'ness-man (biz'nes), (實業家)	

次の邦文を英譯せよ。

- (1) 私は日本人です。 (2) あなたは英國人ですか。 (3) 彼  
の人は巡査です。 (4) 私は辯護士ではありません、商人です。  
(5) あれは汽船ではありません、軍艦です。 (6) 彼は百姓です  
か。いいえ、大工です。 (7) 彼は巡査ですか。いいえ、郵便配

達です。 (8) あれは紡績工場ですか。いいえ、製紙工場です。  
(9) あなたはどなたですか。私は伊藤です。 (10) 彼の女は何で  
すか。看護婦です。 (11) 彼の番頭は誰ですか。 (12) 彼の女  
は音楽家ですか。いいえ、下女です。 (13) 彼の紳士は誰れで  
すか。佐藤さんです。 (14) 彼の貴婦人は誰ですか。内田夫人です。  
(15) あれは何ですか。あれは旅館です。 (16) 御職業は何で  
すか。私は實業家です。

上 の 解 答

- (1) I am a Japanese. (2) Are you an Englishman?  
(3) He is a policeman. (4) I am not a lawyer. I  
am a merchant. (5) That is not a steamer. It is  
a warship. (6) Is he a farmer? No, he is a  
carpenter. (7) Is he a policeman? No, he is a  
postman. (8) Is that a cotton-mill? No, it is a  
paper-mill. (9) Who are you? I am Ito.  
(10) What is she? She is a sick-nurse. (11) Who  
is the clerk? (12) Is she a musician? No, she is  
a maid. (13) Who is the gentleman? He is Mr.  
Sato. (14) Who is the lady? She is Mrs.  
(Mīs'sīz) Uchida. (15) What is that? It is a

hotel. (16) What are you? I am a businessman.

LESSON THREE 第三課

Have you a bicycle?  
持ちますか あなたは 一臺の 自転車を

Yes, I have a bicycle.  
はい、私は 持ちます [一臺の] 自転車を

Has Mr. Ota a motor-cycle?  
持ちますか サンは 太田 [一臺の] 自動自転車を

Yes, he has a motor-cycle.  
はい、彼は 持ちます [一臺の] 自動自転車を

Has Mrs. Okura a motor-car?  
持ちますか 夫人は 大倉 [一臺の] 自動車を

Yes, she has.  
はい、彼女は 持ちます

Has he a carriage?  
持ちますか 彼は [一臺の] 馬車を

Yes, he has.  
はい、彼は 持ちます

What have you in your hand?  
何を 持ちますか あなたは の中に あなたの 手

I have a newspaper in my hand.  
私は 持ちます [一枚の] 新聞紙を の中に 私の 手

What has the office-boy under his arm?  
何を 持ちますか あの 小僧は の下に 彼の 腕

He has a bank-book under his arm.  
彼は 持ちます [一冊の] 銀行通帳を の下に 彼の 腕

What has the shop-girl in her hand?  
何を 持ちますか あの 女店員は の中に 彼女の 手

She has a hat in her hand.  
彼女は 持ちます [一個の] 帽子を の中に 彼女の 手

(譯) あなたは自転車をもちますか。

はい、持つて居ります。

太田さんは自動自転車をもちますか。

はい、持つていらつしやいます。

大倉夫人は自動車をもちますか。

はい、持つていらつしやいます。

彼の人は馬車を持つてゐますか。

はい、持つてゐます。

あなたは手に何を持つていらつしやいますか。

私は手に新聞紙を一枚持つてゐます。

あの小僧は腕の下に何を持つてゐますか。

彼はその腕の下に銀行通帳を一冊持つてゐます。

あの女店員はその手に何を持つてゐますか。

彼女の女はその手に帽子を一つ持つてゐます。

(發音上の注意) Mrs. をミセスと發音する日本人が少なくなれが、

之はミシズと發音すべきである。注意を要する。次は carriage で

あるが、この語をキャーレージ又はキャーリェージなどと云ふものが多い。しかし正しい音は carriage (kar'ij 又は kār'āj) で、キャリジと書き表はすのが最も正音に近い。

本課に出た二 syllables 以上の語は次のやうに發音する。

bī'çycle, mo'tor-çyle, mō'tor-car'',  
car'riage (kar'ij), nɛwz'pā'pēr (nūz'pā'pēr),  
ō'fīçə-bōy'', bank'-book'', ūn'dēr, shōp'-gīrl''

解 説

1. この課で初めて出て来た動詞は have といふ動詞で、これは「所有」を表はす動詞である。即ち「……を持つ」の意を表はすものである。

主語が I か you の時には have を用ゐる。即ち

Have you a bicycle?.....(you)

Yes, I have a bicycle. ....(I)

であるが、主語が he, she, it の時には has を使ふのである。

Has Mr. Ota a motor-cycle? } .....(he)

Yes, he has a motor-cycle

Has Mrs. Okura a motor-car? } .....(she)

Yes, she has.

Has the dog a tail? } .....(it)  
Yes, it has a tail?  
はい、その犬は 持ちます 尾を

2. 疑問文の時には、動詞を主語の前に出して、動詞+主語の順序にすることは、前課で説いた「……です」といふ動詞の場合と同じである。

I have.

Have I?

You have.

Have you?

He }  
She } has.  
It }

Has {  
he?  
she?  
it?

(主語)(動詞)  
He has

a dog

(動詞)(主語)  
Has he

a dog?

Has the boy

a dog?

3. 「何を持つてゐるか」といふ問と之に對する答は次の様にして表す。

What have I.....?

You have.....

What have you ...?

I have .....

What has {  
he }  
she } .....?  
it }

{  
He }  
She } has.....  
It }

4. my, your, his, her, its は「私の犬」(my dog), 「あなたの馬」(your horse), 「彼の手」(his hand), 「彼女の腕」(her arm), 「その尾」(its tail), などのやうに、所有を表はす代名詞であつ

て、文法上、代名詞のしよいうかく所有格 (Possessive Case) ポツセッシヴ ケース といふ。

<b>主格</b>		<b>所有格</b>
I (私は、又は私が)		my (私の)
You (あなたは、又はあなたが)		your (あなたの)
He (彼は、又は彼が)		his (彼の)
She (彼の女は、又は彼の女が)		her (彼の女の)
It (それは、又はそれが)		its (その、又はその)

What have you in **y** ur hand?

I have a newspaper in **my** hand.

こうていぶん 肯定文及び ぎもんぶん 疑問文の語の順序は次の通りである。

(主語) (動詞)  
You have a pen. (肯定文)

(動詞) (主語)  
Have you a pen? (疑問文)

What have you in your hand? (疑問文)

### エクササイズ Exercise 練習問題

課題を英譯するに必要な新語

<small>ハウス</small> house, (家、住居)	<small>ぢうきよ</small> vil'la, (別荘)	<small>ボ井ラ</small> vil'la, (別荘)	<small>ベツきう</small> ring, (指輪)
<small>キャット</small> cat, (猫)	<small>キヤメラ</small> cām'era, (寫真器)	<small>ピアノ</small> p'ān'o, (ピアノ)	
<small>オルガン</small> ór'gan, (オルガン)	<small>フラワー</small> flow'ēr, (花)	<small>ハース</small> pū'rse, (財布)	
<small>ポケット</small> pōcket, (ポケット)	<small>スティック</small> stick, (ステッキ)	<small>ドル</small> dōll, (人形)	

<small>タイプライター</small> type'writēr, (タイプライタ)	<small>プロフェツション</small> prō-fēs'sion (fěsh'qn),
(職業)	<small>ティーチャー</small> tēach'ēr, (先生)
<small>ディクショナリー</small> dīc'tionāry (dīk'shonārī), (字書、辭書)	<small>ステューデント</small> stū'dent, (生徒)

次の邦文を英譯せよ。

- (1) 私は家を持つて居ります。(2) あなたは べつきう 別荘をお持ちです。(3) 彼は自動車を持つてゐます。(4) 彼の女は指輪を持つてゐます。(5) 彼の猫には尾があります。(「尾を持つてゐる」と譯す)。あれは私の猫です。(6) あなたは寫真器をお持ちですか。はい、持つてゐます。(7) 彼の貴婦人はピアノを持つてゐられますか。いいえ、ピアノは持つて居られません、オルガンがあります(「オルガンを持つてゐる」と譯す)。(8) 彼の女は花を持つてゐますか。はい、持つてゐます。(9) 花は何處にありますか。彼の女はその手に花を持つてゐます。(10) あなたは財布をお持ちですか。はい、持つてゐます。(11) その財布は何處にありますか。私のポケットにあります。(12) あの紳士は手に何を持つて居られますか。手にステッキを持つて居られます。(13) その女兒は手に人形を持つてゐますか。はい、持つてゐます。(14) 彼はその家にタイプライターを持つてゐますか。はい、持つてゐます。(15) 彼の職業は何ですか。彼は先生です。(16) あの生徒は手に何を持つてゐますか。彼は其手に辭書を持つてゐます。

上の解答

- (1) I have a house. (2) You have a villa.  
 (3) He has a motor-car. (4) She has a ring.  
 (5) The cat has a tail. It is my cat. (6) Have you a camera? Yes, I have a camera. (7) Has the lady a piano? No, she has not a piano. She has an organ. (8) Has she a flower? Yes, she has. (9) Where is the flower? She has the flower in her hand. (10) Have you a purse? Yes, I have a purse. (11) Where is the purse? It is in my pocket. (12) What has the gentleman in his hand? He has a stick in his hand. (13) Has the girl a doll in her hand? Yes, she has. (14) Has he a type-writer in his hand? Yes, he has. (15) What is his profession? He is a teacher. (16) What has the student in his hand? He has a dictionary in his hand.

LESSON FOUR 第四課

ゼア イズ ア プリツタイ フラワア〜 イン ザ ヴェース  
 There is a pretty flower in the vase.  
 あります [一つの] 美しい 花 の中に 彼の 花瓶

ホヲット フラワア〜 イズ イット  
 What flower is it.  
 何 花 ですか それは

ホヲット イズ ザ フラワア〜  
 (What is the flower)?  
 何 ですか その 花は

イット イズ ア ローズ  
 It is a rose.  
 それは です [一つの] 薔薇

ホテット カラ イズ ザ ローズ  
 What colour is the rose?  
 何 色 ですか その 薔薇は

イット イズ レッド  
 It is red.  
 それは です 赤色

ズア アー サム フルーツ イン ザ バスケツト  
 There are some fruits in the basket.  
 あります いくつかの 果實が の中に あの 籠

ホヲット フルーツ アー ゼイ  
 What fruits are they?  
 何 果實 ですか それは

ゼイ アー アップルズ アンド バナナズ  
 They are apples and bananas.  
 それ等は です 林檎 と バナナ

アー ザ フルーツ ゼイ ブラック  
 Are the fruits (they) black?  
 ですか その 果實は それは 黒色

ノウ ゼイ アー ナツマ ブラック  
 No, they are not (black).  
 いいえ、それらは ありません 色黒く

ハウ メニ アップルズ アー ゼア ハヴ  
 How many apples are there (have  
 如何に 多くの 林檎が ありますか を持ちますか

イウー イン ザ バスケツト  
 you) in the basket?  
 あなたは の中に その 籠

ゼア There	アー are	ウィー (We)	ハヴ have)	テン ten	アップル apples
があります		私共は	を持ちます	十個の	林檎
アンド and	ファイヴ five	バナナズ bananas	イン in	ザ the	バスケット basket.
と	五個の	バナナ	の中に	その	籠
ハウ How	メニ many	ブックス books	アー are	ゼア there	イン in
如何に	多くの	本が	ありますか		の中に
ザ the	ブック ケース book-case?				
あの	本箱				
ゼア There	アー are	フィフティン fifteen	ブックス books	イン in	ザ the
あります		十五冊の	本が	の中に	あの
	ブック ケース book-case.	イン イット (in it).			
	本箱	の中に それ			
ホラット What	アー are	ソウズ those	ブックス books?		
何	ですか	それらの	本は		
ゼイ They	アー are	イングリッシ English	ブックス books.		
それらは	です	英語の	本		
アー Are	ゼイ they	アワ our	ブックス books?		
ですか	それらは	私達の	本		
ノウ No,	ゼイ they	アー are	ナット not	アワズ ours.	
いいえ、	それらは	ではありません	私達のもの		
フーズ Whose	ブックス books	アー are	ゼイ they?		
誰れの	本	ですか	それらは		
ゼイ They	アー are	アワ our	ファザース father's.	ブックス (books).	
それらは	です	私達の	父の(もの)	本は	

(譯) 花瓶くわびんに美しい花があります。

何花ですか。(その花は何ですか)。  
薔薇ばらです。

[その薔薇ばらは] 何色ですか。

赤色です。

籠かご [の中] に果實くわじつがあります。

どんな果實くわじつですか。

林檎りんごとバナナです。

その果實くわじつは黒いですか。

いいえ、黒くはありません。

[籠かごの中に] いくつ林檎りんごがありますか。

林檎りんご十個とバナナ五個あります。

本箱 [の中] に本が幾冊ありますか。

本箱 [の中] に本が十五冊あります。

[その本は] 何本ですか。

英語の本です。

その本は私達の本ですか。

いいえ、私達ではありません。

誰れの本ですか。

私達の父の本です。

(發音上の注意) there や they をゼーア、ゼーと長く引つ張つて發音したり、甚だしいのはゼ〜アー、ゼーイなどと發音する日本

人が多いが、there はゼア they はゼイと短かくハッキリと発音しなければならぬ。flower をフラワーと云つたりフラワ〜といふのはよくない。フラウア〜である。vase はヴェースでもヴーズでもよい。fruits や book の s は濁らないでスと発音するが apples や bananas の s はズと濁つて発音しなければならぬ。已に前編に於て詳しく述べて置いた通り名詞が複数になつて(名詞の単数複数)のことに就ては本課の解説で述べる) s を添へる時には k, p, t の様な無聲音の後にある s の外は凡て濁つてズ (s=z) と発音しなければならぬ。またこれは単に複数名詞の s の時ばかりではない、所有格(これも解説で述べる)の s, 即ち本課では father's の s もやはリスではなくズであるし those, whose もゾウズ、フーズと発音すべきである。よくゾース、フースといふのは間違である。

【註】 and はアンドと発音する人と、エンドと発音する人とある。實際はアとエとの中間音である。又 are もアーと表した方が英語の音に近い。ルを極く軽く響かしてアールと云つてもよいが、ルを強く響かすと下等に聞える。この音を正確に響かすにはアー(ル)とでもするのであるが、複雑になり過ぎて面倒であるから、先づアーとして置く。この語の次に母音で初まる語が来ると、子音で初まる語が来る時よりはルの音が一層ハッキリと出るのである。例へば Those are bananas. (a) であるが、Those are apples. (b) である。そして (b) の場合には、

are のルは apples の a と結びついて、ゾウズアーラ(ルア)ブルズのやうに實際には発音されるのである。(前篇第二章第四節發音附說中斷音の項参照。) それと同じ道理で、book-case の如きも、一語づつ離して發音すればブック・ケースであるが、ケはクエの詰つたもので、ブック、ケースは元來ブック・クエースであるから、これを續けて發音する時には、二つのク、即ちククが一つになつて、ブククエース即ちブククエースとなるのである。It is, that is, what is, what are の如きも一語づつに發音すると、イット、イズ、ズアット、イズ、ホフット、イズ、ホアット、アーであるが、續けて云ふ時には、イティズ(ティはトイの詰つたもの)、ズアティズ、ホフアティズ、ホフアター(タはトアの詰つたもの)と發音されるのである。There is, there are も一語づつ發音すればゼア、イズ、ゼア、アーであるが、實際上の發音はゼアリズ、ゼアラーに近いものとならなければならぬ。然しかりいふことは諸君の今日の程度ではなかなかむづかしい事であるから、段々自然に出来るやうになるまでは、一語づつハッキリと發音することに努める方がよい。

book-case のやうに、二つの語を連ねて一つの語とする節符 [-] を英語では(ハイフン) hyphen と云ふのである。

本課中に出た二 syllables 以上の語の accent を示す。

pret'ty (prīt'ī) flow'er (flou'er) col'our (kūl'qr)

ap'pl̩s    ba-nā'naʃ    man'y (mēn'i)    bās'kēt  
 bōōk'-cāse'    fīf'tēsn    Engli'sh (第二課参照)  
 fāthēr's

### 解 説

1. 名詞に<sup>たんすう</sup>単数と<sup>ふくすう</sup>複数の二種がある。一個の物を表はす名詞を単数、二個以上の物を表はす名詞を複数と云ふ。そして大抵は単数名詞の語尾に s 又は es をつけて複数名詞を作るのである。

単 flower    vase    rose    fruit    watch  
 複 flowers    vases    roses    fruits    watches

文を作る時には、主語が単数の時は動詞も単数を用ゐ、主語が複数の時は動詞も複数を用ゐるのである。

There is a flower in the vase.

There are some flowers in the vase.

There is, there are は「物の所有」を表はすに用ゐる言葉で、これ等の言葉で文を初める時には、主語はその後に來るのであるから動詞は is を用ふべきか、are を用ふべきかは、その後に來る主語の単数であるか複数であるかによつて定めるのである。

疑問文の時には、動詞を there の前に置くのである。即ち

There are some fruits in the basket. (肯定文)

Are there some fruits in the basket? (疑問文)

の順序となる。又「籠の中に何がありますか」と云ふやうな疑問文に於ては、what を are there の前に置いて次の順序にする。

What are there in the basket?

【註】日本語では「花瓶に花があります」「籠の中に<sup>くわじつ</sup>果實があります」と云ふが、英語では、A flower is in the vase. Some fruits are in the basket. とは云はないで、物の有無を表はす時には there を用ゐて文を始めるのである。元來 there は「其處に」といふ意味の語であるが、「物の有無」を表はすために使つた時には、「其處に」といふ意味はないのであるから、日本語に譯する時には「其處に」と譯してはならない。つまり there はないものとして譯せばよい。

2. 「美しい」(pretty), 「赤い」(red), 「黒い」(black) のやうに、名詞を形容する語を<sup>けいようし</sup>形容詞 (Adjective) と云ふ。

<sup>けいようし</sup>形容詞には二つの<sup>ようほう</sup>用法がある。一つは名詞の前に置いて (a) This is a red rose. (これは赤い<sup>さか</sup>薔薇です) のやうに云ひ、今一つは動詞の前に置いて (b) This rose is red. (この<sup>さか</sup>薔薇は赤色です) のやうに云ふのである。

What を用ゐて物を問ふ場合にも、兩様の問ひ方のあることは日本語と同じである。次の兩文を比較して、what と flower の<sup>ゐち</sup>位置の違つてゐるのを注意して貰ひたい。



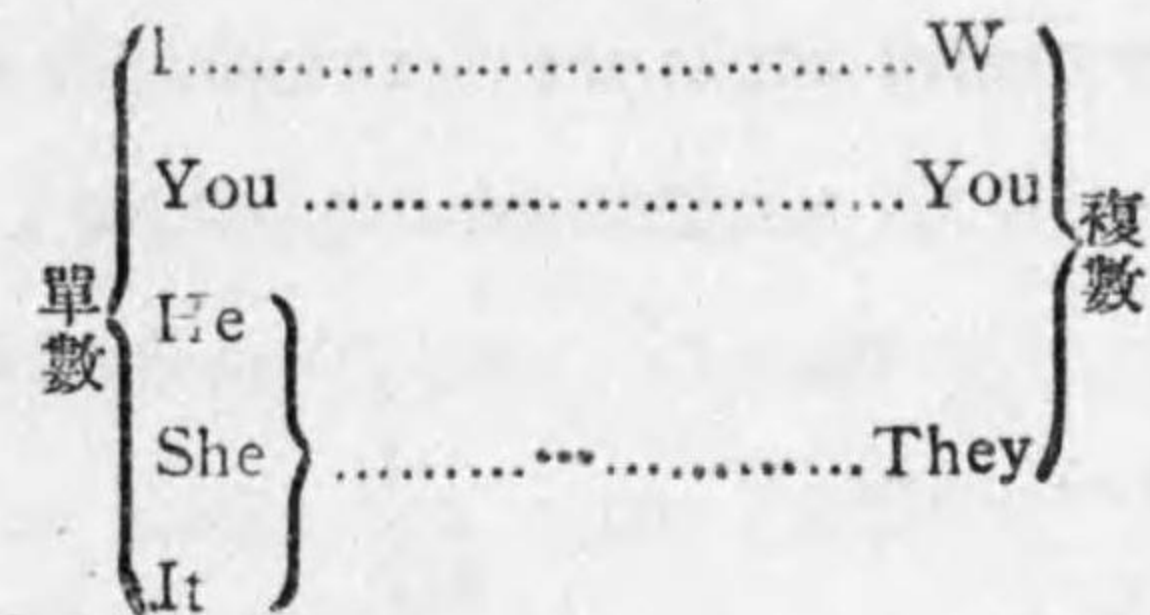
- (a) What flower is it? (それは何花ですか)
- (b) What is the flower? (その花は何ですか)

「一つ」「二つ」「三つ」「四つ」のやうに物の数を表はす語も一種の形容詞であるが、別に数詞 (Numerals) と名づける。一から二十までの数詞は

1 I <sup>ワン</sup> one	2 II <sup>トゥー</sup> two	3 III <sup>スリー</sup> three
4 IV <sup>フワウ</sup> four	5 V <sup>ファイブ</sup> five	6 VI <sup>シックス</sup> six
7 VII <sup>セヴン</sup> seven	8 VIII <sup>エイ</sup> eight	9 IX <sup>ナイン</sup> nine
10 X <sup>テン</sup> ten	11 XI <sup>イレヴン</sup> eleven	12 XII <sup>トゥエルヴ</sup> twelve
13 XIII <sup>サーティーン</sup> thirteen	14 XIV <sup>フォーティーン</sup> fourteen	
15 XV <sup>フィフティーン</sup> fifteen	16 XVI <sup>シックスティーン</sup> sixteen	
17 XVII <sup>セヴンティーン</sup> seventeen	18 XVIII <sup>エイティーン</sup> eighteen	
19 XIX <sup>ナインティーン</sup> nineteen	20 XX <sup>トゥエンティ</sup> twenty	

【註】 1, 2, 3, のやうな数字は、アラビヤで始めたといふのでアラビヤ数字 (Arabic) と云ひ。I, II, III のやうな数字はローマで始めたといふのでローマ数字 (Roman) と云ふ。時計の文字板などに普通用ひられる数字である。

3. 名詞に単数と複数があるやうに、代名詞にも単数と複数がある。単数代名詞は已に諸君が學ばれたことであるが、複数代名詞は We, you, they の三つで、単数と複数とを表にすると



「ある」と云ふ意味を表はす動詞は、主語が単数の時は、I am You are, (He, She, It) i のやうに變ずるが、主語が複数時にはすべて一様に are となる。即ち We are, You are, They are である。単数の時は、(a) I am a boy, 複数の時は (b) We are boys となるので、(a) の如く主語が単数の時には動詞の次に來る名詞も単数 (b) の如く主語が複数の時には動詞の次に來る名詞も複数となる。

複数名詞を主語に用ゐる場合は、複数代名詞の They を用ゐる場合と同じと心得られたい。また単数名詞を主語に用ゐる場合は、単数代名詞 It を主語にする場合と同じである。

- { The flowers are pretty.
- { They are pretty.
- { The flower is pretty.
- { It is pretty.

4. 『林檎が幾つあるか』『本が幾冊あるか』といふやうな疑問文は How many をもつて書きはじめる。

How many apples are there (have you) in the basket?

How many books are there in the book-case?

複数代名詞と have (持つ) との関係は次の通りである。

単 数	I	have.	複 数	We	have.
	You	have.		You	have.
	He	} has.		They	have.
	She				
	It				

即ち、have は主語が単数であつても複数であつても變化しないが、只主語が He, she, It の時だけは has と變るのである。

所有格代名詞の複数は our, your, their の三つで、単数と比較すれば次の通りである。

単 数	my	複 数	our
	your		your
	his		} their
	her		
	its		

名詞の所有格は、名詞に ['] (apostrophe) と s を加へて作る。

They are my father's books.

所有格にすることの出来る名詞は、先づ人間と動物とに限られてゐるものと心得てよい。

上例、They are my father's books. といふ代りに、單に They are my father's. としてもよい。つまり「父の本です」といふの

を略して「父の[本]です」といふに相當する。「私の本」は my book 又は mine, 「あなたの本」は your book 又は yours, 「彼れ(彼の女)の本」は his (her) book 又は his (hers), 「私達の本」は our books 又は ours, 「彼等の本」 Their books は又 theirs である。

エクザサイズ Exercise 練習問題

課題を英譯するに必要な新語

- クリサンセマム <sup>イエロ</sup> chrys-an'themum (菊), <sup>バクターフライ</sup> yell'low (黄色), <sup>バターフライ</sup> but'ter-fly
- てう <sup>バクターフライズ</sup> table (食卓), <sup>リーフ</sup> somə (sūm) (幾つかの), <sup>リーヴス</sup> glās
- テーブル <sup>しよくたく</sup> somə (sūm) (幾つかの), <sup>グラス</sup> glās
- (コップ) <sup>グラセズ</sup> [複數 glasses], one (wun), two (toō), thrēe, four, five, six (sīks), sēv'en, <sup>オレンジ</sup> <sup>みんか</sup> or'ange (蜜柑)
- [複數 oranges], <sup>オレンゼズ</sup> nine' tēn'', <sup>ペシムモン</sup> <sup>かき</sup> pērsim'mon (柿)
- [複數 persimmons], <sup>ペシムモンズ</sup> e-lēv'en, <sup>チェスナツト</sup> <sup>くり</sup> Ches'nut (栗)
- 複數 chestnuts], <sup>チェスナツツ</sup> man'y (mēn'ī) (澤山の), <sup>ティー</sup> <sup>マ〜ヤンツ</sup> <sup>ディリゼント</sup> tēa-mer'chant (茶商) [複數 tea-merchants], dil'gent (勤勉な),
- <sup>ヴェリ</sup> <sup>ひじやう</sup> vē'ry (非常に), <sup>マザ〜</sup> <sup>マザ〜ズ</sup> <sup>スイスター</sup> mōth'ēr (母) [複數 mothers], sīs'tēr
- <sup>しにい</sup> <sup>スイスターズ</sup> (姉妹) [複數 sisters], <sup>アンクル</sup> <sup>をぢ</sup> <sup>アンクルズ</sup> ūn'ele (叔父) (複數 uncles),

ブラザー キヤウだい      ブラザーズ      ソファ ナがイス  
broth-ēr (兄弟) 複数 brothers],      so'fa (長椅子) [複数  
ソファズ      アント      なは      アーンツ      ライト  
sofas],      äunt (叔母) [複数 aunts],      light (軽い)

次の邦文を英譯せよ。

- (1) この花は何花ですか。菊です。 (2) その花は何色ですか。黄色です。 (3) あれは美しい蝶てふです。蝶は葉の上にゐます。蝶は何疋ひきゐますか。三匹さんびきゐます。 (4) 食卓しょくたくの上うへにいくつかコップがあります。 (5) いくつありますか。ひ一、ふ一、み一、よ一、いつ、む一、なな七つ——あります。 (6) この籠かごに蜜柑みつかんがいくつありますか。十九じゅうきゅうあります。 (7) この籠かごには柿かき十一個じゅういちこと栗くりが澤山たくさんあります。 (8) あなたは商人しょうじんですか。はい、私達わたしたちは茶商ちやしょうです。 (9) あの少年せうねん達は勤勉きんべんですか。はい非常に勤勉きんべんです。 (10) あの貴婦人きふじんはあなたのお母おははさまですか。いいえ、あれは私の姉あねです。 (11) あれはお父おふちさまの御別荘ごべつそうですか。いいえ、あの別荘べつそうは叔父おじのです。 (12) 御兄弟ごきやうだいは大勢おほぜいいらつしやいますか。兄弟三人けいだいさんにんと姉妹三人せいまいさんにんあります。 (13) この室むろにはいくつ椅子いすがありますか。長椅子ながいす一脚いちあしと椅子いすが六脚ろくあしあります。 (14) その洋傘やうさんはお母おははさまのですか。いいえ、母ははのではありません、叔母おははのです。大層おほぜい軽い洋傘やうさんです。

### 上の解答

- (1) What is this flower? It is a chrysanthemum.  
(2) What colour is it? It is yellow. (3) That

is a pretty butter-fly. The butter-fly is on the leaf.  
(4) How many butter-flies are there? There are three (butter-flies). (5) There are some glasses on the table. (6) How many are there? One, two, three, four, five, six, seven—there are seven glasses. (7) How many oranges are there in this basket? There are nineteen (oranges). (8) There are eleven persimmons and many chestnuts. (9) Are you merchants? Yes, we are tea-merchants. (10) Are those boys diligent? Yes, they (the boys) are very diligent. (11) Is that lady your mother? No, she is my sister. (12) Is this your father's villa? No, that villa (it) is my uncle's. (13) Have you many brother's? I have two brothers and three sisters. (14) How many chairs are there in this room? There are a (one) sofa and six chairs. (15) Is that umbrella your mother's? No, it is not hers. It is my aunt's. It is a very light umbrella.

【註】第6題にある——の符號は英語では dash と呼ぶのであ

る。前に云つたことを更に詳しく云ふやうな時によく使はれるものである。

LESSON FIVE 第五課

How old are you?
如何に 年取つて おゐでですか あなたは

I am fourteen years old.
私は です 十四 歳 [年取つて]

How tall are you?
どんなに 丈高く ありますか あなたは

I am four feet and five inches tall.
私は です 四 フート と 五 インチ [高い]

How tall is your sister?
どんなに 丈高く ありますか あなたの 姉妹は

She is about four feet and seven inches tall.
彼女は あります 大凡 四 フート と 七 インチ [高い]

What time is it by your watch?
何 時 ですか [それが] では あなたの 懐中時計

It is just eleven o'clock.
[それは]です 丁度 十一 時

How many minutes has an hour?
如何に 多くの 分が ありますか 一 時間には

An hour has sixty minutes.
一 時間には あります 六十 分

How many hours has a day?
如何に 多くの 時間が ありますか 一 日には

A day has twenty-four hours.
一 日には あります 二十 四 時間

How many days are there in a month?
如何に 多くの 日が ありますか に 一 ケ 月

There are thirty days.
あります 十 日

How many months has a year?
如何に 多くの 月が ありますか 一年に

A year has twelve months.
一ケ 年に あります 十二 ケ 月

How many days are there in a week?
如何に 多くの 日が ありますか に 一 週 間

There are seven days.
あります 七 日

What is the first day of the week?
何 ですか 最初の 日は の 週

It is Sunday.
[それは]です 日曜日

What day of the week is it to-day?
何 日 の 週 ですか [それが] 今日

It is Monday.
[それは]です 月曜日

(読) あなたはお幾つですか。

私は十四になります。

あなたのお丈はいかほどです。

私は四フット五インチです。

あなたのお姉妹のお丈はいかほどですか。

彼女は約四フット七インチです。

あなたのお時計では何時ですか。

丁度十一時です。

一時間には何分ありますか。

〔一時間には〕六十分あります。

一日には何時間ありますか。

〔一日には〕二十四時間あります。

一ヶ月には何日ありますか。

三十日あります。

一年には何ヶ月ありますか。

〔一年には〕十二ヶ月あります。

一週間には何日ありますか。

七日あります。

週の最初の日は何曜日ですか。

日曜日です。

今日は何曜日ですか。

月曜日です。

((発音上の注意)) inches は in'chēs である。終りの s を濁ること  
を忘れてはならぬ。o'clock の o の次の符號〔'〕は accent 記號  
ではなくて、前課に述べた Apostrophe であるが、この場合は所有  
格を表す符號として用ゐられたのではなく、o の次に文字の略さ  
れてゐることを表はしたのである。accent と間違つてはならぬ。  
即ちこの語の accent は第二 syllable にあるので、o は極めて軽  
く發音して clock に力を入れるのである。(ə-'clock')。この語は of  
the clock の約されたものである。minute は (mi-nit) と發音す  
る。hour の h はサイレント。first はフア〜ストである。

## 解 説

1. 年齢、身長、長さ、幅、深さ、高さ等を問ふには、それぞれの意味を表す形容詞を動詞の前に置き、その形容詞の前に How を置くのである。これは前課で學んだ How many に準ずる用法であるが、念のため、ここに例文を擧げる。

How old are you? I am fourteen years old.

How tall are you? I am four feet tall.

How long is the pencil? It is eight inches long.  
鉛筆の長さは何程ありますか

How wide is this board? It is two feet wide.  
この板の幅は何程ですか

How <sup>ディープ</sup> deep is this <sup>ウェル</sup> well? It is two feet wide.  
この井戸の深さは何程ですか

How tall is this <sup>トリー</sup> tree? It is seven feet tall.  
この木の高さは何程ですか

How <sup>ハイ</sup> high is this <sup>ボックス</sup> box? It is three inches high.  
この箱の高さは何程ですか

即ち How old.....? How tall? 等の問に対する答へは、夫れ夫れ形容詞をもつて結ぶのである。そして疑問文と肯定文とに於ける語の順序は次の通りである。

How old is he? (疑問文)

He is eighteen years old. (肯定文)

【註】 木などの高さを表はす時は tall を、箱などの高さを表はす時は high を使ふ。

2. 時間を表はすには It is の形を用ゐる。即ち

It is eleven o'clock.

疑問文(何時ですか)では What time is it? となる。

「何分過ぎ」の「過ぎ」は <sup>パスト</sup> past, 「何分前の」「前は」to を用ゐる。

It is five minutes past three (o'clock).

It is eight minutes to nine (o'clock).

It is a quarter (四分の一 <sup>クォーター</sup> quarter) past five.

It is a quarter to ten.

It is half (半分, half) past seven.

「何時何十分」の時に三十分までは past を用ゐる 三十一分からは、何時三十一分と云はず、その次の時間に何分前、即ち何時に二十九分前といふ風に云ふのが英語の慣はしである。即ち

It is twenty minutes past six. (六時二十分)

It is twenty minutes to seven. (六時四十分)

【註】 日本語では「六時四十分」と「七時二十分前」と二つの言ひ表はし方が行はれてゐるが、英語では、必ず「七時二十分前」(twenty minutes to seven) の云ひ方を用ひなければならぬ 又日本語では「五時半」とも、「五時三十分」とも云ふが、英語では必ず half past five と云つて thirty minutes past five とは云はない。

3. There are と have とが同一のことを述べるために用ゐられることがあるのは、既に前課に於て氣付かれたことと思ふが、

There are twenty-four hours in a day.

A day has twenty-four hours.

との二文は、全然同一の意味を表はすものである。

【註】 hour は「一時間、二時間」などのやうな「時間」を表はすに用ひ、o'clock は「十時五分」とか「三時半」とか云ふやうに「時刻」を表はす場合に用ゐるのである。

4. 二十一以上の数詞は左の通り。(Roman 数字は記さない)。

21=twenty-one

22=twenty-two

23=twenty-three	24=twenty-four
25=twenty-five	26=twenty-six
27=twenty-seven	28=twenty-eight
29=twenty-nine	30=thirty

三十以上の数字は一々示さなくても「四十」「五十」の臺だけ示せば諸君は容易に自ら作ることが出来る筈である。

40=for'ty	50=fifty	60=six'ty
70=sev'enty	80=eight'y	90=nine'ty
100=one hun'dred		

即ち「四十一」は forty-one, 「五十二」は fifty-two, 「六十三」は sixty-three のやうにして作る。つまり twenty にハイフン「-」と one, two, three を添へて「二十一」, 「二十二」, 「二十三」を作る例にしたがへばよいのである。

【註】 forty は全體 fourty であり, eighty は eightty となるべき筈のやうに思はれるが, この二語に限つて綴りが不規則で fourt の u が取れ eightty の t が取れるのである。書く時は綴り方に注意してもらひたい。

百以上の数詞は

20) = two hundred 1,000 = one thousand 2,000 = two thousand  
 10,000 = ten thousand (「萬」といふ單位は英語にはないので, この通り「十千」といふ) 100,000 = one hundred thousand (「十萬」

といふ單位は日本語にもないが, 英語にもない), 1,000,000 = one million (「百萬」といふ單位は日本語にはないが, 英語にはある)。

読む時には hundred の次に必ず and を入れて読む。たとへば

365 = three hundred and sixty-five.

3,456 = three thousand four hundred and fifty-six.

6. 第一、第二、のやうに順序を表はす数詞を序數 (Ordinal Number) と云つて「一、二」と數へる數詞、即ち基數 (Cardinal Number) と區別する。

序數は次のやうに作る。

「first=1st 「sec'ond=2nd 「third=3rd 「fourth=4th 「fifth=5th 「sixth=6th 「seventh=7th 「eighth=8th 「ninth=9th 「tenth=10th 「eleventh=11th 「twelfth=12th 「twentieth=20th 「twenty-first=21st 「twenty-second=22nd 「twenty-third=23rd 「twenty-fourth=24th \*thir'tieth=30th \*for'tieth=40th hundredth=100th thousandth=1,000th

即ち, first, second, third の外にはすべて基數に th を添へて作るのである。\*形のつけてある分は特に綴り方に注意を要する。

序數には通例 the をつけて, the first, the second といふ。

日を表はす名詞には序數を用ひ、常に定冠詞 the をつける。

月の名稱と曜日の名稱を下に記す。

ジヤニユアリ Jan'uary, 一月	フエブルアリ Feb'ruary, 二月	マーチ March, 三月	エープリル A'pril, 四月	メイ May, 五月
ジュン June, 六月	ジュライ July, 七月	オーガスト Au'gust, 八月	セプテンバ Septem'ber, 九月	オクトバ October, 十月
ノウヴエンバ No'vember, 十一月	デイセンバ Decem'ber 十二月			
サンデー Sun'day, 日曜日	マンデー Mon'day, 月曜日	トゥーズデー Tues'day, 火曜日	ウェズデー Wednes'day, 水曜日	
サーズデー Thurs'day, 木曜日	フライデー Fri'day, 金曜日	サタデー Sat'urday, 土曜日		

月の名と七曜日の名とはいつでも必ず大文字で書きはじめる。

### Exercise 練習問題

課題を譯するに必要な新語

ジヤスト ちやうど jüst (丁度)	ディクショナリ d'c'tion-a-ry (字書、辞書)	じしよ 辞書	スイツク あつ thick (厚い)
アバウト a-bout' (程)	ナウ now (今)	セコンド sec'ond (秒)	スーズン きせつ season (季節)
スプリング spring (春)	サママー sūm'mēr (夏)	オータム au'tumn (秋)	ウィンター win'tēr (冬)
パーク pärk (公園)	ファーマス fä'mous (有名な)	ラスト läst (最後の)	

次の邦文を英譯せよ。

- (1) 加藤さんはおいくつですか。丁度三十五歳です。(2) この辞書はどのくらい厚さがありますか。(3) 六時ほどあります。(4) あなたの懐中時計では十時三十分ですか。いいえ、十時四十分です。(4) 今何時ですか。あの柱時計では恰度十二時です。(5) 一分には幾秒ありますか。六十秒あります。(6) 一年には幾日あ

- りますか。三百六十五日あります。(7) 一年には季節が幾つありますか。四季あります。(8) 四季とは何ですか。春夏秋冬です。(9) 東京には公園がいくつありますか。有名な公園が四つあります。(10) 今日は何曜日ですか。金曜日です。(11) 週の最後の日は何曜日ですか。土曜日です。(12) 今日は何日ですか。二月二十五日です。(13) 第三番目の月は何月ですか。三月です。(14) 第三番目の季節は何ですか。秋です。

### 上の解答

- (1) How old is Mr. Kato? He is just thirty-five years old. (2) How thick is this dictionary? It is about six inches thick. (3) Is it half past ten by your watch? No, it is twenty minutes to eleven. (4) What time is it now? It is just twelve by that clock. (5) How many seconds has a minute? It has sixty seconds. (6) How many days has a year? It has three hundred and sixty-five days. (7) How many seasons are there in the year? There are four seasons in the year. (8) What are the four seasons? They are spring, summer, autumn, and winter. (9) How many parks are there in



Tokyo? There are four famous parks in Tokyo.  
 (10) What day of the week is it to-day? It is Friday.  
 (11) What is the last day of the week? It is Saturday.  
 (12) What day of the month is it to-day? It is the 25th of February.  
 (13) What is the third month of the year? It is March.  
 (14) What is the third season of the year? It is autumn.

LESSON SIX 第六課

Do you get up early in the morning?  
 か あなたは お起き ます 早く

Yes, I get up very early in the morning.  
 はい 私は 起き ます 大變 早く

When do you take breakfast?  
 何時 か あなたは なさいます 朝食を

I take breakfast at seven.  
 私は 致します 朝食を に 七時

What time do you get to the office?  
 何時 か あなたは お着きです に

office?  
 店

I get to the office at a quarter  
 私は 着きます に 店 に 十五分

to nine.  
 前 九時

Does your father go to market  
 か あなたの お父さまは おいでです に 商賣に

every day.  
 毎 日

Yes, he goes to market every day.  
 はい 彼は 行きます に 商賣に 毎 日

Is your brother a merchant too?  
 ですか あなたの 御兄弟は [一人の] 商人 亦

Yes, he is.  
 はい 彼は あります

Where does he live?  
 何處に ですか 彼は お住ひ

He lives in Osaka, but comes here  
 彼は 住んでゐます に 大阪 然し 來ます 當地へ

every Sunday.  
 毎 日曜日に

Do they speak English at your father's  
 か 彼等は 話します 英語を では あなたの お父さまの

firm?  
 商店

イ・ス ゼイ スピーク イングリッシ フレンチ アンド ジャーマス  
 Yes, they speak English, French and German  
 はい 彼等は 話します 英語 佛語 及び 獨語を

アット ヒズ ファーム  
 at his firm.  
 では 彼の 商店

キャン イウー スピーク イングリッシ  
 Can you speak English?  
 ますか あなたは 話せ 英語

イエス アイ キャン バット アイ キャン ナット スピーク  
 Yes, I can, but I can not speak  
 はい 私は 話せます 然し 私は ませぬ 話せ

ザ アザー トゥー ラングエーゼズ  
 the other two languages.  
 [彼の] 他の 二つの 國語を

メイ アイ ゴー アウト フォーア ア ウォーク  
 May I go out for a walk?  
 よろしいか 私は 行つて 散歩に

イエス イウー メイ バット ゴー トゥー  
 Yes, you may, but go to the  
 はい あなたは 行つてもよろしい しかし 行き へ (彼の)

ポスト オフィス アンド メール ゼイス レター ファースト  
 post-office and mail this letter first.  
 郵便局 そして 出なさい この 手紙を 先づ

マスト アイ ゴー ゼーア アット リンス  
 Must I go there at once?  
 なければなりませんか 私は 行か 彼處へ 直ぐに

イエス イウー マスト  
 Yes, you must.  
 はい あなたは (直ぐに行かなければ)なりません

マスト アイ カム ホーム ビフォーア シックス  
 Must I come home before six?  
 なければなりませんか 私は 歸つて 來 前に 六時

ノウ イウー ニード ナット ドゥー ソウ バット イウー  
 No, you need not do so, but you  
 いいえ あなたは なくともよろしい し さう しかし あなたは

マスト ナット ステア アウト トゥー ロング  
 must not stay out too long.  
 なりません 居つては 外に あまり 永く

メイ アイ テイク タロー ウィズ ミー  
 May I take Taro with me?  
 よろしいか 私は つれて 太郎を と 私

イエス イウー メイ バット ドント フォグット トゥー  
 Yes, you may, but don't forget to  
 はい あなたは つれてよろしい しかし なさるな 忘れ ことを

ココ トゥー ザ ポスト オフィス  
 go to the post-office.  
 行く へ [彼の] 郵便局

(譯) あなたは朝早くお起きなさいますか。

はい、非常に早く起きます。

何時に朝食をなさいますか。

七時に致します。

何時に店にお着きですか。

九時十五分前につきます。

あなたのお父さまは毎日商賣にお出でなさいますか。

はい、毎日参ります。

あなたの御兄弟も商人ですか。

はい、さうです

彼の方はどこにお住ひですか。

大阪に住んでゐますが、毎日曜日には當地ところへ参ります。

お父さまの商店では英語をお話しになりますか。

はい、英語と佛語と獨語を話します。

あなたは英語をお話しになれますか。

はい、話せます。然し他の二つの國語(佛語と獨語)は話  
せません。

散歩さんぽに行つても宜しうございますか。

はい、行つても宜しい。しかし先づ郵便局へ行つてこの  
手紙を出して下さい。

直ぐに行かなければなりませんか。

はい、直ぐに行かなければなりません。

六時前に歸つて來なければなりませんか。

いいえ、それには及びませんが、あまり永く外出して  
てはいけません。

太郎君も一緒に行つて宜しいですか。

一緒に行つても宜しいが、郵便局へ行くことを忘れては  
いけません。

(發音上の注意) ēər'ly mōrn'ing vēr'y bræək-fast ōf'fīçə  
mār'ket evər'y Gēr'mən lān'guāçə həfōrə' fōr-gēt'

### 解 説

1. 今までに學んだ is, are, has, have といふ動詞以外の動詞、  
たとへば get, take, go, live, come, speak, stay, forget (以上の動  
詞はみな本課中に用ひてある)のやうな動詞も、肯定文に於ては、  
is, has 等の動詞と同じく、主語の次に置くのであるが、疑問文に於  
ては少しく用法が異つてゐる。

即ち are (is と同じ) や has (have も同じ) の場合には、只動  
詞を主語の前に置くだけで、肯定文ならば You are a boy. といふ  
ところを、疑問文ならば Are you a boy? とし、She has a doll.  
といふ肯定文は Has she a doll? となつて疑問文となるのであつ  
たが、この二種類以外の動詞を用ゐて疑問文を作るときには、文法  
上、助動詞 (Auxiliary Verb) と稱する語、即ち do を文首に加へ  
て、動詞は肯定文の場合とおなじく主語の次に置くのである。

Do you get up early in the morning?

Yes, I get up early in the morning.

決して get you up early in the morning と云つてはならぬ。

When, What time は共に「いつ……?」と問ふ時に用ゐる疑問  
詞で、何れも同一意味であつて、また同一用法の語句である

2. He, She, It が主語の時には、之に伴ふ動詞の語尾に s 又は  
es を添へねばならぬ。

Does your father go to market every day?

Yes, he goes to market every day.

【注】 助動詞 do を用ゐるには、この助動詞に es を添へるので、  
動詞には變化はない。即ち Does your father goes……? で  
はなく、Does your father go……? でよい。上に He, She,  
It が主語の時には、語尾に s 又は es を添へると云つたが、  
father, brother, Mr. Ito などは、「彼れ」「彼女」「それ」など

と等しく第三者を指すのであるから、文章上の用法は、He, She, It と同様である。They はやはり第三者を指す語であるが、複数であるから、これに伴ふ動詞には s 又は es を添へない。

上のやうな組合せの文を否定文にする時にも助動詞 do を用ゐる。即ち is, have の二種以外の動詞を否定文に用ゐたる時には、do を加へねばならぬ。次の文を比較せよ。

{ Is he a Japanese boy?  
No, he is not a Japanese boy. He is an American boy.

{ Do you live in Tokyo?  
No, I do not live in Tokyo. I live in Osaka.

3. 助動詞には、上に述べた do の外に、「能ふ」「能はぬ」の意を表はす Can といふのがある。この助動詞は主語の単数複数によつて形を變じない。

Can you speak English?

Yes, I can speak English, but I can not speak French.

Can の外に、may, must, need といふ助動詞がある。これらの助動詞も can と同様、主語の単複によりて形を變じない。

May は「……して宜しい」と「許す」の意を表はし、この否定「……してならぬ」と禁止の意を表はすには must not を用ゐる。

Must は「……せねばならぬ」の意を表はし、その否定「……するに及ばぬ」には need not を用ゐる。

May I go out for a walk?

Yes, you may. (go out for a walk.)

Must I go there at once?

Yes, you must. (go there at once.)

Must I come home before six?

No, you need not (come home before six), but, you must not stay out too long.

4. Go to the post-office. Don't forget to go to the post-office. 此のやうな文を命令文といふ。命令文の特色は、普通主語を略して動詞をもつて文を書きはじめることである。

【註】 命令文で主語を略する譯はかうである。元來命令は自分に對して自分が命令することもなく、之を會話に交つてゐない第三者に對して命令することもない筈であるから、主語はいつも you で、I や he であることはない。それで主語を省略してもどんな主語が省略されてゐるか、即ち you が略されてゐるといふことが分るからである。しかし特に力を入れて強く命令する時には、主語を省略せぬこともある。即ち you go to the post-office といふ場合は、普通の場合以上に you に力が入つてゐるので、「他人ではいけない、お前が行け」といふやうな

意味になるのである。

本課題中に書いた get up, take breakfast, go to market, come home のやうな成句は、よく記憶して置いてもらひたい。

### Exercise 練習問題

課題を譯するに必要な新語

ランチ	べんごう	アット	ヌーン	ゴートゥー	ベッド
lunch	(辨當)	at	noon	go to	bed
やす	ヴェリ	ハード	スタディ		
(寝む)	very	hard	study		
		(一生懸命に)	(勉強する)		
マウント			スワイム		
Mt. Fuji	(Mt. = mount)	(富士山)	swim	(泳ぐ)	
マイル	ウォーク	フット	ボール	しうきう	プレー
mile	(哩)	walk	(歩く)	foot-ball	(蹴球)
				play	
(出来る)	テニス	ていきう	ジス	アフタヌーン	
	tennis	(庭球)	this	afternoon	(今日午後)
ゴートゥー	シー	バイ	イ	イーヴニング	
go to	see	(の處へ行く)	by	the	evening
					(晩までに)
カム	バック		スーション		
come	back	(歸る)	station	(stāshon)	(停車場)
プリーズ		クローズ	ウインドウ	まさ	
please	(どうぞ)	close	(閉ぢる)	window	(窓)
オープン		レンド			
open	(開ける)	lend	(貸す)		

次の邦文を英譯せよ。

- (1) あなたは何時に起きますか。私は毎朝六時二十分に起きます。  
 (2) あなたは何時に辨當をお使ひなさいますか。私は正午に辨當を食べます。  
 (3) あなたは九時にお寝みですか。いいえ、私は寝

る前に一生懸命に英語を勉強して十時に寝ます。(4) 富士山はどれほど高さがありますか。一萬二千四百二十五<sup>フイート</sup>あります。(5) あなたは泳ぎが出来ますか。はい、出来ます。(6) あなたは一日に何哩歩けますか。私は一日に二十五哩歩けます。(7) あなたは蹴球<sup>けまり</sup>が出来ますか。いいえ、出来ません。然し庭球<sup>ていきう</sup>は出来ます。(8) 今日加藤君の處へ行つてもよろしいか。はい、よろしい。しかし晩までに歸つて来なければなりません。(9) 私はすぐに停車場へ行かなければなりませんか。いいえ、それには及びません。(10) 戸を閉ぢなさい。(11) 窓を開けなさい。(12) どうぞ金を十圓貸して下さい。

### 上の解答

- (1) When do you get up in the morning? I get up at twenty minutes past six every morning. (2) What time do you take lunch? I take lunch at noon. (3) Do you go to bed at nine? No, I do not. I study English very hard before I go to bed at ten. (4) How high is Mt. Fuji? It is 12,425 (twelve thousand four hundred and twenty-five) feet high. (5) Can you swim? Yes, I can (swim.) (6) How many miles a day can you walk? I can walk

twenty-five miles a day. (7) Can you play football?  
 No, I can not, but, I can play tennis. (8) May I go  
 to see Mr. Kato this afternoon? Yes, you may, but  
 you must come back by the evening. (9) Must I  
 go to the station at once? No, you need not.  
 (10) Close the door. (11) Open the window.  
 (12) Please lend me ten yen.

LESSON SEVEN 第七課

That gentleman is taller than I.  
 あの紳士はあります一層高くより私

But he is shorter than my brother.  
 しかし彼はあります一層低くより私の兄弟

I am lighter than he, and you are  
 私はあります一層軽くより彼そしてあなたはあります

heavier than he.  
 一層重くより彼

So, you are the heaviest.  
 だからあなたはあります一番重く

Is your sister shorter than you?  
 ありますかあなたの姉妹は一層低くよりあなた

Yes, she is shorter than I.  
 はい彼女はあります一層低くより私

Which is younger, you or Mr. Ito?  
 どちらがあります一層若くあなたですか又は伊藤さんですか

Mr. Ito is younger than I.  
 伊藤さんはあります一層若くより私

Which is larger, the sun or the earth?  
 どちらがありますか一層大きく太陽ですか又は地球ですか

The sun is larger than the earth.  
 太陽はあります一層大きくより地球

Which is the largest, London, Paris  
 何れがありますか一番大きくロンドンですかパリですか

or Tokyo?  
 又は東京ですか

London is the largest.  
 ロンドンがあります一番大きく

What is the longest river in Japan?  
 何れがですか一番長い河で日本

The Ishikari is the longest in our country.  
 石狩があります一番長くでわが國

Were you at the office yesterday?  
 お出でしたかあなたにはに事務所昨日

No, I was not at the office yesterday,  
 いいえ私は居りませんでしたに事務所昨日

I had a headache. Did you call  
 私は持ちました頭痛をなさいましたかあなたは訪問

on Mr. Kato yesterday?  
 加藤さんを昨日

イエス アイ コールド オン ヒム バット ヒー ウオズ ナット  
Yes, I called on him, but he was not  
はい 私は 訪問しました 彼を 然し彼はではありませんでした

アット ホーム  
at home.  
在宅

ホエア〜 デイッド ヒー ゴウ  
Where did he go?  
何處へ ましたか 彼は 行き

ヒー ウェント アウト ウィズ ヒズ スイスター〜 ゼイ  
He went out with his sister. They  
彼は 行きました 出て と 彼の 姉妹 彼等は

ウエント トゥー ウエノ パーク  
went to Ueno Park.  
行きましたに 上野公園

アット ホラット タイム デイッド イー カム ホーム  
At what time did you come home  
に 何 時なさいましたかあなたは 歸 宅

イエスタデー  
yesterday?  
昨日

アイ ケム ホーム アット セヴン イン ザ イーヴニング  
I came home at seven in the evening.  
私は 帰宅致しましたに 七時 の 晩

ホエン ウィル ザ バーゲン セール ビギン アット ザ  
When will the bargain sale begin at the  
何時 ますか 賣出しが 始まり で

ミツコシ  
Mitsukoshi?  
三越

イット ウィル ビギン オン ザ トゥエンティファイフス オブ ジューン  
It will begin on the 25th of June.  
それは ます 始まりに 二十五日 の 六月

アール イウ〜 ヴィジット ザ ストアー デュアリング ザ  
Shall you visit the store during the  
なさいますか あなたは 訪問 [その] 店を 中に

バーゲン セール  
bargain sale?  
賣出し

イエス アイ シャル ヴィジット ゼア デュアリング ザ サール  
Yes, I shall visit there during the sale.  
はい 私は 致します 訪問 其處を 中に 賣出し

ウール イウ〜 スイスター〜 ゴー ゼア ウィズ イー  
Will your sister go there with you?  
になりますか あなたの 姉妹は お出で 其處に と あなた

イエス シー ウィル ゴー ゼア トゥー  
Yes, she will go there, too.  
はい 彼女も ます 行き 其處へ 亦

(譯) あの紳士は私よりも丈が高うございます。

然し彼は私の兄弟よりは丈は低うございます。

私は彼よりも軽く、そしてあなたは彼よりも重うござい  
ます。

だから、あなたが一番重うございます。

あなたの御姉妹はあなたよりは丈が低くいらつしやいま  
か。

はい、彼女は私よりも丈が低いです。

あなたと伊藤さんとどちらがお年が若くいらつしやいま  
か。

伊藤さんは私よりも年が若いです。

太陽と地球とどちらが大きいですか。

太陽は地球よりも大きいです。

ロンドンとパリと東京と何れが一番大きいですか。

ロンドンが一番大きいです。

日本で何河が一番長い河ですか。

いしかりがわ  
石符川がわが國で一番長うございます。

あなたは昨日事務所に居られましたか。

いいえ、事務所に居ませんでした。私は頭痛がしました。

あなたは昨日加藤さんを御訪問なさいましたか。

はい、訪問致したが、留守でした。

何處に行かれたのですか。

御姉妹と一緒に出かけられました。二人で上野公園に行か

れたのです。

あなたは昨日何時に御帰宅なさいましたか。

晩の七時に帰宅致しました。

三越の賣出しはいつ始まりますか。

六月二十五日に初まります。

賣出中にあの店へお出でになりますか。

はい、賣出し中に参るつもりです。

御姉妹と御一緒にお出でですか。

はい姉妹と参ります。

((發音上の注意)) gĕn'tleman, tall'ēr, shōrt'ēr,  
light'ēr, hĕv'iēr, hĕv'iĕst, yŏŭng'ēr, lārg'ēr,  
lārg'ĕst, lōng'ĕst, yĕs'tĕrdāy, hĕad'āchĕ, callĕd,  
ĕvĕ'nīng, bār'gāin, viſit, dūr'īng.

## 解 説

1. 二つの物の比較を表はす形容詞の形を比較級 (Comparative Degree) と云ひ、三つ以上のものを比較して、その中の一つが或點に於て最も優れてゐることを表はす形を最上級 (Superlative Degree) と名づける。これに對して普通の形を原級 (Positive Degree) と云ふ。つまり形容詞には原級、比較級、最上級の三つがある。

比較級、最上級の作り方は、比較級は原形に er を添へ、最上級は原形に est を添へるのが原則である。しかし原級の語尾 e に終るものには、只 r 又は st のみを添へる、又語尾が子音で、その前が短母音 (ă ĕ i ō ū) のものは、語尾の子音を重ねなければならぬ。又語尾が子音の時には y を i にかへる。

原 級	比較級	最上級
tall	taller	tallest
large	larger	largest
heavy	heavier	heaviest
big	bigger	biggest

二つの物を比較する場合、即ち比較級の形容詞を用ゐる時には、その後に than を附するのが通例であるが、which を用ゐて、「何れが……であるか」と問ふ時は、than を用ゐないで、次のやうな形にするのである。



That gentleman is taller than I.

Which is younger, you or Mr. Ito?

最上級の形容詞は、その前に the を加へるのが通例である。

Which is the largest, London, Paris or Tokyo?

London is the largest.

副詞にも、形容詞同様、比較級、最上級がある。

He can run <sup>ラン・ファスター</sup> faster (fāst'ēr) than I. (副詞の比較級)  
彼は 走ります 一層早く より 私

He speaks English <sup>スピークス</sup> best (bēst) in our <sup>クラス</sup> class. (副詞最上級)  
彼は 英語を 最も うちで

形容詞、副詞の比較級、最上級を作るに、不規則に変化するものがある。

形容詞	<sup>グッド</sup> good (よく)	<sup>ベター</sup> better	<sup>ベスト</sup> best
副詞	<sup>ウェル</sup> well (よく)	<sup>ベター</sup> better	<sup>ベスト</sup> best

2. 現在の事を述べるには、動詞の現在形をもちめるが、過去の事を云ふときには、動詞の過去形を用ひなければならぬ。動詞 be 及び have の現在形は已に諸君が學ばれたが、過去形は次のとおりである。

be 動詞		have 動詞	
現在	過去	現在	過去
I am.	I was.	I have	I
You are.	You were.	You have	You

He	He	He	He
She	She	She	She
It	It	It	It
We	We	We	We
You	You	You	You
They	They	They	They

is. was. has. had  
are. were. have.  
They were. have.

即ち have の過去形は had ばかりで、他の形はない。また be の過去形は was, were 二つだけである。

以上で be 動詞及び have 動詞の過去は分つたが、その他の動詞は、現在の形に ed を添へるもの(a)と、然らざるもの(b)との二通りある (a)を規則動詞 (Regular Verb) と云ひ、(b)を不規則動詞 (Irregular Verb) といふ。

規則動詞の過去形の作り方の例 不規則動詞の最も普通なもの

現在	過去	現在	過去
call	called	go	went
visit	visited	come	came
<sup>リヴ</sup> live (住む)	<sup>リヴド</sup> lived	<sup>ビギン</sup> begin'	<sup>ビガン</sup> began'
<sup>トライ</sup> try (試みる)	<sup>トライド</sup> tried	<sup>ラン</sup> run (走る)	<sup>ラン</sup> ran
<sup>リミット</sup> limit (制限する)	<sup>リミテド</sup> limited	<sup>ノウ</sup> know (知る)	<sup>クノウ</sup> knew (nū)
<sup>ライク</sup> like (好む)	<sup>ライクド</sup> liked	<sup>スイー</sup> see (見る)	<sup>ソー</sup> saw

プレー plāy (遊ぶ)	ブレード played	スピーク speak	スポーク spoke
ラブ lōvə (愛する)	ラヴド loved	テーク tāke	トウク tōōk
トラヴェル trāv'el (旅行する)	トラヴェルド traveled	ライト write (書く)	ロート wrōte
サム がうけい sūm (合計する)	サムド summed	グット gēt (得る)	ガット gōt
ペーミット pēmīt' (許す)	ペーミットド permitted	バイ buy (買ふ)	ボート bōught
ストップ stōp (止める)	ストップド stopped	セル sell (賣る)	ソールド sōld

【註】 不規則動詞の變化は、その各の示す通り極めて不規則であるから、一々各動詞に就て覚えるより他に仕方がない。幸ひに不規則動詞なるものは割合に数が少いから追々覚えることが出来る。

規則動詞は現在形に ed を添へて過去形を作るのが原則であるが、二三注意して置かねばならぬ事がある。即ち動詞の語尾に e があつて、この e が發音されない場合には、只 d だけ加へる (lived, liked, loved のやうに)、一syllable の語が短子音で終つてゐて、この前に短母音があれば、その子音を重ねなければならぬ (summed, stopped の様に)。子音と y で終つてゐる語は、y を i に變へて ed を添へる (tried のやうに)、が y の前が母音で最後の文字が y の時には、y を i にかへる必要なく、そのまま ed を加へる (played の様に) のである。二 syllables の語が短子音で終つてゐ

て、第二 syllable に accent のある時には、この子音を重ねる (permitted の様に)、が短子音に終つてゐても、第二 syllable に accent のない時には、(limited の様に) この最後の子音を重ねないで、只 ed を添へればよい。これで規則動詞の過去形を作る規則は大抵分つた筈である。

序に發音上の注意をしてをかなければならぬのは、過去形の語尾の ed 又は d は f, k, p, s, x, などの清音の後では t の音になる (liked, stopped の様に) のである。又語尾の t の次に加へた ed の e は、大抵短音の發音をする (visited, limited, permitted のやうに) ことである。

過去の疑問文では、動詞が be 又は have の時には、動詞を主語の前に置きさへすればよい。これは現在形の時と同様である。be, have 以外の動詞を用ゐる場合には、(did + <sup>ひんざいどうし</sup>現在動詞) の形にし、その答には、肯定ならば did を用ひないで、動詞の過去形を用ゐ、否定ならば (did not + <sup>ひんざいどうし</sup>現在動詞) の形にする。

Did you go to the office yesterday?

Yes, I went to the office yesterday.

No, I did not go to the office yesterday.

Were you at the office yesterday?

Yes, I was at the office yesterday.

No, I was not at the office yesterday.

3. 未来の事を言ひ表はすには、助動詞 shall, will を用ゐる。  
又單に未来に関する疑問文では、shall, will を主語の前に置く。

單數	複數	單數	複數
I shall—.	We shall—.		
You will—.	You will—.	Shall you—?	Shall you—?
He } will—.	They will—.	Will { he } —?	Will they?
She }		{ she }	
It }		{ it }	

【注】上の表に、I に関する疑問文の形が擧げてないのは、自分のことを人に尋ねることが實際ないからである。又疑問文では、只動詞を主語の前に置けばよいと云つたが、肯定文の You の will が、疑問文では shall に變つてゐることを注意しなければならぬ。

Exercise 練習問題

課題を英譯するに必要な新語

ハード hārd'ēr, (一層むづかしい)	スローア slōw'ēr, (一層遅い)
プリティ prēt'ty, (prīti), (美しい)	リリ ユリ līl'y, (百合)
ブラザー brōth'ēr, (兄)	エルダースイスター ēld'ēr-sīs'tēr, (姉)
(世界中で)	インザワールド in the wōrld,
ヒマラヤ Hīmā'layā rānge, (ヒマラヤ山脈)	エヴェレスト Everēst,
(エヴェレスト)	パイナップル pīnē'apple (鳳梨)
	ディリゼント dīl'igēnt, (勤勉な)

モーメント アゴ せんごく スタツデイ しよさい ズイス モーニング  
a mō'mēnt agō, (先刻) stūd'y, (書齋) this morning,  
(今朝) mēet'ing, (會) had, (ありました) sēr'vant,  
(召使) have, (使ふ) ēn'tērprīz, (事業) back to  
Japan, (歸朝する) the day aft'er to mōrkōw, (明後日)  
ak-'rīvē at, (着する) to-morrow after-nōon, (明日午後)  
come and see me, (お訪ね下さい)

次の邦文を英譯せよ。

- (1) 英語は獨逸語よりむづかしいですか。はい、むづかしいです。
- (2) 飛行船は飛行機より速いですか。いえ、飛行機より遅いです。
- (3) 薔薇と百合とどちらが美しいですか。薔薇の方が美しいです。
- (4) あなたの兄さんと姉さんとどちらが丈が高いですか。兄の方が高いです。
- (5) 世界の中で一番高い山は何山ですか。ヒマラヤ山脈中のエヴェレスト山です。
- (6) 林檎とパイナップルと鳳梨とのうち、どれが一番好きですか。林檎が一番好きです。
- (7) あなた方お三人の中で誰が一番勤勉ですか。伊藤君が一番勤勉です。
- (8) あなたは先刻何處に居られましたか。書齋に居りました。
- (9) あなたの父さまは今朝何處へ行かれましたか。大阪へ参りました。
- (10) 昨日は會がありましたか。はい、ありました。
- (11) あの人は大勢の召使を使つて居られますか。いえ只一人だけ使つて居られます。
- (12) 彼の人は事業に成功するでせうか。或は失敗す

るかも知れません。(13) 伊藤君はいつ御歸朝なさいますか。明後日横濱に着かれます。(14) 明日の午後あなたは御在宅ですか。はい、居ります、どうぞお出で下さい。

### 上の解答

(1) Is English harder than German? Yes, it is harder than German. (2) Is the airship faster than the airplane? No, it is slower than airplane. (3) Which is prettier, the rose or the lily? The rose is prettier than the lily. (4) Which is taller, your elder-brother or your elder-sister? My elder-brother is taller than my elder-sister. (5) What is the highest mountain in the world? Mt. Everest in the Himalaya range is the highest mountain in the world. (6) Which do you like best, apples, bananas or pineapples? I like apples best. (7) Who is the most diligent of you three? (≡ Syllables 以上の語、即ち diligent の如き語の最上級は語そのものに、變化を與へず、語の前に most を加へて作る) Mr. Ito is the most diligent. (8) Where were you a moment ago? I was in the study. (9) Where did your father go this

morning? He went to Osaka. (10) Did you have the meeting yesterday? Yes, we had (the meeting yesterday). (11) Has he many servants? No, he has only one (servant). (12) Will he succeed in the enterprise? Perhaps, he may fail in it. (13) When will Mr. Ito come back to Japan? He will arrive at Yokohama the day after to-morrow. (14) Shall you be at home to-morrow afternoon? Yes, I shall be at home. Please come and see me.

### LESSON EIGHT 第八課

本課からは、初めて出てくる言葉以外には發音の假名をつけない。また言葉に一々直譯をつけずに、123 の順序だけつけることにした。諸君はこの番號に従つて文章を自ら譯することを稽古し、そして最後に譯文を参照して戴きたい。

What do you take for your breakfast?

(1) (7) (2) (6) (5) (3) (4)

I take some milk and a loaf of bread.

(1) (8) (2) (3) (4) (5) (6) (7)

Do you take an'ything else?  
 (5) (1) (4) (3) (2)

Yes, I take two cups of tea.  
 (1) (2) (7) (3) (4) (5) (6)

Is there any wa'ter in this glass?  
 (7) (6) (4) (5) (3) (1) (2)

Yes there is some.  
 (1) (2) (4) (3)

Is there any water in that glass?  
 (7) (6) (4) (5) (3) (1) (2)

(No, there is not any (none).  
 (1) (2) (4) (5) (3) (3)

(No, there is not water in that glass.  
 (1) (2) (8) (6) (9) (7) (5) (3) (4)

Is there much sug'ar (soog'ar) in that jar?  
 (7) (6) (4) (5) (3) (1) (2)

No, there is lit'tle.  
 (1) (2) (4) (3)

Have you any mon'ey (mūnī) with you?  
 (6) (1) (4) (5) (3) (2)

Yes, I have a little.  
 (1) (2) (4) (3)

How many sil'vēr coins have you?  
 (2) (3) (4) (5) (6) (1)

I have three fifty-sen piēces and a few (fū) ten-sen  
 (1) (9) (2) (3) (4) (5) (6) (7)

pieces.  
 (8)

Who is called the Jāp'anēsē Nel'son?  
 (1) (5) (4) (2) (3)

Togo is called the Jāp'anēsē Nel'son. Nelson was  
 (1) (5) (4) (2) (3) (1) (5)

a great English ād'mīral.  
 (3) (2) (4)

Togo crūsh'ed the Rūstian flēet in the battl'e of the  
 (1) (9) (7) (8) (6) (5) (4)

Japan Sēa.  
 (2) (3)

Nelson crushed the French and Spān'ish fleets in the  
 (1) (9) (5) (6) (7) (8) (4)

battle of Trā'algār'.  
 (3) (2)

Are there many vīsitors at the Impe'rial Hōtēl?  
 (7) (6) (4) (5) (3) (1) (2)

Yes, there are many Eng'lishmēn, Amer'icans,  
 (1) (10) (11) (3) (4) (5)

French'-men, Ger'mans, Itāl'ians (ital'yanz), and  
 (6) (7) (8)

Spān'iardz (spānyardz) there.  
 (9) (2)

How many visitors are there at that hotel now?  
 (1) (2) (3) (9) (8) (6) (4) (5) (7)

There are mōre than a hundred visitors there.  
 (6) (7) (4) (3) (2) (5) (1)

What a large hotel it is!

(1) (2) (3) (4) (5)

Yes, it has the <sup>モースト</sup>most visitors of all the hotels in Tokyo.

(1) (9) (10) (7) (8) (6) (4) (5) (3) (2)

How do you like the Imperial Hotel?

(2) (6) (1) (5) (3) (4)

I like it very much

(1) (5) (4) (2) (3)

Do you like it more than any other hotel in Tokyo?

(11) (1) (10) (9) (8) (7) (4) (5) (6) (3) (2)

Yes, I like it most of all.

(1) (2) (7) (6) (5) (4) (3)

〔譯〕 あなたは朝食に何をお食べになりますか。

私は牛乳とパン一個とを食べます。

(あなたは)他に何かお食べになりますか。

はい、お茶を二杯飲みます。

このコップに水がありますか。

はい、幾千かあります。

あのコップには水がありますか。

いえ、ちつともありません。

あの壺には澤山砂糖がありますか。

いえ、あまりありません。

あなたはお金のお持合せがありますか。

はい、少しは持つて居ります。

(あなたは)銀貨をいくつお持ちですか。

五十銭銀貨三つと十銭銀貨を少し持つて居ります。

誰れが日本のネルソンと呼ばれますか。

東郷は日本のネルソンと呼ばれます。ネルソンはイギリ

スの偉い海軍大將でした。

東郷は日本海<sup>の</sup>海戦で露國の艦隊を粉碎しました。

ネルソンはトラファルガーの海戦でフランス及びスベ

イ<sup>の</sup>艦隊を粉碎しました。

帝國ホテルには大勢の客が滞在してゐますか。

はい、大勢の英國人、米國人、佛蘭西人、伊太利人、及

び西班牙人が滞在して居ります。

何人のお客があのホテルに目下滞在してゐますか。

百人以上の客が滞在してゐます。

何といふ大きなホテルでせう。

さうです、東京中のホテルの中で一番大勢の客が滞在し

てゐます。

あなたは帝國ホテルはお好きですか。

大變好きです。

東京の他のどのホテルよりも好きですか。

はい、どのホテルよりも好きです。

## 解 説

1. 例へば <sup>カフェイ</sup> <sup>コーヒー</sup> <sup>ミルク</sup> <sup>ぎうにう</sup> <sup>シュガー</sup>  
<sup>ブレッド</sup> <sup>ワイン</sup> <sup>ぶさうしゆ</sup> <sup>ビール</sup> <sup>ウオーター</sup>  
bread, (パン) wine, (葡萄酒) beer, (ビール) wa'tēr,  
(水) <sup>ゴールド</sup> <sup>スィルヴァー</sup> <sup>アイアン</sup>  
gold, (金) sil'vēr, (銀) i'ron (i'ûrn), (鐵)  
<sup>カッパー</sup> <sup>ペーパー</sup> <sup>ブリック</sup> <sup>リン</sup>  
cōp'pēr, (銅) pā'pēr, (紙) brick, (煉瓦) lin'en,  
(リンネル) のやうな、物質の名を表はすものを物質名詞 (Material  
Noun) と云ふ。これに對して、apple, horse, pencil のやうな個形  
のもの、名を表はすものを普通名詞 (Common Noun) と云つて區  
別する。凡て物質名詞は一定の形のないもの、名稱であるから、一  
つ二つと數へることはできないので物質名詞には a 又は an をつけ  
ず、また複數にもすることができないのである。それでは物質の一  
定の分量を示すにはどうしたらよいかといふに、物質名詞はそのま  
まにして置いて、これに數量を表はす普通名詞を添へるのである。  
例へば「<sup>コーヒー</sup> 珈琲一杯」「茶一杯」と云ふやうな時には、“a cup of  
coffee” “a cup of tea” と云ひ、二杯の時には、“two cups  
of tea” のやうにする。「葡萄酒一罇」「紙三杯」は “a bottle of  
wine,” “three sheets of paper” となる譯である。又「茶何斤」  
「ビール何本」と云ふやうな疑問を表はす時には、how many を用  
ひて、これを文の初めに置けばよい。How many glasses of wine?  
How many loaves (loaf <sup>ふくすう</sup> の複數) of bread? でよい。

2. What と anything とを間違へないやうにしなければならぬ  
what は「何を」、anything は「何か」の意で、(a) What did  
you take this morning? (今朝あなたは何を食へましたか) (b)  
Did you take anything this morning? (あなたは今朝何かを食  
へましたか) の別がある。(a) に對する答は I took a glass of  
milk this morning. (私は今朝牛乳を一杯飲みました) であるが  
(b) の答は Yes, I did. 又は No, I did not. でなければならぬ。  
つまり what を以て起された問に對しては Yes, 又は No, を以て  
答へることはできない。

【註】 日本語では、例へば「コップに若干の水があるか」といふ  
意味を云ひ表はす時に普通「若干」の語を用ひないで、只「コ  
ップに水がある」といふけれども、英語では必ず There is  
some water in the glass. と云はねばならぬ。日本語で「水  
が要る」と云ふ時にも、英語では I want water ではいけない。  
必ず I want some water. とせねばならぬ。要するに物質名  
詞を用ゐる時に、若干の意味を含めて云ふ場合、即ち、明かに  
「何把」とか「何斤」とか「何程」とか、數量を云ひ表はさぬ場  
合には、必ず some を用ゐることを忘れてはならぬ

Some と any とを混同することは、よく日本人には有勝ちであ  
るが、some は普通肯定の時に用ゐ、any は疑問又は否定の場合  
に用ゐるのである。

Is there **any** wine in the bottle?

Yes, there is **some**.

No, there is **not any** (=none).

not any はよく省略して、no 又は none とすることがある。即ち There is **not any** wine. と云ふ代りに、There is **no** wine. と云つたり、There is **none**. と云つたりすることが多い。又時には wine だけを略して、There is **not any**. と云ふこともできるが、There is none. や There is not any. は、省略された名詞が何であるかが對話の相手に分つてゐる時の外は使つてはならぬ形である。この外注意すべきは、much と many との區別である。much は「多量」を表はす語で、通例物質名詞と共に用ゐる。many は「多数」を表はす語で、普通複數形の普通名詞に伴ふのである。即ち、

He uses **much** paper. (物質名詞)

He used **many** sheets of paper. (普通名詞)

little と few も混同され易い語であるが、前者は物質名詞と共に用ひ、後者は複數形の普通名詞に伴ふものである。即ち、

There is **little** ink in the bottle. (物質名詞)

There are **few** books on the table. (普通名詞)

little や few の前に、不定冠詞ふていかんしを加へるときは、「少しはある」と、ある方に重きを置き、a のない時には「少ししかない」とない方に重きを置く云ひ方になるのであるが、この二つの區別は比較的ひかくていのものでいくらまでが little、いくらまでが a little といふやうな。

はつきりした區別は勿論ない。

have に with me, with you を附けると、「持ち合せがある」の意となる。即ち本教課にあつたやうに Have you any money with you? Yes, I have a little. となるのである。

3. 人または物につけて特種の名を表はす語をこいうめいし固有名詞 (Proper Noun) と云ふので、いつでも必ず大文字で書き始めなければならぬ。この名詞も物質名詞同様に冠詞をつけず又複數にもしないが通常である。(冠詞をつけたり、複數にしたりする時は、普通名詞と看做される場合である)。Togo, Nelson, Trafalgar, Tokyo, England, Japan はみな固有名詞である。

English, Japanese のやうに固有名詞からてんくわ轉化してきた語をこいう固有形容詞といふ。

國民を表はす場合には、固有形容詞に a, an をつけて、複數ならば複數の變化を與へるのである。

【註】 主なる國名を表はす固有名詞及びその固有形容詞を示すと次の通りである。

固有名詞	固有形容詞	(單數)國民	(複數)國民
Japan	Japanese	a Japanese	Japanese
China	Chinese	a Chinese	Chinese
England	English	an Englishman	Englishmen
America	American	an American	Americans



France	French	a Frenchman	Frenchmen
Italy	Italian	an Italian	Italians
Germany	German	a German	Germans
Spain	Spanish	a Spaniard	Spaniards
Russia	Russian	a Russian	Russian
Belgium	Belgian	a Belgian	Belgians

4 形容詞及び副詞の比較級及び最上級は原級の語尾に er, est を加へて作ることは、已に諸君の學ばれたことであるが、この規則は一 syllable 又は二 syllables の語の或るものに限つて適用すべきもので、或る二 syllables の語及び二 syllables 以上の綴りの語の場合には、比較級の場合は語尾に er を添へる代りに原級の前に more を添へ、最上級の場合には est を附する代りに、原級の前に most を添へて作るのである。たとへば、

原 級	比 較 級	最 上 級
old	older	oldest
young	younger	youngest
フェーマス famous (有名な)	more famous	most famous
ビューティフル beautiful (美しい)	more beautiful	most beautiful
ディフィカルト difficult (困難な)	more difficult	most difficult

形容詞 副詞のうち、次の如きものは、その比較級、最上級は次の如く不規則に変化する。

原 級	比 較 級	最 上 級
much } many }	more	most
bad } ill }	ウオールス worse	ウオールスト worst
old	{ older elder }	{ oldest eldest }

【註】 much は形容詞としても副詞としても用ひる語である。即ち I have **much** money. (形容詞) I like English very **much**. (副詞)

形容詞の最上級には大抵 the をつけるが、副詞の最上級は普通 the をつけない。即ち、It has **the most** visitors of all the hotels in Tokyo. I like it **most** of all.

### Exercise 練習問題

課題を英譯するに必要な新語

ランチ ちうしよくべんごう lunch, (中食辨當)	with, (入れて)	サイダ〜 cidēr, (サイダ〜)
デスク desk, (机)	ドローア〜 ひきだし draw'ēr, (抽出)	ジャー スォールト jār, (壺) salt, (鹽)
カツバ コイン cōp'pēr coin, (銅貨)	フォリンナ〜 for'eign'ēr, (外國人)	リイヴ livē, (住む)
ディリゼント diligent, (勉強な)	ファーム fīrm, (商館)	クラーク clērķ, (書記)

次の邦文を英譯せよ

(1) あなたは茶と珈琲とどちらがお好きですか。私は珈琲の方

が好きです。(2) あなたは中食に何をお食べになりますか。パン一個と砂糖を入れて珈琲を一杯のみます。(3) あなたは何が御入用ですか。葡萄酒が一杯欲しいのです。(4) あなたは何かお入用ですか。はい、砂糖を五斤貰ひたいです。(5) あの壺にサイダーがありますか。いや少しもありません。(6) あの抽出に紙がありますか。はい、少しあります。(7) あの壺に鹽がありますか。いいえ、少しもありません。(8) 貴下のお父様は英書を澤山お持ちですか。いいえ、少しも持ちませんが、和書は少しは持つてゐます。(9) あなたは銅貨の持合せがありますか。はい、少しはあります。(10) 横濱には大勢の外國人が住んで居りますか。はい、大勢の英國人、獨逸人、支那人などが住んで居ります。(11) 一番美しい花は何ですか。菊がすべての花のうちで一番美しいです。(12) 君は加藤君より勉強家ですか。いいえ、加藤君は私達のうちで一番の勉強家です。(13) お父さまはお良しい方ですか。いいえ、昨日よりも悪い方です。(14) 君の商館には書記が何人居りますか。三十人以上居ります。

### 上の解答

(1) Which do you like better, tea or coffee? I like coffee better (than tea). (2) What do you take for your lunch? I take for my lunch a loaf of

bread and a cup of coffee with sugar. (3) What do you want? I want a glass of wine. (4) Do you want anything? Yes, I want five pounds of sugar. (5) Is there any cider in the bottle? No, there is none. (6) Is there any paper in the drawer of the desk? Yes, there is some. (7) Is there any salt in that jar? No, there is not any. (8) Has your father many English books? No, he has none, but has a few Japanese books. (9) Have you copper coins with you? Yes, I have a few copper coins with me. (10) Are there many foreigners living in Yokohama? Yes, many Englishmen, Germans and Chinese are living there. (11) What is the most beautiful flower? The chrysanthemum is the most beautiful of all flowers. (12) Are you more diligent than Mr. Kato? No, Mr. Kato is the most diligent of us all. (13) Is your father better? No, he is worse than yesterday. (14) How many clerks are there in your firm? There are more than thirty (clerks) in our firm.

## LESSON NINE

Will it rain to-morrow? (to rain=降雨する)  
 (4) (1) (3) (2)

No, I think it will be fine to-morrow. We u'sually  
 (1) (2) (8) (3) (7) (6) (5) (4) (1) (2)

have fine weather at this time of the year.  
 (10) (8) (9) (7) (5) (6) (4) (3)

(weather=天候)

How far is it from here to the stā'tion?  
 (1) (2) (8) (9) (5) (4) (7) (6)

It is about a mile. (mile=哩)  
 1) (5) (2) (3) (4)

How long does it take to get there?  
 (1) (2) (8) (3) (7) (6) (5) (4)

It takes about half an hour on foot. (on foot.=徒歩で)  
 (1) (6) (3) (4) (5) (2)

Where will you stay in Kobe?  
 (4) (6) (3) (5) (1) (2)

I shall stay at my uncle's.  
 (1) (6) (5) (4) (2) (3)

How far is it to the office from your uncle's?  
 (1) (2) (9) (8) (7) (6) (5) (3) (4)

It is only five minutes' walk ((m'n'ute)=分)  
 (1) (6) (2) (3) (4) (5)

What can I do for you, sir?  
 (1) (6) (2) (5) (4) (3) (7)

I want a hat. Please show me some.  
 (1) (4) (2) (3) (1) (4) (2) (3)

This hat is not good. Show me another, please.  
 (1) (2) (4) (5) (3) (4) (2) (3) (1)

How about this one?  
 (4) (3) (1) (2)

This is a bit too large. Have you no smaller ones?  
 (1) (6) (2) (3) (4) (5) (5) (1) (6) (2) (3) (4)

Yes, sir, these two are of the lāt'est fāsh'ion. One  
 (1) (2) (1) (2) (6) (5) (3) (7) (1)

is made in England, and the other in America.  
 (5) (4) (3) (2) (6) (7) (9) (8)

(latest fashion=最新型)

How much is it? (What is the price of it?)  
 (1) (2) (4) (3) (1) (5) (4) (3) (2)

(price=代價)

It is twenty-five yen.  
 (1) (4) (2) (3)

How dear it is! (What a dear hat it is!)  
 (1) (2) (3) (4) (1) (2) (3) (4) (5) (6)

The li'on is a fierce an'imal and a beast of prey.  
 (1) (10) (2) (3) (4) (5) (6) (9) (8) (7)

(fierce animal=猛獸, beast of prey=肉食獸)

Where does the lion live?  
 (1) (4) (2) (3)

They live in A'sia and A'frica.  
 (1) (6) (5) (2) (3) (4)

Which is more use<sup>ユースフル</sup>ful, a cow or a horse?  
 (1) (4) (2) (3) (5) (6) (7)(8) (9)

Both of them are useful.  
 (3) (2) (1) (5) (4)

Where does the sun rise<sup>ライズ</sup>?  
 (1) (4) (2) (3)

It rises in the east in the morning and sets in the  
 (1) (6) (5) (4) (3) (2) (7) (12) (11)  
 west in the evening.  
 (10) (9) (8)

Does it move with the planets<sup>ムウヴ</sup>?  
 (5) (1) (4) (3) (2)

No, it shines in the centre<sup>シャインズ</sup>.  
 (1) (2) (5) (4) (3)

(譯) 明日は雨天でせうか。

いいえ、明日は晴天だらうと思ひます。今時分は大抵天候  
 が宜しうございます。

此處から停車場までどのくらゐありますか。

約一哩<sup>マイル</sup>くらゐです。

時間はどれくらゐかゝりますか。

徒歩<sup>とほ</sup>で大凡三十分かゝります。

神戸ではどちらにお住ひですか。

叔父の宅にゐるつもりです。

叔父様のお宅から事務所までどのくらゐありますか。歩い

ては五分です。

何を差上げませうか。

ぼうし<sup>ぼうし</sup>を求めたいのです。見せて下さい。

これはよくない。もつと外のはありませんか。

この分ではいかがでせうか。

少し大きすぎるやうです。もつと小さいのはありませんか。

はい、ございます。これは二つとも最新型<sup>さいしんかた</sup>で、これは英國

製、こちらは米國製でございます。

何程ですか。(代價は幾何<sup>いくら</sup>ですか)

二十五圓でございます。

何と高價いこと! (何といふ高價い帽子だらう!)

しし<sup>しし</sup>は獅子<sup>しうまう</sup>は擽猛な肉食獸<sup>にくしよくじう</sup>です。

しし<sup>しし</sup>獅子は何處に住んでゐますか。

しし<sup>しし</sup>獅子は亞細亞<sup>アジア</sup>と阿弗利加<sup>アフリカ</sup>に住んでゐます。

牛と馬とは何れが一番有益<sup>いゝえき</sup>ですか。

どちらも有益<sup>いゝえき</sup>です。

太陽は何處に昇りますか。

太陽は朝東に昇り、夕に西に没します。

太陽は惑星<sup>わくせい</sup>と一緒に動きますか。

いゝえ、太陽は中心<sup>かがや</sup>で輝きます。

## 解 説

1. 天候、距離、時間等を表はすには、主語として It を用ゐる。

天候 It is fine to-day. It is clou'dy. (曇天)

距離 It is near from here to the station.

It is only five minutes' walk.

間時 What time is it? It is nine o'clock.

【註】天候を云ふ場合に We have を用ひることがある。It を用ひるのと同じである。It is very fine と云ふのも We have very fine weather. と云ふのも全く同じである。疑問文に於て How long は時間を問ふに用ゐ、How far は距離を問ふに用ゐる。

2. 元來 s' をつけて所有格にすることのできる語は、人間、その他動物を意味する語に限ることは已に前に述べたが、例外として時を表はす名詞は s' を加へて特に所有格に用ゐることが出来る。又 house, shop, store などの語は 's のあとに來た時には省略することが多い。

How far is it from your uncle's to the station?

It is only five minutes' walk.

3. Another は「外にもう一つ」の意味で、同じ品のうちどれかその一つを指す場合に用ゐる。one は同じ名詞が二つ重なるのを避

けるために、代名詞として用ゐることがある。そしてかういふ場合には冠詞も附けねばならず、又複數形にも用ゐる。one.....the other に於て、one は二つのうちその「一つ」を指し、「今一つの方」を指すには the other を用ゐる。

That hat is not good. Show me another, please.

How about this one?

Have you no smaller ones?

One is made in England, and the other in America.

4. How dear it is! What a dear hat it is! のやうな感歎の意味を示す文體を感歎文 (Exclamative Sentence) と云つて、文の終りに ! (Exclamation mark) をつける。

【註】感歎文の語の順序は、how を以て始めるものは、

How + { 形容詞 } + 主語 + 動詞 + !  
          { 副 詞 }

の順序となり、what を以て始まるものは、

What + a + 形容詞 + 名詞 + 主語 + 動詞 + !

の順序となる、(但し a を添へるのは what の次に來る名詞が單數の時に限る) 初學者はよく疑問文と感歎文とを混同することがあるから、この二つの文體に於ける語の順序の異つてゐる點に注意が肝要である。

How high is the mountain? (疑問文)

How high the mountain is! (感歎文)

上の二文に於ける語の順序を十分注意して記憶してもらひたい。

5. 単數普通名詞に不定冠詞 (a, an) を附して、其類一般を表はすことがあり、又普通名詞を複數にして、其類一般を表はすこともあり、又單數普通名詞に定冠詞 (the) を附して其類一般を表はすことがある。即ち A lion is a fierce animal. **The** lion is a fierce animal. **Lions** are fierce animals. は何れも同一の意味の文である。

【註】 man と woman は例外で、全體を表はすには、冠詞も附せず又複數形をも用ひない。即ち **Man** is lord of animals. **Woman** is weaker than man. のやうな云ひ方があるばかりである。

6. 次のやうな語、句には普通定冠詞 (the) をつけて用ゐる。

A **the** sun, **the** moon, **the** earth, **the** world, **the** sky, **the** universe.

B **the** east, **the** west, **the** south, **the** north, **the** right, **the** left, **the** centre.

C **in the** morning, **in the** afternoon, **in the** evening, **in the** night. (in the night は at night と云ふ)

When do you get up **in the** morning?

I get up early **in the** morning?

7. 複數名詞に the を附けると、その場合の物又は人の全部を

指すことになる。

Does the sun move with **the** Planets? (凡ての惑星)

In summer, the air is warm and **the** birds sing merrily. (我等の周圍の鳥全部を指す。) (merrily = 樂しげに)

次の例文を比較研究してもらひたい。

He is **a** member of our society.

(彼は私等の會の會員です。)……(多くの中の一人。)

They are **members** of our society.

(彼等は私等の會の會員です。)……(會員中の幾人かを指す。)

They are **the** members of our society.

(彼等は私等の會の會員です。)……(會員全部を指す。)

## Exercise

次の邦文を英譯せよ。

- (1) 明日は曇天でせうか。いや、明日は天氣だらうと思ひます。  
 (2) 東京から神戸までどのくらゐありますか。大凡 (about) 三百五十哩あります。 (3) 東京から神戸まで急行列車 (an express train) でどのくらゐかゝりますか。約十三時間かゝります。 (4) あなたは何處で (where) 新しい萬年筆 (a fountain pen) をお求めなさいましたか。丸善で (at the Maruzen; at Maruzen's) 買ひました (bought)。 (5) あなたは昨日の試験に (at yesterday's

examination) <sup>エキザミネーション</sup> 間違ひをなさいましたか (t) <sup>ミステークス</sup> make mistakes),  
はい、少し (a few) 間違ひました。(6) 東京には動物園 (a zoo) <sup>ズー</sup>  
が二つあります。一つは上野に、今一つは浅草にあります。(7)  
この寫真器 (a camera) <sup>カメラ</sup> はよくない。どうか別のを一つ見せて下  
さい。(8) この寫真器はよい寫真器 (one を用ひよ) です。代  
價 (price) <sup>プライス</sup> はいくらですか。百五十圓です。(9) あの塔 (tower) <sup>タワー</sup>  
の高さはどれくらゐですか。五百呎ほどあります。何と高い塔で  
すこと。(10) あなたは犬と猫とどちらがお好きですか。私は犬  
の方が好きです。犬は猫よりも忠實 (faithful) <sup>ちゅうじつ フェースフル</sup> ですから。(11)  
男子は女子よりも強く (stronger) <sup>ストロング</sup> あります。男子は女子を保護  
(protect) <sup>プロテクト</sup> しなければなりません。(12) あなたは朝何をなさい  
ますか。六時に起きて、七時に朝食 (breakfast) <sup>ブレイクファースト</sup> をして、八時に  
事務所へ参ります。

## 上の解答

(1) Will it be cloudy to-morrow? No, I think it  
will be fine to-morrow. (2) How far is it from  
Tokyo to Kobe? It is about 350 (three hundred  
and fifty) miles. (3) How long does it take to get  
to Kobe from Tokyo by an express train? It takes  
about 13 (thirteen) hours. (4) Where did you buy

your new fountain-pen? I bought it at Maruzen's  
(又は at the Maruzen.) (5) Did you make any  
mistakes at yesterday's examination? Yes, I made  
a few (mistakes). (6) There are two zoos in Tokyo:  
one is at Ueno and the other at Asakusa. (7)  
This camera is not good. Please show me another.  
(8) This camera is a good one. What is the price  
of it? It is 150 (one hundred and fifty) yen. (9)  
How high is that tower? It is about 500 (five  
hundred) feet high. What a high tower it is! (又は  
How high the tower is!) (10) Which do you like  
better, a dog or a cat? I like dogs better than cats,  
because dogs are more faithful than cats. (12) What  
do you do in the morning? I get up at six every  
morning, and take my breakfast at seven and go to  
the office at eight.

LESSON TEN

Where are you?

(1) (3) (2)

I am in my office.

(1)(5) (4) (2) (3)

Are you standing or sitting?

(3)(6)(1) (2) (4) (5)

I am sitting on my chair (châir).

(1)(6) (5) (4) (2) (3)

What are you looking (lōōkīng) at?

(2) (4) (1) (3) (3)

I am looking at my watch.

(1)(6) (5) (4)(2) (3)

What are you going to do?

(1) (6) (2) (5) (4)(3)

I am going to write a letter.

(1)(7) (6) (5) (4) (2) (3)

Where were you going when I met you in the

(9) (12) (10) (11) (8) (1) (7) (6) (5) (3)

street (strēet) yesterday?

(4) (2)

I was going to the Jujiya to buy a musical (mū'sīcal)

(1)(11) (10) (9) (7) (8) (6) (5) (2) (3)

instrument (in'stument).

(4)

What musical instrument were you going to get?

(1) (2) (3) (8) (4) (7) (6) (5)

I was going to get a mandolin (mān'dōlin).

(1)(7) (6) (5) (4)(2) (3)

Did you get one?

(4) (1) (3) (2)

Yes, I did.

(1) (2) (3)

What were you doing a moment ago?

(1) (7) (2) (6) (3) (4) (5)

I was holding (hōld'ing) my new mandolin in my

(1)(9) (8) (5) (6) (7) (4) (2)

hand.

(3)

What were you going to do then?

(2) (7) (3) (6) (5) (5) (1)

I was going to play on it.

(1)(7) (6) (5) (4) (3)(2)

What were you doing next?

(3) (5) (2) (4) (1)

I was playing on it.

(1)(5) (4) (3)(2)

Did you bring this watch?

(5) (1) (4) (2) (3)

No, I did not bring it.

(1) (2) (5) (6) (4) (3)

Who brought (brōught) it then?

(2) (4) (3) (1)

The servant (ser'vant) brought it for you.

(1) (2) (6) (5) (4) (3)

Yesterday I lost (lōst) it on my way to the office.

(1) (2)(10) (9)(8) (6) (7) (5) (3) (4)

Where did he find (fīnd) it?

(1) (5) (2) (4) (3)

He found it at the corner (cōr'nēr) of this street.

(1) (9) (2)(8) (6) (7) (5) (3) (4)

(譯) あなたは何處に居られますか。

私は私の事務所にゐます。

あなたは立つて居られますか、坐つて居られますか。



私は椅子に腰をかけて居ます。

あなたは何を見て居られますか。

私は懐中時計を見てゐます。

あなたは何をしようとして居られますか。

私は手紙を書かうとしてゐます。

昨日途中で私があなたにお遇ひした時あなたは何處に行かれるところでしたか。

私は楽器を買ひに十字屋へ行くところでした。  
どんな楽器をあなたはお求めにならうとして居られたのですか。

私はマンドリンを買はうとしてゐたのです。

あなたはお求めになりましたか。

はい、求めました。

あなたは先程何をしておいででしたか。

私は私の手に新しいマンドリンを持つてゐました。

その時、あなたは何をしようとして居られたのですか。

私はマンドリンを弾かうとしてゐたのです。

その次に、あなたは何をしてゐられましたか。

私はマンドリンを弾いてゐました。

あなたはこの懐中時計を持つて来られたのですか。

いえ、私はそれを持つて参りませんでした。

では、誰れが持つて来たのです。

小使があなたに持つて来たのです。

昨日私は事務所に來る途中この時計を失くしたんです。

何處で小使は見つけたのですか。

小使はこの町の角でこの時計を見つけたのです。

## 解 説

1. 現在、動作の最中であることを示すには、to be に現在分詞 (Present Participle) をつけた形を用ゐる。これを現在進行形と云ふ。

【註】 現在分詞と云ふのは、動詞の原形に in を付け加へたもので、例へば go の現在分詞は going, speak の現在分詞は speaking である。

現在進行形の一般の形式は次の通りである。

to be + .....ing = 現在進行形

即ち次の二文は、進行形現在の文體である。

What are you looking at?

I am looking at my watch.

【註】 現在分詞の作り方は、一般に云へば、動詞の原形に ing を付けるのであるが、次の如き場合には特に注意を要する。語尾が e で終るものは、この e を除いて ing をつける。come—coming, take—taking, write—writing, make—making

一音節の語で、語尾の前が短母音の時には、語尾の子音を重ねてそのあとに ing をつける。

stop—stopping, swim—swimming. (游泳)

cut—cutting (切取る) run—running

日本語では、現在と進行形現在とを明瞭に區別しないのが普通であるから學生中にはよくこの二つの形を混同するものがある。

特に注意が肝要である。現在は日常行ふ動作を示し、進行形は一時的動作を表はすものである。

現在 He teaches English in that school.

進行形 He is teaching English in the next room.

I am going to write a letter. はこれを直譯すると、(私は手紙を書くべく行きつゝある)、となるが實際は何處にも行く意味でなく、(將に……しようとする)の意である。一般的の形式は be + going + to である。

2. 過去の或る定つた時に動作の最中であつたことを表はす形を過去進行形と云ふ、現在進行形が be 動詞に現在分詞を附けて作られると同様、過去進行形は be 動詞の過去形、即ち was (又は were) に現在分詞を加へて作る形である。一般的形式は次の通りである。

was } + 現在分詞 = 過去進行形  
were }

即ち I was going to the Jujiya to buy a musical instrument.

What were you doing a moment ago?

【註】將に……せんとして居る」が、to be + going + to……であつたやうに、「將に…せんとしてゐた」は was (又は were) + going + to……で表す。即ち

What were you going to do, then?

I was going to play on it.

3. 動詞の原形 (Root-form), 過去形 (Past), 及び過去分詞 (Past Participle) を動詞の三段の變化と云ひ、最も普通に用ゐられる不規則動詞の三段變化は次の通りである。

原 形	過 去 形	過 去 分 詞
ブレイク <small>ヤガ</small> break (破る)	ブローク broke	ブロークン broken
ブリング bring	ブロート brought	brought
ルーズ lose	ロスト lost	lost
ファインド find	ファウンド found	found
ホールズ hold	ヘルド held	held
テーク take	トウツク took	テークン tak'en
ウイン <small>カ</small> win (勝つ)	ウオン won	won
come	came	come
go	ウエント went	gone
キャッチ <small>リス</small> catch (捕へる)	コート caught	caught
see	ソウ saw	シーン seen

buy	bought	bought
get	got	get
ライド ride	ロード rode	リッドン rid'den
ライト write	ロート wrote	リトゥン writ'ten
スウィム swim	スワム swam	スワム swum
スピーク speak	スポーク spoke	スポークン spoken
スリープ <small>ねむ</small> sleep (眠る)	スレプト slept	スレプト slept
ビギン begin (始める)	ビギアン be'gan	ビギアン be'gun
シャット <small>と</small> shut (閉ぢる)	shut	shut
プット put (置く)	put	put
do	did	ダン done
be	was	ビーン been
make	made	made
センド send (送る)	セント sent	sent
スペンド <small>つひや</small> spend (費す)	スペント spent	spent
スウィープ <small>は</small> sweep (掃く)	スウエプト swept	swept
ミート <small>あ</small> meet (會ふ)	メット met	met
ドロー draw (引く)	ドリュー drew	ドローン drawn
スロー throw (投げる)	スリュー threw	スローン thrown
ノウ know	ニュー knew	ノウン known
ティーチ teach	トート taught	taught

ペイ pay (拂ふ)	ペード paid	paid
スチール <small>ぬす</small> steal (盗む)	ストール stole	フトールン s'ol'en

【註】過去の疑問文や否定文に did を用ゐる事は既に諸君の知つてみられる事であるが、who を疑問文中に使ふ時には did は用ゐない。即ち Did you bring this watch? No, I did not bring it. Who brought it then? の如し。

### Exercise

(1) あの子供 (child) は庭園 (garden) で何をしてゐますか。彼は妹と遊んで (play) みます。(2) 君は書齋 (study) で何をしてゐますか。手紙を書いてゐます。(3) 君は今何處に行くところですか。叔父 (uncle) の家に行くところです。(4) 君は何をしようとしてゐるのか。僕は父に手紙を書かうとしてゐるところだ。(5) 僕が公園 (park) で君に會つた (see) 時、君は何處に行くところでしたか。僕は郵便局 (post-office) へ行くところでした。(6) 私があなたを訪ねた (call on) 時に、あなたは何をしてゐられましたか。居間 (parlor) で新聞 (paper) を読んで (read) みました。(7) 今朝町で (in the street) 君等に會つた時に、君等は停車場へ行くところでしたか。いゝえ、僕等は動物園に行くところでした。(8) あなたは何處で財布 (purse) を落とし (lose) ましたか。停車場へ行く送中 (on my way to) で落しました。(9) 私の会社では昨日運動會を (an athletic meet) 催し (hold) ました。

私は障害競走しやうがいばつきやうきう (the hurdle race) ハードル レース に加はりパート (take part) ました

(10) 誰がこの手紙を僕に持ってきましたか。伊藤君が持つて来られました。

### 上の解答

1. What is that child doing in the garden? He is playing with his sister. 2. What are you doing in the study? I am writing a letter. 3. Where are you going now? I am going to my uncle's. 4. What are you going to do? I am going to write a letter to father. 5. Where were you going when I saw you in the park? I was going to the post-office. 6. What were you doing when I called on you? I was reading the paper in the parlor. 7. Were you going to the station when I saw you in the street this morning? No, we were going to the zoo. 8. Where did you lose your puase? I lost it on my way to the station. 9. Our company held an athletic meet yesterday. I took part in the hurdle race. 10. Who brought me this letter? Mr. Ito brought it for you.

### LESSON ELEVEN

Where will you go this summer (sūm'mēr)?  
(4) (6) (3) (5) (1) (2)

I will go to the sea-shore (sēa'-shōre'') this summer.  
(1) (8) (7) (6) (4) (5) (2) (3)

Won't you go to Kamakura with me?  
(7) (1) (6) (5) (4) (3) (2)

Yes, I will  
(1) (2) (3)

Are you going home (hōmē) now?  
(5) (1) (4) (3) (2)

Yes, I am going home at once.  
(1) (2) (6) (5) (4) (3)

Will you kindly (kīnd'lī) take this parcel (pār'çel) to  
(9) (1) (8) (7) (2) (3) (6)  
the post-office?  
(4) (5)

Yes, I will with pleasure (plēzh'ūr)  
(1) (2) (5) (4) (3)

How often do you write home?  
(1) (2) (6) (3) (5) (4)

I write home twice (twīçe) a month.  
(1) (6) (5) (4) (2) (3)

What are you doing?  
(1) (4) (2) (3)

I am writing a letter in English.  
(1) (7) (6) (4) (5) (3) (2)

Have you written your letter?  
(5) (1) (4) (2) (3)

Yes, I have just (jüst) written it.  
(1) (2) (6) (3) (5) (4)

Is Mr. Kato here?  
(4) (2) (1) (3)

No, he is not here. He has gone out for a walk  
(1) (2) (4) (5) (3) (1) (7) (6) (5) (4) (2) (3)  
(walk).

Then, is Mr. Sato in?

(1) (5) (3) (2) (4)

No, he is not in. He has gone to Osaka on business.

(1) (2) (4) (5) (3) (1) (7) (6) (5) (4) (2) (3)

Have you ever (ēv'ēr) seen a whale (whālē)?

(6) (1) (2) (5) (3) (4)

No, I have never (nēv'ēr) seen one. Have you seen

(1) (2) (6) (3) (7) (5) (4) (4) (1) (3)

one?

(2)

Yes, I have.

(1) (2) (3)

Where did you see one?

(1) (5) (2) (4) (3)

I saw one at Choshi a few years ago.

(1) (9) (8) (7) (6) (2) (3) (4) (5)

What is it? Is it a fish (fīsh) or a beast (bēast)?

(1) (3) (2) (7) (1) (2) (3) (4) (5) (6)

I do not know, but I think it is a fish.

(1) (3) (4) (2) (5) (6) (11) (7) (10) (8) (9)

I have not seen you for a long time. What is the

(1) (8) (9) (7) (6) (5) (2) (3) (4) (1) (6) (4)

matter (măt'tēr) with you?

(5) (3) (2)

I have a sore (sōrē) throat (thrōāt) and I am

(1) (5) (2) (3) (4) (6) (7) (11) (8)

little feverish (fē'verīsh).

(9) (10)

How long have you been ill?

(1) (2) (6) (3) (5) (4)

I have been ill since (sīnçē) last Wednesday

(1) (7) (6) (5) (4) (2) (3)

(wēd.nēşdāy). The doctor says (sāyş) I have taken

(1) (2) (3) (4) (9) (8)

a slight (slīght) cold.

(6) (7)

That's too bad. I hope you will recover (rēcōv'ēr)

(1) (2) (3) (1) (9) (2) (8) (7)

in a few days.

(6) (3) (4) (5)

I hope so.

(1) (3) (2)

Please take good care (cārē) of yourself.

(1) (6) (4) (5) (3) (2)

Many thanks (thänks).

(1) (2)

(譯) あなたはこの夏何處においでになりますか。(私は)今夏

海岸にまゐります。

(あなたは)私と一緒に鎌倉<sup>かまくら</sup>においでになりませんか。はい、

参りませう。

あなたは今お歸りになりますか。はい、直ぐ歸ります。

どうかこの小包を郵便局まで持つて行つて下さいませんか。

お安いことでございます。

あなたは幾度位お家へお手紙をお出なさいですか。(私は)

月に二度づつ出します。

あなたは何をして居られますか。(私は)英語で手紙を書いてをります。

手紙を書いておしまひになりましたか。はい、今書いてしまった處です。

加藤さんはいらつしやいますか。いいえ、居られません。(彼の人)は散歩に出かけられました。

では、佐藤さんはおいでですか。いいえ、居られません。商用で大阪へ行かれました。

あなたは鯨を御覧になったことがありますか。いいえ、見たことはありません。あなたは御覧になりましたか。はい、見たことがあります。

何處で御覧になりましたか。三四年前に銚子で見ました。

鯨は何ですか、魚ですか、獸ですか。私は存じませんが、魚だと思ひます。

暫らくお目に掛りませんでした、どうかなさいましたか。咽が痛んで少々熱がございます。

永らく御病氣でゐらつしやいましたか。水曜日以來病氣をして居ります、醫者は少し風邪をひいたのだと申します。

それはお悪うございます。二三日でお直りになるやうに希望いたします。どうかさうしたいと存じます。

どうぞ御用心なさいませ。有難うございます。

## 解 説

1. 話し合手の意志を問ふ場合、誘引、依頼を表はすには will you? を用ゐ、その答へには I will を用ゐる。

A 意志を問ふ場合。

{ Where will you go this summer?  
{ I will go to the sea-shore this summer?

B 誘引の意を表はす場合。

{ Won't you go to Kamakura with me?  
{ Yes, I will.

C 依頼の意を表はす場合。

{ Will you kindly take this parcel to the Post-office?  
{ Yes, I will with pleasure.

2. 或る動作を現在に於て完了したことを表はす形を現在完了 (Present Perfect) と云ふ。have に動詞の過去分詞をつけて作る形である。

have + 過去分詞 = Present Perfect.

{ Have you written your letter?  
{ Yes, I have just written it.

【註】 次の三文を比較研究すれば、現在完了の意義がはつきりする。

- A. I am going to write a letter. (手紙を書かうとしてゐる)  
 B. I am writing a letter. (手紙を書いてゐる處である)  
 C. I have just written a letter. (丁度今手紙を書き終つた)  
 即ち (A) は或る動作が正に起らうとすることを表はし、(B) は動作の最中であることを表はし、(C) は動作が今丁度完了したことを表はすのである。

3. 現在完了は、(1) 動作の完了を表はすほか、(2) 動作の結果たる現在の状態を表はすこともあり、(3) 過去の経験けいけんを表はすこともあり、(4) ある過去の時から今まで動作又は状態じやうたい けいめくの繼續してゐることを表はすにも用ゐる。

- (1) I have just read the book through.  
 (2) He has gone out for a walk (=he is not here)  
 (3) Have you ever seen a whale?  
 (4) I have not seen you for a long time.

【註】 現在完了が、経験けいけんの意味を表はす場合には、ever, never, before, once などの副詞ふくしを伴ふことが多い。

I have never seen a whale.

I have seen a whale before.

I have once seen a whale.

現在完了が、動作又は経験けいけんの今日まで繼續けいめくしてゐる意味を表はす場合には how long? since, for などを伴ふことが多い。

How long have you been ill?

I have been ill since last Wednesday.

### Exercise

- (1) あなたは次の日曜日に何をするおつもりですか。私は箱根はこねに行くつもりです。(2) あなたはこの夏何處へ行くつもりですか。私は銚子しやうしに行つて泳ぎを習ふ (learn to swim) つもりです。(3) 今日午後私と一緒に (with me) 上野の動物園 (zoological [zō'ōlōg'icāl] gar'den) においでになりませんか。よろこんで (with pleasure) お供致ませう。(4) この小包を郵便局へ持つて行つて下さいませんか。お氣の毒ですが (I am sorry [sōr'ry]) 私には出来ません。(5) では (then) どうか郵便局へ行く道を (the way) 教へて (tell) 下さいませんか。お安いことです (with pleasure)。(6) あなたは私の手紙をお受取 (receive [rēçeiv]) になりましたか。はい、只今受取りました。(7) あなたは何をしようとしていらつしやいますか。私は今朝の新聞 (this morning's paper) を讀まうとしてゐます。(8) あの方は何をしてゐられますか。彼の方は今日の朝日新聞を讀んでゐられます。(9) 伊藤さんはまだ (yet [yēt]) 中食 (lunch [ŭnch]) をお召しになりませんか。いいえ (Yes)、丁度お召しになつたところです。(10) お父さまは御在宅ですか (at home; in). はい、只今歸つた (return') ばかりです。(11) あなたのお母さまは御在

宅ですか。いいえ、京都見物 (for sight-seeing) に参りました。  
 (12) 私は小刀 (knife [knifə]) を忘れて (forget') 参りました、  
 あなたのを貸して下さいませんか。さあどうぞ、お安いことです。  
 (13) あなたは飛行機を御覧になったことがありますか。はい、二  
 三年前に所澤<sup>ところざわ</sup>で見たことがあります。(14) あなたはお顔色が悪  
 い (look pale) 様ですが、どうかなさつたのですか。少し頭痛<sup>づう</sup>  
 (headache [hɛd'æk]) がして少々熱があります。(15) あ  
 なたはいつ頃から東京にお住ひですか。一昨年<sup>since the</sup>から (year before last) 住んでゐます。

### 上の解答

(1) What will you do next Sunday? I will go to Hakone. (2) Where will you go this summer? I will go to Choshi and learn to swim. (3) Won't you go with me to the zoological garden at Ueno this afternoon? I will with pleasure. (4) Will you take this parcel to the Post-Office? I am sorry, but I can not. (5) Then will you please tell me the way to the Post-Office? Yes, I will with pleasure. (6) Have you received my letter? Yes, I have just received it. (7) What are you going to do? I am

going to read this morning's paper. (8) What is he doing? He is reading to-day's Asahi. (9) Has Mr. Ito taken his lunch yet? Yes, he has just taken it. (10) Is your father in? Yes, he has just returned. (11) Is your mother at home? No, she has gone to Kyoto for sight-seeing. (12) I have forgotten my knife. Will you please lend me yours? Yes, I will with pleasure. (13) Have you ever seen a plane? Yes, I saw one at Tokorozawa two or three years ago. (14) You look pale. What is the matter with you? I have a slight headache and am a little feverish. (15) How long have you been living in Tokyo? I have been living in Tokyo since the year before last.

### LESSON TWELVE

When do you see the moon?

(1) (6) (2) (5) (3) (4)

We see the moon at night.

(1) (6) (2) (3) (5) (4)

What do you call it when it is round like this?

(9) (11) (1) (10) (8) (7) (2) (6) (5) (4) (3)



We call it the full (full) moon.  
(1) (6) (2) (3) (4) (5)

When is the moon seen?  
(1) (5) (2) (3) (4)

The moon is seen at night.  
(1) (2) (6) (5) (4) (3)

What is it called when it is round like this?  
(8) (10)(7) (9) (6) (1)(5) (4) (3) (2)

It is called the full moon.  
(1)(6) (5) (2) (3) (4)

Who discovered (discov'ered) America?  
(1) (3) (2)

Columbus (colum'bus) discovered it.  
(1) (2) (3)

When did he discover it?  
(1) (5) (2) (4) (3)

He discovered it in 1492.  
(1) (5) (2)(4) (3)

By whom was America discovered?  
(2) (1) (5) (3) (4)

It was discovered by Columbus.  
(1) (5) (4) (3) (2)

When was it discovered?  
(1) (4) (2) (3)

It was discovered in 1492.  
(1) (5) (4) (3) (2)

When shall we hold our athletic (athl'etic) meet?  
(1) (7) (2) (6) (3) (4) (5)

We shall hold it the day after to-morrow.  
(1) (8) (7) (2) (5) (6) (4) (3)

Will the manager (mān'āgēr) scold (scōld) me if I  
(12) (8) (9) (11) (10)(7)(1)

am absent (āb'sent) on that occasion?  
(6) (5) (4) (2) (3)

Perhāps (perhāps) the manager will scold you if you  
(5) (6) (7) (10) (9) (8) (4)(1)

are absent.  
(3) (2)

When will our athletic-meet be held?  
(1) (6) (2) (3) (5) (4)

It will be held the day after to-morrow.  
(1) (8) (7) (6) (4) (5) (3) (2)

Shall I be scolded (scōld'ēd) by the manager if I  
(14) (8) (13) (12) (11) (9) (10) (7)(1)

am absent on that occasion?  
(6) (5) (4) (2) (3)

Perhaps you will be scolded by the manager if you  
(5) (6) (12) (11) (10) (9) (7) (8) (4)(1)

are absent.  
(3) (2)

(譯) いつあなた方は月を見ますか。私共は夜月を見ます。

月がこんなに圓い時には、貴下方はそれを何と呼びますか。

私どもは満月と呼びます。

月は何時見えますか。月は夜見えます。

月がこんなに圓い時は何と呼ばれますか。満月と呼ばれます。

誰れがアメリカを発見しましたか。コロンブスがアメリカ

を発見しました。

何時コロンブスはアメリカを発見しましたか。 彼は一千四百九十二年にアメリカを発見しました。

アメリカは誰に発見されましたか。 アメリカはコロンブスに発見されました。

何時アメリカが発見されましたか。 一千四百九十二年に発見されました。

何時私達は運動會を催すのですか。 私達は明後日運動會を催します。

若し私が運動會に缺席するなら、 支配人は私に小言を云ふでせうか。 若しあなたが缺席なされば恐らく支配人はあなたに小言を云ふでせう。

いつ私達の運動會は催されますか。 私達の運動會は明後日催されます。

若しその時私が缺席すれば支配人から叱られるでせうか。 若しあなたが缺席なされば、あなたは支配人から叱られなさるでせう。

解説

1. 主語が他のものに動作を仕掛ける文章の形を能動態 (Active Voice) と云ひ、主語が他のものから働きを受ける形を受動態 (Passive Voice) といふ。

能動態 We call it the full moon.

受動態 It is called the full moon.

受動態に於ける動詞の作り方は、be 動詞の諸變化に過去分詞を添へて作るのである。例へば

單數現在形	單數過去形	單數未來形
(能働) (受働)	(能働) (受働)	(能働) (受働)
call	is called called	was called will call will be called
see	is seen saw	was seen will see will be seen
discover	is discovered discovered	was discovered will discover will be discovered
hold	is held held	was held will hold will be held
scold	is scolded scolded	was scolded will scold will be scolded

2. 能動態の文を受動態の文に變ずるには、Active の動詞の目的を主語にして、動詞は be + Past Participle の形にかへ、主語は by を添へて文の終りに置く。

主語	動詞	目的
能動態	Columbus discovered	America.
受動態	America was discovered	by Columbus.

【註】 動詞の目的とは、例へば We see the moon at night. We shall hold our athletic meet the day after to-morrow. 等の

文に於て、moon は see の目的、athletic-meet は hold の目的である。

we, you, they, one などが能働態の主語に用ゐられて、別に特定の人を指さず、只漠然たる意味を表はす時には、之を受働態に變へる場合には大抵主語は省略される。

- { When do you see the moon?  
 { When is the moon seen (by you)?  
 { We see the moon at night.  
 { The moon is seen at night (by us).

3. 受働態の文を能働態の文に變ずるには、Passive の主語を目的にして、by の次にある語を主語に轉じて、動詞の態をかへる。

受働態 You will be scolded by the manager.

能働態 The manager will scold you.

【註】 能働態の形にして文章を作るも、受働態にして文を作るも、動詞の時 (Tense) に變化はない。この一事は初學者の特に注意を要することである。

### Exercise

- (1) 鷲 (eagle [ˈɛɡl̩]) は鳥類の何と云ひますか。鷲は鳥類の王と云はれてゐます。 (2) 獅子は日本に住んでゐますか。 (found を用ゐて Passive Voice の文に譯せ)。いいえ、獅子は熱帯諸國 (tropical [trɒp'ɪçəl] countries) にばかり (only) 棲ん

でゐます。(3) 誰れがこの小包を持つて來ましたか。(能働態の文と受働態の文と兩様に譯せ)。(4) 私は電車 (a street car) で掏摸 (a pick-pocket [pɪk'pɒkət]) に時計を盗まれましたが、その掏摸は巡査に捕へられました。(5) 門 (gate) は何時に開かれ (opened) ますか。門は毎朝七時に開かれます。(6) もう間もなく開かれるでせうか。はい、今數分間の後に (in a few minutes) 開かれるでせう。(7) この寫眞 (picture [pɪktʃə]) は誰れが撮つた (take) のですか。私の従兄弟 (cousin [kʌzɪn]) が撮つたのです。(8) 英語は世界中至るところ (ll over the world) で話されてゐますが、終には (at last) 世界の國語 (language) になるでせうか。(9) いいえ、私はそんなことはないでせうと思ひます。(10) 朝鮮で誰が虎を殺しましたか。虎は加藤清正に殺されました。

### 上の解答

- (1) What do you call the eagle? The eagle is called the king of birds. (2) Are lions found in Japan? No, they are found only in tropical-countries. (3) Who brought this parcel? (Active) By whom was this parcel brought? (Passive) (4) I was

robbed of my watch by a pick-pocket in a street car, but he was caught by a policemen. (5) When is the gate opened? It is opened at seven (o'clock) every morning. (6) Will it be opened soon? Yes, it will be opened in a few minutes. (7) Who took this picture? My cousin took it. (It was taken by my cousin.) (8) English is spoken all over the world. Will it become the world language at last? (9) No, I do not think it will. (become the world language). (10) Who killed a tiger in Chosen? The tiger was killed by Kato-Kiyomasa (Kato-Kiyomasa killed the tiger.)

## LESSON THIRTEEN

Where is your brother now?

(4) (5) (1) (2) (3)

He is now in America.

(1) (5) (2) (4) (3)

Do you often (ôftën) write him a letter?

(7) (1) (2) (6) (3) (4) (5)

Yes, I write him a letter once a week, and he writes

(1) (2) (9) (6) (7) (8) (5) (3) (4) (10) (11) (16)

to me as often.

(15) (14) (12) (13)

Who gave this pretty picture album (äl'büm) to you?

(1) (8) (2) (3) (4) (5) (7) (6)

My brother in America gave it to me as a Christmas

(3) (4) (2) (1) (12) (9) (11) (10) (8) (5) (6)

(kris'mas) present (prës'ent).

(7)

Will you please show it to me?

(7) (1) (2) (6) (3) (5) (4)

Yes, with pleasure. It contains (contäin') many fine

(1) (3) (2) (1) (5) (2) (3)

pictures.

(4)

The lion is a noble-looking (no'ble-löök'ing) animal.

(1) (2) (6) (3) (4) (5)

He is about seven feet long and four feet high.

(1) (10) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (7) (9)

What do you call him?

(3) (5) (1) (4) (2)

We call him the king of beasts.

(1) (7) (2) (5) (6) (4) (3)

What is the eagle called?

(3) (5) (1) (2) (4)

It is called the king of birds.

(1) (7) (6) (4) (5) (3) (2)

Man is called the Lord of Creation.

(1) (7) (6) (4) (5) (3) (2)

What will his father make his son?

(5) (7) (1) (2) (6) (3) (4)

Perhaps his father will make him a business man.

(3) (1) (2) (9) (8) (4) (5) (6) (7)